



東日本大震災
八戸市の記録

第 4 章

応急対策活動

4-1 災害対策本部の活動

1 災害対策本部の設置

災害対策本部は、八戸市地域防災計画で「市内で震度6弱以上を観測し、発表されたとき」又は、「市内で震度5弱、5強を観測し、大規模な被害が発生したとき、又は発生するおそれがあるとき」などの場合に設置することと定めており、設置基準に該当する場合には直ちに設置し、速やかに本部員会議を開催する必要がある。

地震発生直後、文部科学省が設置し独立行政法人防災科学技術研究所が管理している八戸市内丸の強震観測計の表示板は震度7を表示していたが、気象庁が発表した八戸市内丸の震度は5弱であった。いずれにしても最優先で本部員会議を開催しなければならない状況である。

第1回八戸市災害対策本部員会議は、地震発生から14分後の3月11日午後3時から市庁別館低層棟2階会議室Cで開催し、気象庁発表の情報に基づき、震源は三陸沖、マグニチュード7.9、市内の最大震度は南郷区で震度5強、午後2時49分に青森県の太平洋側に津波警報が発表されたことを受けて、1万2千世帯を超える沿岸部の住民への避難指示の発令や避難所の開設が指示され、陸上自衛隊、海上自衛隊、海上保安部などの防災関係機関の連絡員から津波に関する情報などが伝達され、人命救助・災害復旧・避難者救援等の支援については、県を通じて自衛隊に要請することが決定された。

第2回本部員会議は、3月12日午前8時から開催し、3月11日午後5時30分に気象庁が訂正して発表した地震の情報や八戸港での津波の高さ、避難者数、毛布の配布状況、市所管の施設被害の概要、救急搬送の状況、八戸市立市民病院での受入れ患者数や八戸警察署取りまとめの人的被害の状況などが報告された。

また、津波警報(大津波)が継続中であり、引き続き人命救助、沿岸部の警戒などを重点的に実施することや避難指示解除後に沿岸部の被害状況を調査することなどが本部長から指示された。

さらに、第2回本部員会議終了後に、長時間に及ぶ停電により非常用発電機の燃料不足や津波被害により沿岸部の石油コンビナートのタンクから燃料が出荷できないことへの対策を本部長、副本部長、防災安全部長などで協議し国や関係機関などに支援要請する方針が決定された。

また、多賀小学校では、五戸川を遡上した津波が堤防を越流し校庭と校舎の一部が浸水したことから、避難者の移送が必要と判断し、避難者を応急的に収容していた海上自衛隊八戸航空基地内の体育館で避難者を受け入れるよう要請することになり、海上自衛隊のバスで移送した。

第3回本部員会議は、3月12日午後0時15分から開催し、市の施設に関する被害状況が報告されるとともに、臨海部の企業の被害の概要、沿岸部の家屋被害の概要が報告され、津波による被害が甚大であることを把握した。

特に、家屋については、津波による被害が橋向、沼館、江陽、湊、白銀、鯨で甚大であることが報告されたが、災害救助法適用の判断基準となる住家滅失世帯数については、津波警報により詳細な調査が進まない状況では、第5回本部員会議中に速報として100世帯と報告されるまで概数の把握も難しい状況であった。

第4回本部員会議以降は、人的被害や避難者数、応急対策や避難者対応の状況などが報告されるとともに、本部長からは被害調査と応急復旧、被災者支援などについての指示がされた。

しかしながら、津波被害を受けた地域の長期間の停電や3月末まで続く燃料の供給不足などにより、本来、災害対策本部の情報収集や防災関係機関との連絡に使用するため、会議室Bに設置した10回線の電話に市民からの問合せや相談が殺到し、市職員に加え防災関係機関から本部に派遣された連絡員まで市民からの電話に対応することになり、災害に関する情報収集などに支障があった。

第8回本部員会議は3月23日に開催し、災害義援金受付口座を3月16日に開設したことや避難所巡回相談を実施していること、最新の避難者数が281人であることや全壊家屋が218棟に達していること、市内の停電件数や鉄道・高速道路関係の状況やボランティアの実施状況、広報はちのへ4月号別冊「災害特別号」の発行

に関する事などが報告された。

本部長からは、市民からの問合せは減少傾向にあるが引き続き十分に説明することや被災者からの相談については丁寧かつ被災者の心情に配慮した対応を心掛けること、八戸港の航路回復と防波堤の早期復旧を国に要望することや元気づくりのための事業は中止しないようにすることなどの指示がされた。

会議室Cは4月10日に行われる青森県議会議員選挙の期日前投票に使用することになり会議室Cでの本部員会議は第8回が最後となり、対策本部は別館8階研修室に移動した。

第9回本部員会議は、4月5日に開催し本部員の人事異動後初めての会議であり避難世帯応援チームが結成されたことや最新の避難者数が221人であること、岩手県内で死者1人、行方不明者2人の八戸市民の人的被害が発生していることが報告された。

また、被災者から相談先がよく分からないとの意見が寄せられていることを受け、市・県・三八地域県民局毎の主な相談窓口一覧が資料として添付された。

さらに、り災程度の認定基準が変更になり半壊から大規模半壊に変更になる件数が128棟、床上浸水から半壊になる件数が400棟になること、市税の減免、中小企業への金融支援策、三沢基地アメリカ赤十字ボランティアの活動、災害見舞金並びに生活必需品の給付、被災者生活再建支援制度及び災害援護資金貸付制度、被災家屋の解体・運搬支援事業、公営住宅への入居開始、住宅の応急復旧制度、県外からの児童生徒の受入、水道料金の減免・納期限延長、水道水の放射能測定状況などが報告され、具体的な被災者支援策が実施されていることが共有された。

本部長からは、復興を推進するに当たり災害に強いまちづくりを目指すことや国・県の支援の情報収集に努めること、雇用対策の充実を検討することや引き続き被災者の心情に配慮した支援を実施することなどが指示された。

第10回本部員会議は、4月7日午後11時32分に発生した余震対応のため8日午前1時50分から開催し、震源の情報、市内の震度の情報、津波注意報、負傷者などの情報が報告され、不測の事態に備えて待機することになったものの停電している夜間の調査は危険を伴うことから、詳細な情報収集は難しい状況であり、8日午後1時から開催した第11回本部員会議で被害状況が報告されるまで詳細な被害の把握は難しい状況であった。

第12回本部員会議は5月11日に開催し、八戸港における津波の最大波が検潮所付近の建物の痕跡から6.2mに達していたこと、支援物資として提供された米などの食料品の給付受付が4月19日から5月2日まで行われたことや4月30日に避難所を閉鎖し市営住宅等の入居先が決まらない世帯は宿泊施設に入居したこと、岩手県内での八戸市民の人的被害が死者4人、行方不明者1人となったことや全壊家屋が225棟となったこと、引き続き各種の被災者支援策を実施していることなどが報告された。

本部長からは、被災者の心情に配慮し被災者支援を継続することや県が発表した八戸市を含む被害総額は、5月9日現在、831億円となっているが、最終的な被害額の取りまとめに向けて、公共施設の被害や民間事業者などの被害で把握されていないものについて、業界団体の協力を得るなど、早期の報告に努めることが指示された。

また、第12回八戸市災害対策本部員会議終了後に、新たに市長を本部長として設置した八戸市震災復興本部の第1回会議が開催され、八戸市復興計画の策定方針(案)として、策定の目的、復興計画の期間、策定制などが説明され、市民アンケートやパブリックコメントなどにより市民の意見等を反映させ9月末までに計画の策定を目指すこととなった。

避難所が閉鎖される4月30日までは、対策推進班と避難所班については、他部署の職員の動員を受けながら24時間体制を継続しており、従事した職員の緊張と疲労がピークに達していた時期であったが、宿泊施設に入居した世帯を除いては、多くの被災者が自立への一歩を踏み出した時期でもある。

最後の本部員会議となる第15回本部員会議は、平成24年1月17日午前10時から開催し、平成23年4月7日に発生した余震による負傷者を含め、市内での人的被害は死者1人、行方不明者1人、重傷19人(後に18人に訂正)、軽傷52人となったことや住家被害は全壊254棟、大規模半壊181棟、半壊590棟に達していること、JR八戸線は種市駅から久慈駅までの区間が平成24年3月17日に再開を予定していることや主な被災者支援策の状況について報告されて始まり、平成23年12月31日現在の被害額は1,212億3,364万7千円に達していること、被害額の主なものは、水産加工業の被害を含む商工関係が566億8,862万2千円、港湾施設の被害を含む建設

関係が413億1,955万4千円、漁業施設や漁船の被害を含む水産関係が167億7,302万4千円であることが報告された。また、水道企業団榎本副企業長から水道料金の減免の状況や被災家屋解体に係る給水装置切離し工事支援事業の状況、岩手県大船渡市への技術職員の応援の状況が報告された。

防災安全部白川部長からは、震災から10か月が経過し、市内の被害額が判明し応急復旧に一定の目処がついたことから、今回の本部員会議の終了をもって八戸市災害対策本部を廃止することについての提案があり了承された。

本部長からは、より強い、より元気な、より美しい八戸市の実現を目指して復興事業の推進に努めるとことが指示され、東日本大震災により設置された当市の災害対策本部は廃止された。

2 災害救助法の適用

災害救助法とは、災害に際して、国が地方公共団体、日本赤十字社、その他の団体及び国民の協力の下に、応急的に必要な救助を行い、災害で被害を受けた者の保護と社会の秩序の保全を図ることを目的に昭和22年に制定された法律であり、法で定められた災害を受けた市町村に適用される。八戸市は、3月11日に災害救助法の適用を受け、これにより、法に基づく救助を実施することとなった。

災害救助法による救助は都道府県が実施することとなっているが、①避難所の設置 ②炊き出しその他による食品及び飲料水の供給 ③被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与 ④医療及び助産 ⑤災害にかかった者の救出 ⑥災害にかかった住宅の応急修理 ⑦学用品の供与 ⑧埋葬 ⑨死体の搜索 ⑩障害物の除去 の救助について、災害救助法第30条第1項に基づく権限の委任を受け、一部の救助を市で実施した(表1)。

災害救助法の適用期間は各救助によって異なり、災害発生の日から基本的には7日～1か月となっているが、避難所開設期間の長期化や住宅の応急修理の目処が立たなかったことから、国と協議の上、弾力運用により最大で平成23年8月10日まで期間を延長した(表1)。

救助の実施に当たり要した経費は、市が一時的に支払った後、県へ求償した。救助に要した経費は、各救助によって国庫限度額があり、限度額の範囲内で求償することができる。また、救助を行うに当たっての事務的経費についても限度額の範囲内で求償することが可能である。市が県内被災者に対して実施した救助に要した災害救助費は表2のとおりとなった。

また、青森県が支援を要請された岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の5県からの避難者に対し、①収容施設の供与 ②炊き出しその他による食品及び飲料水の供給 ③被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与 ④医療及び助産 ⑤災害にかかった者の救出 ⑥学用品の供与 ⑦埋葬 ⑧死体の処理 の救助を実施するよう、青森県と締結した「東北地方太平洋沖地震の県外被災者支援のための応援要請に関する協定書」に基づき要請され、一部の救助を市で実施した(表3)。県外避難者への救助に要した費用は協定書第6条に基づき、市で一時的に支払った後、青森県へ求償した。市が県外避難者に対して実施した救助に要した災害救助費は表4のとおりとなった。

■ 表1 県内被災者に対する救助の実施状況と適用期間

救 助 の 種 類	適 用 期 間		実施状況
	一 般 基 準	特 別 基 準	
①避難所の設置	災害発生の日から7日以内	平成23年7月10日	実施
②炊き出しその他による食品及び飲料水の供給	災害発生の日から7日以内	平成23年7月10日	実施
③被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与	災害発生の日から10日以内	平成23年5月31日	実施
④医療及び助産	災害発生の日から14日以内	－	－
⑤災害にかかった者の救出	災害発生の日から3日以内	－	－
⑥災害にかかった住宅の応急修理	災害発生の日から1か月以内	平成23年8月10日	実施
⑦学用品の供与	災害発生の日から15日以内	平成23年5月24日	実施
⑧埋葬	災害発生の日から10日以内	－	－
⑨死体の搜索	災害発生の日から10日以内	－	－
⑩障害物の除去	災害発生の日から10日以内	平成23年6月30日	－

■ 表2 県内被災者に対する災害救助費

平成24年12月31日現在

(単位：円)

種目別区分	員 数	市町村実支出額		国庫負担限度額		求償額	
		単価	金額	単価	金額		
1 救助費						186,032,061	
①収用施設供与費							
	避難所設置費① ※1	延31,786人 延288人	104 3,354	3,317,864 966,000	300 5,250	9,535,800 1,512,000	3,317,864 966,000
	避難所設置費② ※2	延34,729人	512	17,794,297	512	17,794,297	17,794,297
②炊き出しその他による食品給与費	延33,110人	998	33,056,050	1,010	33,441,100	33,056,050	
③被服寝具その他生活必需品給(貸)与費	890世帯		20,904,302		21,142,700	20,904,302	
⑥住宅の応急修理費	233世帯	463,021	107,883,954	520,000	121,160,000	107,883,954	
⑦学用品の給与費			133,567		160,000	133,567	
	小学校児童	28人	3,398	95,141	4,100	114,800	95,141
	中学校生徒	7人	4,014	28,100	4,400	30,800	28,100
	高等学校等生徒	3人	3,442	10,326	4,800	14,400	10,326
⑩障害物の除去費	0世帯	0	0	0	0	0	
⑪輸送費			1,470,587		1,470,587	1,470,587	
⑫賃金職員等雇上費			505,440		505,440	505,440	
2 事務費 ※3			19,374,695		14,992,244	14,992,244	
計						200,954,305	

※1 避難所設置費①の下段は、宿泊施設を一時的に避難所として使用した際の費用

※2 弾力運用により実費を加算額として請求

※3 事務費の国庫負担限度額は、下記のとおり、救助費総額に応じ、それぞれ割合を乗じて得た額を算出

救助費総額：186,032,061円

(単位：円)

区 分	区分該当金額	割合	国庫負担限度額
3千万円以下	30,000,000	0.10	3,000,000
3千万円超6千万円以下	30,000,000	0.09	2,700,000
6千万円超1億円以下	40,000,000	0.08	3,200,000
1億円超2億円以下	86,032,061	0.07	6,022,244
2億円超3億円以下	0	0.06	0
3億円超5億円以下	0	0.05	0
5億円超	0	0.04	0
合 計	186,032,061		14,922,244

■ 表3 県外避難者に対する救助の実施状況と適用期間

救 助 の 種 類			適 用 期 間						八戸市での 実施状況
			一般基準	特 別 基 準					
				岩手県	宮城県	福島県	茨城県	千葉県	
1	収容施設の供与	避難所 仮設住宅	災害発生の日 から7日以内	H24.2.29	H23.12.31	H23.10.31 H24.12.28	H23.11.30	H23.10.31	実施
2	炊出しその他による食品 の給与及び飲料水の供給	食品 飲料水	災害発生の日 から7日以内	H24.2.29 H23.9.10	H23.12.31	H23.10.31	H23.11.30	H23.10.31	実施
3	被服、寝具その他 生活必需品の給与及び貸与		災害発生の日 から10日以内	H23.9.10	H23.12.31	H23.10.31	H23.11.30	H23.10.31	実施
4	医療及び助産		災害発生の日 から14日以内	H23.9.10	H23.12.31	H23.10.31	H23.11.30	H23.10.31	-
5	災害にかかった者の救出		災害発生の日 から3日以内	H23.9.10	H23.12.31	H23.10.31	H23.11.30	H23.10.31	-
6	学用品の供与		災害発生の日 から15日以内	H23.9.10	H23.12.31	H23.9.30	H23.11.30	H23.10.31	実施
7	埋葬		災害発生の日 から10日以内	H24.3.31	H23.12.31	H23.11.30	H23.11.30	H23.10.31	-
8	死体の搜索及び処理	搜索 処理	災害発生の日 から10日以内	H24.2.29 H24.3.31	H23.12.31	H23.11.30	H23.11.30	H23.10.31	-

■ 表4 県外避難者に対する災害救助費

平成24年12月31日現在

	岩 手 県	宮 城 県	福 島 県	茨 城 県	計
応急仮設住宅設置	103,740円	1,153,535円	771,469円		2,028,744円
食品給与	5,724円	10,174円	74,823円		90,721円
生活必需品給与*	608,896円	1,239,469円	2,984,308円	12,000円	4,844,673円
学用品給与	12,300円	28,874円	55,184円		96,358円
事務費	159,436円	403,747円	678,280円	3,138円	1,244,601円
計	890,096円	2,835,799円	4,564,064円	15,138円	8,305,097円

※災害救助法の対象外経費である暖房器具の給与費含む

4-2 消防本部の活動

1 消火活動

原稿提供：八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部

地震・津波発生後1週間に発生した火災は、八戸広域圏内において12件であり、内訳としては建物火災7件、及び車両火災5件であった。

震災当日に発生した建物火災1件は、明かりをとるため使用していたローソク火により出火し、木造住宅1棟を全焼したものである。

車両火災のうち4件は津波により浸水した電装部が短絡して発生したものである。

消火隊の活動としては、津波による被災地域での火災が多数を占め、直近への部署ができないことや、消火活動中の津波襲来により一時避難を余儀なくされるなど、困難を極めた。

■ 火災発生状況(震災との関連性を考慮せず全て計上)

(単位：件)

区分	3月11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18～24日	25～31日
建物	1	4		1		1		1	2
その他	3	1				1		2	

2 救助活動

救助隊の活動としては、そのほとんどが津波の襲来により一般家屋や工場、橋、車両に取り残された住民等の救助であった。このうち、自宅周辺の冠水により2階に取り残されていた住民を、隊員が背負い搬送にて救出した事案のほかは、津波浸水区域から安全な場所へ避難させたものである。また、救助隊が現場に到着した時点で既に自力脱出済みの現場もあった。

要請を受け現場まで進行する際、津波による浸水により消防車両の現場進行が困難となる場面があった。

また、橋に取り残された人の救助では、八太郎大橋の橋上で立ち往生していた人の避難誘導中に水位が上昇、橋の両端が冠水し、隊員を含め23人が取り残されるという事案があった。当初、橋の一方のみが冠水していたため反対側へ避難誘導を続けていたものであるが、津波が押し寄せ、水位が上昇してくる中、隊員は最後まで避難誘導を続けるべきか、退避するべきか、職務の責任感との葛藤の連続であった。

隊員は避難誘導を続けることを選択し、八太郎大橋の両端が冠水するまで活動が続けた後、橋の一番高い場所で車載の全てのロープを橋の欄干に結着して命綱として備えるなど、津波に対するできる限りの対策を行った。間もなく、津波の最大波が襲来し、橋を飲みこむほどの勢いで水位が上昇。橋桁の直下に迫ったところで上昇が止まり、難を逃れることができた。

波が引き始め、隊員と要救助者は危険回避のため、付近の工場内へ避難し津波の終息を待った。冠水していた道路の水位が下がり、車での脱出が可能になったところで、大津波警報が発令中であるが、「内陸部へ脱出するか」「この場に残るか」を隊員と要救助者が話し合い、内陸部へ脱出することを決断。橋上に戻り、要救助者は大型トラックに乗り合い、八太郎トンネルから内陸部へ、全員が無事に脱出することができた。

■ 救助件数及び救助人員(震災との関連性を考慮せず全て計上)

(単位：件、人)

区分	3月11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18～24日	25～31日
件数	10	1	1	1				2	4
人員	50	1		1				1	3

3 救急活動

救急隊の活動の大半は消防隊又は救助隊と協力しての活動であったが、救急隊単独の活動のなかには、乗客約300名を乗せ地震の影響によりトンネル内で走行不能となった新幹線内で発生した急病人4名を搬送するという事案があった。救急車3台が出動したが、部署できる位置は、新幹線が停車している地点から300m以上離れており、トンネル内の照明が消えている中をメインストレッチャー及びトロッコで搬送し収容した。

また、これ以外に、津波により自宅が浸水し取り残された住民が、低体温症になる事案があった。傷病者は自宅2階に避難していたが、自宅は1m浸水しており、1階からの進入が不可能であったため、約3m高台の隣家敷地に救急車を部署し、隣家のフェンスから傷病者宅の屋根にアルミはしごを架けて屋内進入した。傷病者を毛布で保温後、スクープストレッチャーに寄せ、はしご上を滑らせ隣家敷地に移動させた。

■ 救急件数及び搬送人員(震災との関連性を考慮せず全て計上)

(単位：件、人)

区分	3月11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18～24日	25～31日
件数	69	75	64	42	41	42	40	235	227
搬送人員	73	74	60	41	40	39	39	225	222

4-3 自衛隊の活動

1 陸上自衛隊八戸駐屯地の活動

原稿提供：陸上自衛隊八戸駐屯地

前 言

大地震発生後、政府・防衛省は3月11日午後2時50分、災害対策本部を設置、北沢防衛相は状況の把握と情報収集に万全を期すよう大臣指示を発出した。自衛隊は被災した各県からの支援要請を受け、大規模災害派遣行動命令を発出し東北方面隊を主力に災害派遣部隊を各地に派遣した。さらに、3月14日には陸海空災害派遣部隊の一元的な指揮のため東北方面総監を指揮官とする陸海空統合任務部隊(JTF-TH)を編成し、10万人規模の災害派遣態勢で救援活動を開始した。また3月16日には予備自衛官及び即応予備自衛官の災害等招集命令が発令された。

陸上自衛隊八戸駐屯地各部隊は、発災後、速やかに航空部隊による情報収集活動を開始し、沿岸地域の自治体へ連絡要員を派遣するとともに、地上偵察を実施した。

各部隊は、地元八戸市から岩手県・宮城県に至る沿岸部において人命救助・行方不明者の捜索活動、給水・給食・燃料・入浴・救援物資輸送等の生活支援、道路の復旧・がれきの除去等の応急復旧支援活動を主体として138日間の活動を終了し7月26日、無事に帰隊した。この間、駐屯地は北部方面隊からの増援部隊及び災害等招集命令による予備自衛官等の受入れを実施した。



航空科部隊による情報収集活動
3月11日15:00頃



八戸市庁等への連絡要員派遣
3月11日16:00頃



被災地等への移動開始
3月11日19:30頃



北部方面隊増援部隊の集結開始
3月17日16:00頃

八戸市への派遣

陸上自衛隊八戸駐屯地は、3月11日から3月16日まで、八戸市災害対策本部へ連絡要員を派遣し緊密に連携しながら支援要請に対応した。

駐屯地は、第4地対艦ミサイル連隊を主力部隊として、3月12日から3月31日まで、①炊き出し支援、②弁当の輸送支援、③港湾の災害ごみ除去等の救援活動、④生活物資の輸送支援による応急復旧活動を実施した。

八戸市は、地震津波の被害により高速道路・鉄道・港湾施設等のインフラが損傷を受け、物資の輸送が滞っており、燃料の確保が困難なためごみの処理、物資の輸送に不便を来していた。また、高速道路は、緊急車両を除き、通行を制限されていた。

災害対策本部への連絡要員の派遣

第4地対艦ミサイル連隊は、発災後、速やかに連絡要員を派遣し、3月11日から3月16日まで災害対策本部において、被害状況の収集と市からの支援要請に対応した。



八戸市長と駐屯地司令(3月12日)



災害対策本部で支援内容を調整

①炊き出し支援

自衛隊は、断水や停電によりライフラインが機能しない中で長根公園内に3月12日から16日まで、17名の隊員と炊事トレーラを配置し、延べ5,000食の炊き出し支援を実施した。

- 第4地対艦ミサイル連隊
- 第303高射直接支援中隊



長根公園での活動状況

②弁当の輸送支援

震災で燃料の確保が困難なため物流が機能しない中で、八戸市体育館に3月14日から15日まで20名の隊員と車両6両により、延べ5,600食の配送を実施した。

- 第4地対艦ミサイル連隊



長根公園への集積状況

③港湾の災害ごみの除去等

港町である八戸市の美しい海岸線の復旧を願い、津波の被害で散乱したテレビの回収を3月15日、隊員61名、車両7両で支援を実施した。

- 第4地対艦ミサイル連隊

同じく、津波の到達により土砂やごみに埋もれた八戸大橋の土砂の除去を3月15日、隊員40名で支援を実施した。

- 第4地対艦ミサイル連隊



八太郎1号埠頭での活動



八戸大橋付近での活動

また、発災後、直ちに市災害対策本部へ派遣した陸自・海自連絡班を通じて、津波で山積みとなった災害ごみの撤去を陸自の輸送部隊と海自の機動施設隊とが協同連携し、3月20日から21日、延べ人員28名、延べ車両14両で支援を実施した。

- 第4地対艦ミサイル連隊
- 第9施設大隊



陸自・海自による協同支援

④生活物資の輸送支援

市の要請により、同じ三陸沿岸都市として、より被害が大きい岩手県釜石市へ少しでも力になりたい思いを乗せて、支援物資(水、食品、日用品等)を3月16日、人員94名と車両34両で輸送支援を実施した。

- 第4地对艦 ミサイル連隊
- 第303高射直接支援中隊
- 第102特科直接支援隊



長根公園での積載状況

八戸市災害対策本部の同行者とともに、支援物資の輸送支援を実施した。

八戸市からの熱い思いを手から手へと岩手県釜石市の被災者へ届けた。



八戸市から釜石市へ支援物資の受渡し



釜石市避難所への配送状況

また、より深刻なゆかりのある被災地へ、支援物資の一部(食料品、日用品等)を八戸市の要請により岩手県宮古市、岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市へ3月22日から25日、人員40名、車両17両で輸送支援を実施した。

- 第4地对艦 ミサイル連隊



3月22日長根公園での積載状況

3月24日、八戸市政策推進課の同行者とともに、支援物資(水、食料品、日用品等)を岩手県宮古市へ輸送支援を実施した。

更に、岩手県釜石市に対する食料品の内、副食の不足について市災害対策本部から要請を受け防災安全部次長とともに支援物資(惣菜調理食品、缶詰5種類)を3月30日、人員10名、車両3両で輸送支援を実施した。

- 第4地对艦ミサイル連隊



八戸駐屯地から物資を輸送する状況



長根公園での積載状況

〈参考資料〉

小林市長からの激励

駐屯地は、3月23日、小林市長から「東日本大震災」に係る八戸市への応急復旧支援に対するお礼と被災地で黙々と揺るぎない信念と気概をもって活躍する隊員への激励を頂いた。



小林市長からの激励

被災地の確認

駐屯地は、7月8日に奈良岡副市長を始め市災害対策本部の方々から陸自ヘリで復興に向けた八戸港と国の事業として計画されている三陸復興国立公園の起点となる「燕島」周辺の美しい種差海岸を確認して頂いた。

また、被災地で活動する隊員への激励を頂いた。

○第4地对艦ミサイル連隊

○第9飛行隊(UH-1×1)



八戸市の被害状況を確認

2 海上自衛隊八戸航空基地の活動

原稿提供：海上自衛隊八戸航空基地

海上自衛隊八戸航空基地は、東日本大震災発生直後、津軽海峡東方沖を飛行していた哨戒機P-3Cを、地震被害の状況確認に向かわせた。その後、逐次哨戒機P-3Cによる地震被害の偵察や、津波による漂流者の捜索・救助活動、生活支援、救援物資の輸送等を全力で実施した。

3月11日(金)の地震発生から約1時間が過ぎた午後4時頃、海上自衛隊八戸航空基地周辺では、1,000人以上が沿岸部から高台の基地周辺へ歩いて避難しており、車両100台以上が渋滞を引き起こしていた。周辺の道路は一本道で、車がすれ違えない状況になっていた。海上自衛隊第2航空群司令の判断で市の避難所ではなかったが、急きょ東門を開放して避難者を次々と基地内に受け入れ、基地体育館を避難所として開設し、地震発生当日の3月11日から4月18日までの間約6,000人の被災された方々を基地内の体育館を避難場所として提供し、給食、通学、入浴、診療、メンタルケア支援を実施した。

3月11日(金)八戸港内では、市立中居林小5年生と教職員計52人が地球深部探査船「ちきゅう」に乗船中に被災。12日(土)午後2時3分海上自衛隊大湊航空基地の救難ヘリコプターで海洋研究開発機構(JAMSTEC)の職員等含む80人を救助し、八戸航空基地まで運んだ。

機動施設隊は、八戸市の要請により、市内でのがれき等の集積・撤去・運搬作業支援を3月19日から4月15日の間延べ人員約539人、ダンプカー(10t)約420台分の災害ごみの搬送を実施。

また、震災直後から3月25日まで八戸市庁、北稜中学校及び長根公園へ、連絡員、物資積み込み作業のため延べ156名の隊員を派出、また、福島第一原子力発電所へ放水関連作業支援のため4月17日から4月25日まで隊員7名を派出した。

1954年(昭和29年)の自衛隊設立と予備自衛官発足以来、初めての予備自衛官が八戸航空基地に召集された。任期は4月25日から5月1日までの1週間。召集されたのは、青森市の予備自衛官、内山博(55才)。主な任務は、基地内の設備や道路などの補修や点検を行い、緊急時に部隊がすぐ展開できる態勢を整えた。

八戸航空基地内体育館に、被災者支援のため多数のボランティアが、健康管理、食糧支援、音楽演奏等のため体育館を訪れました。主なボランティア支援は、自衛隊OBによるせんべい汁の炊き出し、海上自衛隊大湊音楽隊によるふれあいコンサート、市内在住の歌手の歌披露、光星学院高校チアリーディング、光星学院高校吹奏楽部、よさこいさめ組が被災者を励ました。

大規模震災から1年以上が経過し、八戸市内も震災前の状態に戻りつつあります。今回得られた貴重な教訓を風化させることなく、今後の大規模災害に備えるには、行政と連携して地域ごとのソフト(人)面の態勢整備が極めて重要と認識した。

■ 海上自衛隊八戸航空基地の初動対応

日	時	活動内容等	備考
3月11日	14:46	東北地方太平洋沖地震 震度7：宮城県栗原市 震度6強：宮城県、福島県、茨城県、栃木県 震度5強：八戸市	地震直後から市内全域停電 (3月12日 市内順次復旧)
	14:49	津波注意報(1m)発表	(青森県太平洋岸)
	14:56	警戒監視任務中のP-3C「5045号」の任務を変更し、津軽東口からいわき市以北の海岸線付近の状況偵察を実施	

日	時	活 動 内 容 等	備 考
	15:05	八戸市避難所開設、避難指示	
	15:14	大津波警報(3m)へ切り替え	(青森県太平洋岸)
	15:48	三菱製紙(海岸沿い)方面からの避難者 人員:約100~150人、車両:約100台	官舎地区内に車両を誘導
	16:00	道路渋滞、津波被害を考慮し、避難車両の基地内受入れを開始	
	16:51	最大波 2.7m以上 (6.2m:痕跡等から推定した津波の高さ、4/5気象庁発表) (報道:三菱製紙八戸工場、階上町8m超 3/18国交省調査)	(青森県太平洋岸)
	18:25	八戸市から、北稜中の避難者の基地内受け入れ要請	2空群司令 承諾
	18:40	北稜中の避難者受入を開始	マイクロバス 2台・20往復
	20:40	八戸市から、多賀小の避難者の基地内受入れの可否について確認あり	2空群司令 承諾
	21:31	北稜中にて給湯支援を開始	
	22:00	多賀小からの避難者受入を開始	大型バス 1台・3往復
	22:05	八戸市との連携を効率的に行うため連絡幹部2名を派出	当初、市と連絡が取れなかった
	22:51	多賀小からの避難者収容完了 約170人	
3月12日	0:00	基地内避難者 北稜中学校から 約 600人 多賀小学校から 約 170人 その他 約 230人 計 約1,000人	車両:約170台 (車中泊人数不明)
	20:20	大津波から津波警報(高いところで2m)へ切り替え	(青森県太平洋岸)
3月13日	7:30	津波警報から津波注意報へ切り替え	(青森県太平洋岸)
	17:50	津波注意報解除	(青森県太平洋岸)
	18:02	八戸市避難指示解除	

被災住民に対する支援実績

○受入人数(23.3.11~4.18)

受入数累計	備 考
5,967名	最大時:1,003名/1日

○主な支援実績(23.3.11~4.18)

支 援 内 容	累 計	備 考
給食支援	4,234食	・缶飯、冷凍おにぎり、レトルト牛丼等
	504食	
車両支援	38回/156人	児童通学支援
入浴支援	1,589人	男湯798人 女湯791人
診療支援	115人	うち、八戸市民病院への搬送5人
メンタルケア	1,184人	部隊相談員、衛生員により実施

派出隊員の状況

八戸市庁	3月11日~3月28日	1~2名(延べ32名)	連絡員
北稜中学校	3月11日~3月14日	8~9名(延べ34名)	連絡員、湯炊き支援等
長根公園	3月15日~3月25日	8~9名(延べ90名)	物資積み込み、仕分等支援
福島第一原子力発電所	4月17日~4月25日	7名	放水関連作業



海上自衛隊から2名の連絡官を派出（延べ32名派出）



物資の仕分作業の様子（延べ90名の作業員を派出）



海上自衛隊から7名を福島Jビレッジ、郡山駐屯地へ派出

機動施設隊の活動

活動内容	場所	日程	人数等
災害ごみ処分支援・業務調整	八戸市庁	3月19日	1名、業務車1台
〃	新湊付近	3月20日～21日	延べ70名、トラクターショベル等
〃	市川地区	4月4日～15日	延べ134名、トラクターショベル等
米海軍油槽所応急復旧支援	河原木	3月22日～29日	延べ125名、ダンプトラック等
応急復旧支援・業務調整	岩手県庁	3月19日～31日	延べ209名、ユニック等
応急復旧支援・業務調整	岩手県久慈市、 野田村、田野畑村	3月21日	3名、業務車1台
応急復旧支援・業務調整		3月24日	3名、業務車1台

物資輸送支援(八戸 3月12日～4月14日)

物資総トン数	作業延べ人数	作業延べ時間	支援車両延べ台数	支援航空機	支援内容
91.86トン	562人	27.2時間	カーゴリフター ×8 4tトラック ×16 フォークリフト×45	MH-53E、MCH-101 US-2、YS-11M UH-60J、SH-60J 米軍HS	・卸下／搭載 ・集積 ・仕分作業 ・リスト作成



支援物資集積状況



物資搭載状況



米軍HS物資卸下状況

避難所となった体育館における各団体による支援

支援内容	支援の詳細
健康管理等	八戸市保健所員による巡回 インストラクターによるストレッチ体操 整体師による支援 マッサージ師による支援 三沢米空軍による衛生支援 入浴支援（グランドサンピア、古牧温泉）
炊き出し等食料支援	海自OB会によるせんべい汁の炊き出し 有志によるせんべい汁の炊き出し 有志によるラーメンの炊き出し たい焼きの提供 ㈱大山漁業による食料品提供 ㈱リゾット・ドットコムによる食料品提供

支援内容	支援の詳細
音楽演奏等	海自大湊音楽隊による演奏 光星学院高校吹奏楽部による演奏及びチアリーディング披露 有志団体によるよさこいソーラン演舞 有志によるバイオリン演奏 有志によるハーモニカ演奏
物資支援	八戸薬剤師会による衛生用品の提供 八戸市による衛生用品等の提供
その他の支援	八戸市建築指導課による支援 県動物愛護団体による支援 弁護士による相談支援 避難世帯応援チームによる支援

初期の避難住民収容の編成(延べ支援者数 39日間で1,156人)

被災者支援班	派出人数		任 務
	長	1人	リーダー（責任者）
	同補佐	4人	リーダーの補佐、災害対策本部（八戸市）との連絡調整
	班 長	1人	支援班員のまとめ
	案 内	3人	避難者の受入れ場所までの案内、誘導及び引率
	受 付	5人	受入れ場所での受付、グループ分け支援、被災者の要望の受付 収容被災者名簿及び被災者調査票の記入
	生活支援	21人	救援物資の配布、救援情報の伝達、掲示、救護案内、生活支援、その他 (23.3.11) 21名、2交代 総計42名 (23.3.12～3.14) 7名、6交代、3日 総計126名 (23.3.15～4.18) 13名×34日 総計442名

3 地球深部探査船「ちきゅう」からの児童の救出

平成23年3月から5月にかけて、文部科学省の最先端研究基盤事業の一環として、独立行政法人 海洋研究開発機構が、八戸港を拠点に地球深部探査船「ちきゅう」による下北八戸沖石炭層生命圏掘削調査の実施を予定していた。

「ちきゅう」は3月7日に八戸港に入港し、その特別公開のため、中居林小学校5年生児童48名、校長含む教諭4名の計52名が乗船中に、東日本大震災が発生。

大津波警報が発令されたことから、「ちきゅう」は危険回避のため上記52名を乗せたまま緊急離岸し、その後、警報解除の目途が立たないため八戸港内に一晩停泊することとなった。

翌3月12日12時30分に、「ちきゅう」乗船中の上記52名を陸上に戻すため、青森県知事を通じて海上自衛隊大湊地方総監部に対して災害派遣を要請。

同日午後3時頃に、海上自衛隊ヘリコプター1機で、同船の52名を海上自衛隊八戸航空基地に搬送。その後、同航空基地マイクロバス2台で中居林小学校に無事に帰校した。

4-4 海上保安部の活動

1 八戸海上保安部の活動

原稿提供：八戸海上保安部

海上保安庁における活動状況の概要

海上保安庁では、平成23年3月11日午後2時46分の地震発生直後、本庁及び各管区海上保安本部(11か所)等に災害対策本部等を設置するとともに、東北地方において大規模な被害の発生が予想されたことから、午後3時14分、「海上保安庁防災業務計画」に基づく「日本海溝型地震に係る動員計画」を発動し、全国から第二管区海上保安本部(宮城県塩釜市)管内に向けて、巡視船艇・航空機・特殊救難隊等(第一次動員勢力)を急行させた。

その後、津波による被害が甚大かつ東北地方太平洋沿岸の全域に及んでいることが判明したため、午後4時40分、追加勢力である第二次動員勢力の発動を命じるとともに、本庁配備の測量船5隻についても、同海域への派遣を指示した。

第二管区海上保安本部災害対策本部は、これらの動員船艇等により各災害現地対策本部にそれぞれ船隊を編成させ、各船隊指揮官(現場指揮官)の下、海上部及び陸上部の孤立者の救助、行方不明者の搜索、緊急輸送路の確保、被災港湾の測量、航路標識の復旧、漂流船舶の曳航救助、航路障害物の除去、被災者支援等の震災対応業務を行ってきた。また、航空勢力については、被災した仙台航空基地に替わる運用拠点等を早期に確保した上で、同管区本部災害対策本部が指揮・運用を行い、船隊等と連携して震災対応業務に当たった。

動員勢力は、最大で1日当たり巡視船艇等54隻、航空機19機であり、平成25年1月末現在も行方不明者搜索等を継続している。なお、平成25年1月14日までの延べ動員数は次のとおり(巡視船艇等には測量船、航路標識測定船を含む)。

巡視船艇等20,282隻 航空機6,580機

特殊救難隊1,261名 機動救難士832名 機動防除隊410名

八戸海上保安部の対応

八戸海上保安部は、津波により入居する港湾合同庁舎が浸水したが、地震発生後直ちに現地対策本部を設置し、所属巡視船艇を緊急出港させ、八戸港内の船舶に対し、避難広報・避難誘導等を実施した。

また、八戸市始め各自治体に連絡要員を派遣し、情報の収集・各種調整等を行うとともに、所属巡視船艇及び全国から派遣された巡視船艇・航空機による海上部及び陸上部の孤立者の搜索、行方不明者の搜索、緊急輸送路の確保、被災港湾の測量、航路標識の復旧、漂流船舶の曳航救助、航路障害物の除去、被災者支援等を実施した。

(1) 関係機関との連絡調整

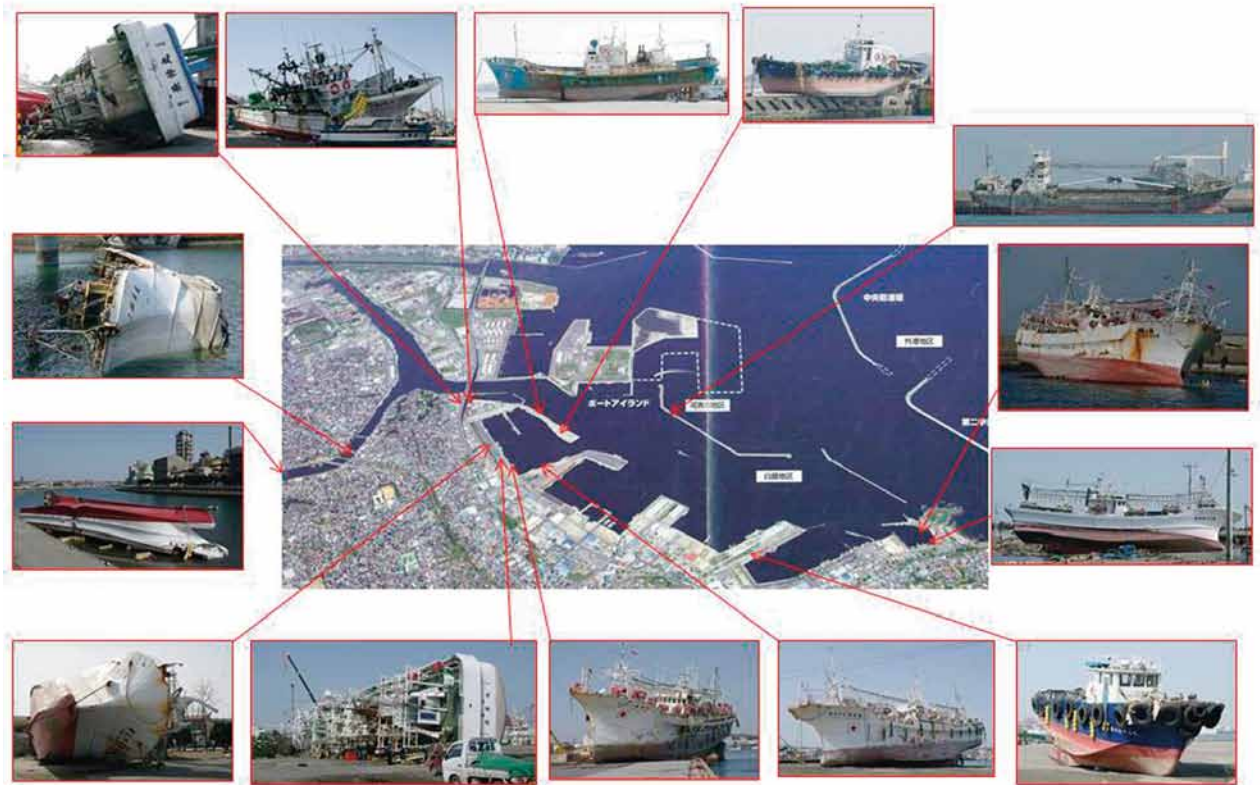
平成23年3月11日午後2時46分の地震発生直後から八戸市庁に2名、久慈市役所に2名、三沢市役所(3月12日)に2名の連絡要員を派遣し、災害対策本部会議への出席、被害状況等の情報収集及び連絡調整を実施した。



八戸港内の被害状況

八戸港乗揚げ船

平成23年3月20日現在



(2) 被害状況調査及び被災者の搜索、救助活動

3月11日午後2時46分の地震発生直後、直ちに所属巡視船しもきた・まべち、巡視艇むつかぜ・むつぎくを緊急出港させ、八戸港内の船舶に対する避難広報・避難誘導を実施。また、現地対策本部の所属船艇により、青森船隊を編成し、港内外の被害状況調査を行うとともに、避難した船舶の警戒監視等に当たった。

同日午後3時14分には、「海上保安庁防災業務計画」に基づく「日本海溝型地震に係る動員計画」が発動され、全国の巡視船艇・航空機が第二管区海上保安本部の各部署に派遣された。

八戸海上保安部では、人命救助を最優先として、順次到着するヘリコプター搭載型大型巡視船、潜水士が配置された救難強化巡視船を始めとした巡視船艇及び搭載艇並びに第二管区海上保安本部に派遣された固定翼航空機、巡視船搭載ヘリコプターにより、八戸海上保安部の管轄である青森県下北郡東通村から岩手県九戸郡野田村までの沿岸部被害状況調査、津波により沖合に流された海面漂流者及び漂流しているがれき・船舶、陸上沿岸部の建物等に取り残された可能性のある孤立者の搜索救助等を実施した。

また、自治体等に派遣した連絡要員からの情報により、御家族からの要望を受け、3月14日から、派遣された救難強化巡視船の潜水士等による行方不明者の潜水搜索を実施するとともに、陸上から接近困難な消波ブロック内等の搜索を実施した。

さらに、漂流した多数の船舶については、津波によってはるか沖合に流されたものもあり、巡視船艇又はヘリコプターから潜水士を降下させる等により、生存者の有無を確認した。

(3) 被災者支援

平成23年3月12日、沖合に避難した漁船乗組員の御家族からの要請を受け、漁業無線局を通じて同漁船



3/14八戸市沖東36km、漂流するライフラフトで生存者の有無を確認する潜水士



3/15野田湾十府ヶ浦の消波ブロック内を搜索する潜水士

の所在を確認し、巡視艇による乗組員へのインシュリン等の医薬品の搬送、八戸市災害対策本部から供給された食料・飲料水等の搬送を実施した。医薬品等の搬送は、3月13日午前7時30分の津波警報の解除により、沖合に避難した漁船が港に入港できる状況となるまで実施した。

また、4月15日八戸港において、青森県に対し、巡視船はかた(福岡海上保安部所属)による身体保護・緊急搬送用マット50枚の支援物資の搬送を実施した。



巡視船はかたによる支援物資搬送

(4) 航行安全の確保

① 緊急輸送路等の確保

八戸港内に多数の漁船やコンテナ等が漂流・沈没している中、航路の早期啓開を図るため、震災直後から八戸港管理所、八戸港湾・空港整備事務所、八戸市等の関係機関に対し、関係機関間において十分な情報共有、調整等について働きかけ、港内の水路測量と航路障害物の調査及び除去作業を分担して効率的に行った。



3/16八戸港内の水深を測量中の測量船「昭洋」搭載艇



八戸海上保安部の担当測量範囲

平成23年3月19日、各関係機関による測量・調査結果から、一定条件を満たした船舶の入港を認めるとともに、以後、測量や障害物撤去作業の進捗に合わせ、安全に航行できる水域及び使用可能岸壁を拡大し、公表した。

これにより、緊急物資の輸送船、さらにはライフラインに係るガソリン・LNGの輸送船等が順次入港することとなり、物資の緊急輸送路が確保された。



八戸大橋下を通過するLNG船

また、これらの船舶の入出港に際し、八戸海上保安部では、港則法に基づく入出港届等をFAXや電話連絡で受理する等の弾力的な運用を行い、手続きの円滑・迅速化を図った。

② 安全情報の提供

八戸港利用者や付近航行船舶に対して、震災に起因すると思われる漂流船舶等の航路障害物の情報を無線放送による航行警報等で提供し、注意を促す一方、関係機関による測量や障害物除去に伴う港内の最新情報をFAX、水路通報及びMICS(沿岸域情報提供システム)により提供した。

また、3月16日～18日、7月18日～8月5日に実施した測量船「昭洋」と「天洋」による水深測量結果については、八戸港情報図(第二管区海上保安本部作成)として八戸港利用者等に配付した。



測量船「天洋」



測量により発見された海底の沈船



八戸港情報図

八戸海上保安部の今後の活動

八戸海上保安部は、引き続き海上における治安の維持、海難への対応、復旧・復興工事の安全対策及び安全指導を的確に実施するとともに、地域ニーズの把握に努め、八戸そして東北の海の安全と安心を守ってまいります。

1 八戸警察署の活動

原稿提供：八戸警察署

発災直後の警察活動

(1) 災害警備本部設置

午後3時に、署長以下200名体制で八戸警察署災害警備本部を設置。

(2) 活動状況

①避難広報及び避難誘導

災害警備本部設置と同時に避難誘導班10班を編成。警察官90名・車両32台を沿岸部に出勤させ、沿岸住民及び漁業者などへの避難広報及び避難誘導を実施。

②災害弱者及び自力避難困難者対策

高齢者、障がい者などの災害弱者及び自力避難困難者の発見及び救出活動を実施。

③交通規制

交通規制班18班を編成し、沿岸部に通じる主要交差点18か所で通行止めなどの交通規制を実施。

④滅灯信号機対策

停電による滅灯信号機対策として警察官を各主要交差点に配置し、避難路確保及び渋滞対策のために交通整理を実施。

⑤被害調査

当署管内被害調査班10班20名を編成し、建物倒壊、道路損壊及び土砂崩れなど危険箇所把握に努めるとともに、関係機関と連携した被害拡大防止対策を実施。

⑥八戸警察署員による救出事例

ア)負傷により逃げ遅れた男性を救助

種差地区において津波で負傷、逃げ遅れた男性を背負い、300m先の高所に避難させ救助。

イ)津波の接近に気付いていなかった市民をパトカーで救出

市川町地区において大津波襲来に気付かず、車両を修理していた男性をパトカーで安全な場所まで避難させ救助。

ウ)館鼻漁港における避難広報及び誘導

館鼻漁港周辺では、沿岸部を離れようとする地域住民や、警察官の警告を無視し沿岸部に近づこうとする市民が多数おり、現場の警察官はこれに対し毅然とした態度で粘り強い説得を行い、大津波が迫りくる中、避難広報及び誘導を実施した。

エ)立木につかまっていた女性を救出

浜市川地区において、津波により1mほど浸水している状況の中で、現場警察官が立木につかまり救助を求めている50歳代の女性を発見。同女性を背負い、高台まで避難させ救助した。

⑦応援部隊(広域緊急援助隊)による救助活動

警備部機動隊に対し、広域緊急援助隊災害警備派遣を要請。

八戸市に到着した同隊は、沿岸部工場内に取り残されていた要救助者22名を救出。

沿岸部を中心とした活動を展開、災害弱者及び自力避難困難者の発見、行方不明者捜索に従事

⑧防犯活動

津波被害による家人不在所帯への空き巣や、停電などによる犯罪抑止を目的に、市内全域に対するパトロールを実施、警戒を強化。

⑨関係機関との連携

震災後、八戸市庁及び階上町役場に警察官を連絡要員として派遣。情報共有と迅速・的確な事案対応を図るべく自治体・防災関係機関と連携。

発災後の警察活動

(1) 行方不明者及び安否不明者対策

当署管内及び被災地での安否不明者対策専従班として10名を編成し、安否確認のための調査及び他県への照会を実施。

また、安否確認専用電話を開設し、ホームページにて周知。

(2) 防犯活動

八戸警察署員のほか、県警本部地域課、機動捜査隊及び隣接署からの応援を得て特別警戒班15班を編成。犯罪抑止のために24時間体制の重点パトロールを実施。

(3) 防犯広報・啓発活動

パトロール中の警察官がパトカーのマイクを活用した防犯広報を実施。警察官が避難所へ行き、避難している市民に対し空き巣対策についての防犯広報を実施。

(4) 警察安全相談

警察署・交番などにおいて地域住民の警察への要望などを警察安全相談として受理したほか、避難所などに赴いた警察官が被災者に積極的に声掛けを行い、被災した市民の身近な不安を取り除くための活動に取り組んだ。

各種事件・事故への対応

(1) 検挙活動

① 鮫地区において平成23年3月16日(水)に発生した「運送会社所有の魚類運送ケース(時価4万円相当)盗難事件」について、機動捜査隊との合同捜査を行い、容疑者4人を窃盗で検挙。

② 浜市川橋向地区において、家人不在家屋を対象とした空き巣事件が多発。被疑者6人を窃盗で検挙。

(2) 突発事案対応

沿岸部の公社が所有する製氷工場内において、アンモニアガスによる爆発の危険性が高まったため、消防と連携して現場周辺の交通規制を行うなど周辺地域の安全を確保。事案が収束するまで立入規制・警戒活動などを実施。



消防と連携して周辺地域の安全を確保した

(3) 交通障害への対応

① 交通障害調査班の調査結果に基づく対応

交通傷害調査班の活動により、震災後に連続して渋滞が発生している主要道路などを把握。渋滞の原因を分析し、原因となっている交差点に断続的に警察官を配置。

② 信号機滅灯対策の推進

八戸警察署管内には、電源の供給が遮断された際に発動発電機又は電池により自動的に起動する信号機が主要交差点に22基設置されているが、これ以外に交通渋滞などが発生している交差点を把握。優先的に可搬式の発動発電機を設置することで円滑な交通を確保した。

4-6

医療・保健活動

1 医療・保健活動

医療活動

今回の震災では、八戸市内の医療機関の建物被害は少なかったが、停電や医薬品等の物流停止、ガソリン不足による影響の報告があった。しかし、早い時期にライフラインが復旧したことにより、震災が発生した3月11日は金曜日であったが、翌週の月曜日からは通常診療が行われ、医療機関の混乱が避けられた。

八戸市休日夜間急病診療所は停電の影響で2日間開設できない状況になったが、1次、2次、3次救急患者に対応する八戸市立市民病院や八戸赤十字病院、青森労災病院が平常どおりの医療を提供できたこと等により、災害救助法による医療救護班は編成せずに対応できた。

また、今回の震災では大津波警報による避難指示により、最大69か所の避難所が設置され、多数の市民が避難する中、各方面の医師等からボランティアの申出があり、避難所での医療・健康管理活動が実施された。

具体的には、海上自衛隊衛生隊が3月11日から4月17日まで、平和病院が3月15日から3月18日まで、八戸市医師会が3月18日から3月31日まで延べ69回、米軍三沢基地病院が3月30日から4月14日まで、弘前大学病院が3月26日に避難者の健康相談や応急処置等を行った。

また、精神科医、心理士等で構成する青森県こころのケアチームが3月14日から3月31日まで避難所を巡回し避難者のメンタルケアを行った。

保健活動

青森県、八戸赤十字病院、八戸市総合健診センターの応援を得て、保健師・看護師による避難所巡回健康相談や家庭訪問を実施した。継続的な支援が必要な方に対しては市の地区担当保健師が対応している。

① 健康相談

避難所巡回健康相談は、避難所を開設した3月11日から閉鎖前日の4月29日までの毎日実施し、延べ15,733人の避難者に対応した。延べ従事者数は市保健師・看護師196人、県保健師30人、八戸赤十字病院看護師12人の238人であった。

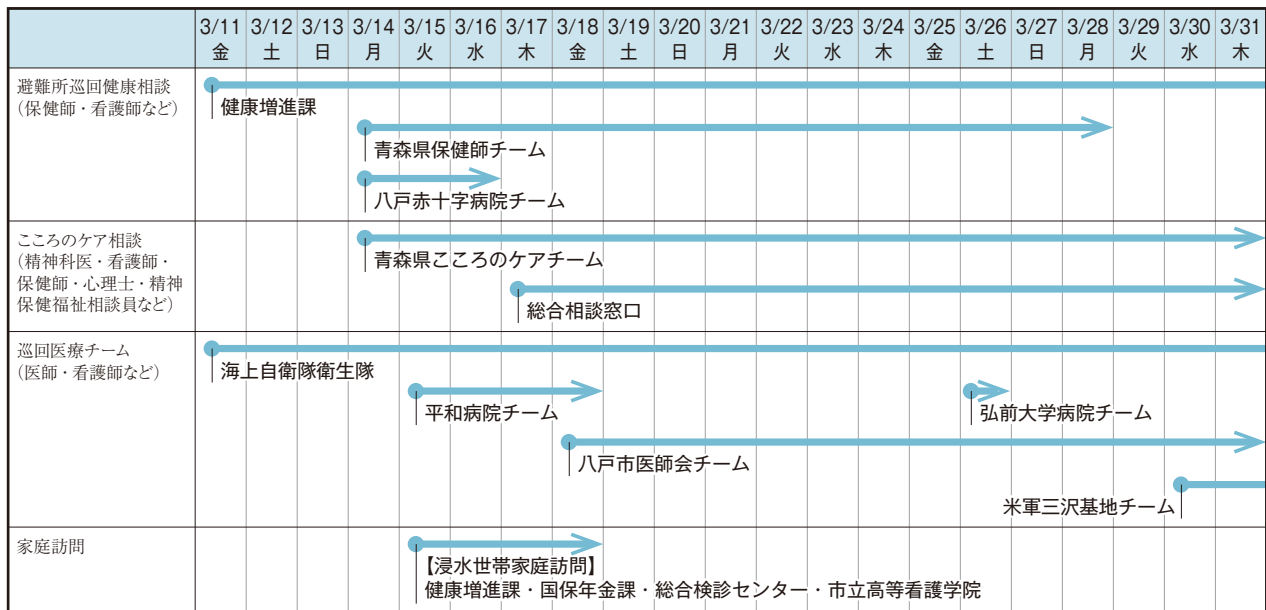
また、南郷公民館避難所健康相談は3月11日から3月13日に実施し、延べ15人の避難者に延べ8人の保健師が対応した。

また、総合相談窓口(会場：はっち)における心と体の健康相談の利用者6人に対応した。

② 家庭訪問

対象別に4回、期間を定めて実施した。1回目(3月15日～3月18日)は健康状況の確認と防疫指導のため

■ 被災者支援に対する保健・医療支援体制



に津波浸水世帯を対象に、1,477世帯を訪問し2,261人に面接した。2回目(5月30日～6月10日)は、避難所健康相談や浸水世帯訪問で把握した疾患等のある方を対象に43世帯(40人)、3回目(11月2日～11月30日)は自宅が被災し公営住宅に入居している方を対象に118世帯(130人)、4回目(平成24年1月16日～3月6日)は全壊・大規模半壊世帯を対象に284世帯(330人)を訪問した。

訪問時は、103人から心身の不調や生活等についての相談があり、医療受診へのアドバイスや相談窓口等に関する情報提供を行った。

また、南郷区においては3月12日に地区を巡回訪問し、3月15日から3月18日は要支援者を対象に17世帯(18人)を訪問した。

また、県外からの避難者を対象に5月18日から5月20日に県の保健師に同行して6世帯(20人)を訪問した。

2 市民病院の活動

地震発生直後の市民病院では、患者様の安全と病院機能の確保に全力を注いだ。ライフラインについてはA重油による自家発電、備蓄している上水・井水等の活用により、節約をしながらも何とか供給確保し診療を継続することができた。

救急部門では、震災で受傷した救急患者の受入体制を確保し、地震発生から10日間で約80人の災害関係患者を診療した。入院患者に関しては、一部の医薬品・診療材料等の不足が懸念されたため、手術の延期(緊急手術は対応)や診療材料等の節約などにより対応した。

外来については通常どおり診療を行うことができた。避難してきた妊婦の健診を受け入れたり、ガソリン不足で来院不可能な患者に対して、その患者が指定する調剤薬局に処方箋をFAXすることで直接病院に来なくても薬が手に入るようしたりするなど、応急対策を講じた。

この未曾有の大災害からの教訓を生かし、地域中核病院としての使命を果たすため、当院では継続的な活動を行っている。平成23年からは当院主催で年1回大規模災害講習会を開催し、多くの職員が受講している。また、災害時マニュアルや燃料・資材の備蓄については、各種委員会において個別具体的に検討を行い、随時見直しを行っている。



地震発生当日の市民病院救命救急センターの様子

4-7 避難所の記録

1 避難所開設

平成23年3月11日午後2時46分の地震発生から3分後に津波警報が発令されたことを受け、15時5分に沿岸部の住民約3万人に対し避難指示が出され、それと同時に津波避難所として指定されている25か所の避難所を一斉に開設した。

津波警報に加え、断続的に続く余震と停電による不安のために、25か所の津波避難所以外にも時間を追うごとに多くの市民が避難し、ピークとなった3月12日の午前0時には69か所の避難所に9,257名が避難した。

避難所となったのは、小・中学校42校、各地区公民館15館のほか各地域の集会所などで、最も多くの避難者が集まった小中野中学校にはピーク時に1,800人が避難した。また、上長公民館、三条小学校、青森県立八戸西高等学校にはJR八戸駅利用者や近隣のホテルの利用者なども避難した。

発災直後、停電や電話回線の輻輳により避難所と市災害対策本部との間で情報のやり取りができず、避難者人数の把握、毛布や食糧の配布が大変困難な状況となっていた。そのような中、避難所では各小・中学校の教職員や各施設の職員、自主防災会、地域の住民が避難者の受入と誘導に当たるなど避難所運営に多大な協力を頂いた。

避難者数

3月11日～3月31日

	避難場所	3月11日			3月12日				3月13日			3月14日			3月15日			3月16日		
		午後8時	午後10時	午後11時	午前0時	午前10時	午後2時	午後8時	午前10時	午後3時	午後8時	午前10時	午後3時	午後8時	午前10時	午後3時	午後8時	午前10時	午後3時	午後8時
1	市川公民館																		24	31
2	海上自衛隊体育館		600	600	770	770	770	920	475	200	298	100	80	300	100	148	152	170	176	153
3	多賀台小学校	40	107	107	140	180	120	120	121	26	56	3	8	8	43	43	28	9		
4	市川中学校		190	190	157	170	140	140	140											
5	多賀小学校	73	海自体育館へ移動			午前5時閉鎖														
6	尻引生活館	全員帰宅																		
7	多賀台生活館	多賀台小学校へ移動																		
8	湊公民館	300	300	300	300	250	250	250	250	80	130	40	60	90	83	28	52	23	33	38
9	湊中学校	40	40	40	40	42	26	32	32	17	19	19	20	10	10					
10	湊小学校	100	100	100	100	15	15	18	18	20	13	13	10	7						
11	東中学校	9	21	21	21	16	16	21	17											
12	ホロキ長根生活館					0	0	0	30											
13	白銀公民館	289	280	369	365	250	250	250	250	65	62	22	35	58	57	53	48	25	12	16
14	三嶋神社			100	100	150	150	110	110	27	49	43	4							
15	青森労災病院		100	100	100	100	100	30	30											
16	白銀小学校	29	白銀公民館へ移動			0 午前11時閉鎖														
17	白銀中学校	17	22:40全員帰宅			午前5時閉鎖														
18	白鷗小学校			0	0															
19	鯉公民館	30	30	30	30	25	25	25	20	11	21	3	5	16	7	11	16	16	32	36
20	種差生活館									0	0	0	5	5	6	3	3	7	6	4
21	鯉生活館	30	17	17	17	17	17	17	18	17	20	20	22	22	20	20	20	20		
22	鯉小学校	60	60	60	60	16	16	16	25	4	8	6	7	5	4	3				
23	鯉中学校	25	25	25	25	50	50	18	20	4	4									
24	八戸シーガルビューホテル		49	49	49	49	49	24	20											
25	南浜中学校	18	30	30	30	7	9	12	8											
26	金浜小学校	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3									
27	種差小学校	0	0	0	0															
28	根岸公民館		0	40	40	40	40	40	17	3	8	8	10	13	5	5	2	1	1	2
29	高館小学校		50	50	60	60	60	10	10	0	8	3	11	7	3	0	3			
30	日計ヶ丘小学校	140	100	100	100	143	143	143	143	65	47	20	4	14						
31	北後中学校	497	497	497	497	40	40	40	250	0	19	2								
32	城北小学校	500	500	500	500	500	36	100	100											
33	根岸小学校	200	200	200	200	100	100	34	34											
34	下長公民館	4	8	8	8	7	7	8												
35	下長中学校	5	12	0	0															
36	三八城公民館	100	130	130	130	110	110	110	70	15	16	12	30	18	17	15	12	11	18	28
37	はっち	120	300	300	230	230	230	230	230	36	43	33								
38	第二中学校	20	17	60	60	60	60	31	40											
39	城下小学校	1,000	1,000	1,000	1,000	130	130	200	200	40	60									
40	八戸市庁		170	170	170	170	170	170	20	8										
41	長根集会所			12	12	12	10	10	10											
42	八戸小学校	8	8	長根集会所へ																
43	福祉公民館	7	8	12	12	9	9	28	21	3	7	5	3	6	6	6	5	8	8	7
44	盲学校、聾学校				60	60	35	30	35	5	18	11	7	7	9	9				
45	第三中学校	200	200	200	200	32	53	53	17	10	11									
46	柏崎公民館	20	34	34	34	34	34	25	6	4	5									
47	総合教育センター			3	3	3	3	0	午前0時閉鎖											
48	江陽中学校	800	800	800	800	1,000	1,000	420	420	50	70	30	130	22	40	21	18	12		
49	江陽小学校	200	200	200	200	400	400	220	174	4	14	5								
50	小中野中学校	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	600	300	170	60	40	11	6					
51	小中野小学校	200	200	200	200	60	100	130	170	39	35	19	12							
52	上長公民館	100	56	56	56	48	48	70	60	8	7									
53	三条小学校	300	150	150	200	110	110	130	150											
54	農業交流研修センター	12	12	12	12	23	23	23	23											
55	東横イン(八戸駅)					200	200	200	30											
56	コンフォートホテル(八戸駅)					50	50	50	50											
57	八戸高等学校							700	400											
58	三条中学校	200	0	0	0	0	0	15												
59	吹上公民館	30	30	30	30	6	6	6	22	2	6	0	0	2	2	0	2	2		
60	第一中学校	29	30	50	50	17	19	19	19											
61	吹上小学校	吹上公民館へ移動																		
62	長者小学校	9	28	28	28	14	14	14	15	7	7	1	1	4	2	1	1			
63	長者中学校	1		0	0	16	16	16	16											
64	国南小学校	3	3	3	3	午前5時閉鎖														
65	根城公民館	61	61	61	61	69	69	63	9											
66	根城中学校	20	29	29	29	29	29	30	35											
67	田面本公民館	10	28	28	28	34	34	34												
68	松園町集会所		40	40	40	14	19	33												
69	白山台中学校	5	20	20	20	4	7	14	12											
70	明治中学校	7	6	6	6	0	0	午後7時閉鎖												
71	旭ヶ丘会館	20	20	0	0	0	25	30	30	11	11									
72	東体育館	70	45	45	45	60	60	73	午前7時閉鎖											
73	新井田小学校		10	9	9	9	9													
74	大館公民館					午前9時全員帰宅														
75	旭ヶ丘小学校	0	0	0	0															
76	是川小学校	30	30	30	8	23	23	20	11	3	11									
77	是川公民館	1	0	0	0	0	0	午後8時閉鎖												
78	南郷公民館	10	10	10	10	10	10	10	10											
79	中沢中学校	10	0	0	0															
80	南郷文化ホール	南郷公民館へ移動																		
	計	7,811	8,793	9,063	9,257	7,845	7,347	7,388	5,046	1,087	1,256	478	504	625	420	366	362	304	310	315

避難者数が最大となった3月12日午前0時の時点で開設していた避難所(69か所・最大避難所数としてカウント)
 発災直後は、停電による混乱と電話回線の輻輳により、避難者数の把握は困難を極めた。また、表に掲載の避難所以外に、3月11日～12日に白山台小学校に2人、城北会館に6人が避難したことが報告されている。

3月17日			3月18日			3月19日			3月20日			21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	避難場所	
午前10時	午後3時	午後8時	午前10時	午後3時	午後8時	午前10時	午後3時	午後8時	午前10時	午後3時	午後8時													
7	4	39	45	45	45	47	47	47	47	47	46	46	48	48	49	49	46	43	35	35	35	35	市川公民館	1
144	140	221	145	144	142	143	143	143	137	131	132	132	116	122	119	119	119	113	115	115	115	115	海上自衛隊体育館	2
																							多賀台小学校	3
																							市川中学校	4
																							多賀小学校	5
																							尻引生活館	6
																							多賀台生活館	7
30	56	55	55	55	57	57	57	57	57	57	55	52	52	52	52	51	47	44	44	44	45	45	湊公民館	8
																							湊中学校	9
																							湊小学校	10
																							東中学校	11
																							ホロキ長根生活館	12
12	13	13	12	13	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	白銀公民館	13
																							三嶋神社	14
																							青森労災病院	15
																							白銀小学校	16
																							白銀中学校	17
																							白鷗小学校	18
30	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	26	26	27	27	26	26	26	26	26	鯉公民館	19
0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	種差生活館	20
																							鯉生活館	21
																							鯉小学校	22
																							鯉中学校	23
																							八戸シーガルビューホテル	24
																							南浜中学校	25
																							金浜小学校	26
																							種差小学校	27
2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	根岸公民館	28
																							高館小学校	29
																							日計ヶ丘小学校	30
																							北稜中学校	31
																							城北小学校	32
																							根岸小学校	33
																							下長公民館	34
																							下長中学校	35
18	16	16	14	14	9	16	16	15	15	15	15	15	8	7	7	6	6	6	6	5	5	5	三八城公民館	36
																							はっち	37
																							第二中学校	38
																							城下小学校	39
																							八戸市庁	40
																							長根集会所	41
																							八戸小学校	42
7	6	6	6	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	2						福祉公民館	43
																							盲学校、聾学校	44
																							第三中学校	45
																							柏崎公民館	46
																							総合教育センター	47
																							江陽中学校	48
																							江陽小学校	49
																							小中野中学校	50
																							小中野小学校	51
																							上長公民館	52
																							三条小学校	53
																							農業交流研修センター	54
																							東横イン(八戸駅)	55
																							コンフォートホテル(八戸駅)	56
																							八戸西高等学校	57
																							三条中学校	58
																							吹上公民館	59
																							第一中学校	60
																							吹上小学校	61
																							長者小学校	62
																							長者中学校	63
																							国南小学校	64
																							根城公民館	65
																							根城中学校	66
																							田面木公民館	67
																							松園町集会所	68
																							白山台中学校	69
																							明治中学校	70
																							旭ヶ丘会館	71
																							東体育館	72
																							新井田小学校	73
																							大館公民館	74
																							旭ヶ丘小学校	75
																							是川小学校	76
																							是川公民館	77
																							南郷公民館	78
																							中沢中学校	79
																							南郷文化ホール	80
250	268	384	311	312	305	315	315	315	309	303	301	298	276	281	278	276	266	251	245	244	245	245	計	

	避難場所	4 月																													
		1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	8 日	9 日	10 日	11 日	12 日	13 日	14 日	15 日	16 日	17 日	18 日	19 日	20 日	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	26 日	27 日	28 日	29 日	30 日
1	市川公民館	35	35	35	33	33	36	36	36	36	36	33	33	30	30	30	28	20	15	5	5	5	5	5	5	3	3	3	3	3	3
2	湊公民館	43	42	42	40	40	40	39	56	39	39	40	40	41	40	40	40	40	40	40	39	39	39	37	37	27	26	21	20	18	5
3	白銀公民館	12	11	11	11	11	11	11	19	12	12	12	12	11	5	5	5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
4	鯨公民館	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	21	21	20	20	18	18	18	17	17	17	9	4	4	1	1	1	休止
5	海上自衛隊	115	115	115	106	103	104	97	109	97	85	70	69	61	60	52	47	34	14	休 止											
6	種差生活館	5	5	5	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	休 止												
7	三八城公民館	5	5	5	5	5	5	5	13	6	6	5	5	2	2	休 止															
8	根岸公民館	2	2	2	休 止																										
9	福祉公民館	休 止																													
	計	243	241	241	224	221	226	218	263	220	208	190	189	175	162	152	144	120	89	65	64	63	63	61	53	36	35	27	26	24	10

2 避難者数推移

震災発生の翌日の12日の夜から電気が順次復旧し始め、また、13日の午後6時2分に避難指示が解除されたため、最大で9,257人を数えた避難者も14日の夜には625人まで減少し避難所も21か所となった。

また、小・中学校が17日から授業を再開することとなったため、避難者を16日までに近隣の地区公民館等9施設へ集約した。

その後も、被災者生活再建支援制度による支援金の支給、災害見舞金の支給、災害救助法に基づく生活必需品の給付、住宅の応急修理制度による応急修理費用の支給、公営住宅等への入居支援及びホテル・旅館等への無料宿泊提供等の支援により避難者数も日に日に減少していった。

そして、4月18日には海上自衛隊体育館、4月30日には残っていた湊・市川・白銀・鯨の4公民館の避難所を閉鎖し、震災発生日から51日間に渡り開設、運営してきた避難所を全て閉鎖した。また、避難所閉鎖後においても自宅に戻れない避難者に対しては、ホテルや旅館等を約1か月間無料で提供した。

3 海上自衛隊体育館

海上自衛隊八戸航空基地では、応急的に基地体育館に避難者を受け入れた。これは、基地周辺道路で高台に向かう徒歩の避難者と多くの車両が渋滞を引き起こし、行き来できない状況となっていたため、市民の安全確保のため、海上自衛隊第2航空群司令の判断により基地の門を解放したことによるものである。その後、基地体育館には、北稜中学校や多賀小学校から移動した避難者が加わり、ピーク時には避難者が約1,000人に達した。

津波警報解除後も、津波により自宅に被害を受けた避難者が体育館で避難生活を送った。海上自衛隊八戸航空基地では避難者に対し食事支援や入浴支援、診療支援のほか、学校へ通学する児童のために、朝夕に通学支援を行った。また、音楽演奏会や基地内の見学等の様々な催しで避難者を励ますなど、4月18日までの39日間、延べ約6,000人の避難者は隊員から献身的な支援を受けた。

避難所閉鎖日となった4月18日には避難所の閉所式が開かれ、眞木群司令を始めとする隊員の皆さんに市長と避難者がお礼の言葉を伝え、避難者は隊員に見送られながら避難所をあとにした。



閉所式で握手を交わす眞木群司令と小林市長



避難者を拍手で見送る眞木群司令を始めとする隊員の皆さんとお礼を述べながら退所する避難者

4 はっち

3月11日は、八戸ポータルミュージアム(愛称はっち)がオープンしてちょうど1か月を迎えた日だった。施設は地震の衝撃を緩和する免震装置を備えており、幸いにも建物に被害はなかった。

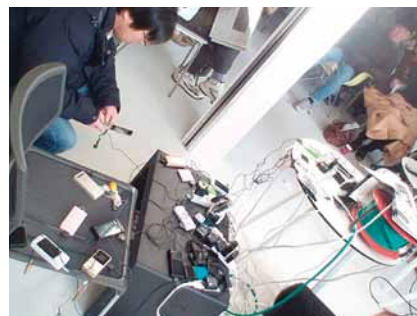
はっちは市の指定避難所ではなかったが、多くの人が避難してきたため臨時避難所として対応した。1階には椅子とストーブを設置し、カーペット敷きの2階では毛布で睡眠をとれるようにスペースを確保した。電力復旧の見通しのない中、非常用電源により必要最低限の明かりを灯し、暖を確保した。余震が続くな

か、次第に辺りが暗くなり、中心街に立地するホテルの宿泊客や、家にいるのが不安だという住民が明かりや暖を求めて集まってきた。情報提供用に1階に設置されたテレビから流れるニュースに、多くの避難者がただあぜんとするばかりであった。

不安と空腹が募るなか、中心街や館内の飲食店から避難者に食事を差し入れたいとの申し出があった。災害対策本部からの食料の配布の目処が立たない中、温かいご飯と汁物などの差し入れは、避難者にとって本当にありがたいものだった。温かい食事の差し入れは、複数の飲食店から翌日の夜まで続いた。

また、非常用電源で携帯電話の充電サービスを行った。臨時避難所開設中は、避難者以外にも充電をしようと多くの人が集まった。

はっちの臨時避難所は3月14日の13時まで開設し、その間、最大約300人の市内外の方々が避難した。



4-8 食料品・物資対策活動

1 食料品・物資の調達・供給

災害発生時の食料品・物資の調達は、避難所班(市民課・国保年金課)の要請により調達班(契約検査課)が調達することになっていたが、今回の災害では、各避難所と避難所班との連絡・配送態勢が確立する3月14日頃まで、災害対策連絡本部対策推進班(防災危機管理課)が、各避難所からの要請を受けて、調達班と連絡を取り合いながら実施した。

東日本大震災発生時の食料品・物資の主な備蓄は、食料(アルファ米、ビスケット等)約1,000食、毛布約1,300枚等であった。

まず、市庁舎から直線距離で500mほどの長根運動公園内スポーツ研修センターに物資の集積所を開設し、業者から購入した物資や自治体・事業所からの支援物資を一元管理した。

3月14日以降は、避難所班からの要請を受けて、物資集積所内にあるものは直接提供し、在庫がないものについては調達班が調達した。

3月18日以降は、物資集積所にインターネット環境が整備され庁内電子メールが使用可能となり、避難所班、調達班及び物資集積所で情報共有できるようになり、対応速度と正確性が向上した。

毛布の調達・供給

毛布は、当市の備蓄枚数が約1,300枚であったのに対し、3月11日午後5時50分の最初の避難者数報告で1,955人以上となり、この時点で在庫が底をついた。

その後、3月12日午前1時40分に青森県から毛布3,600枚が届き、直ちに各避難所へ配付した。中心街に近い三八城公民館では午前2時50分に35枚、沿岸部の湊公民館では午前3時15分に210枚の毛布が届いている。その後、午前3時25分に配付チームから配付終了の報告があった。

この時点で、配付できた毛布の枚数は約4,900枚であり、避難所からの要請枚数の約7割、12日午前0時現在の避難者数9,257人に対しては約53%であった。

3月12日午前8時25分に特例市災害時相互応援協定を締結している群馬県伊勢崎市より毛布2,000枚と食料500～600食の支援の申し入れがあり、同日正午頃に同市を出発し、午後9時頃に当市に到着した。その後、直ちに市内の避難所へ配付を開始し、三八城公民館では午後10時40分に30枚、湊公民館では午後11時に30枚の毛布が届いている。この時点で配付できた毛布の枚数は約6,900枚であり、同日午後10時現在の避難者数が5,861人であったことから、全避難者への毛布の配付が完了した。

なお、多くの避難所において、市からの配付以外にも、近隣の住民や事業所から毛布の寄附・貸与があった。

食料品等の調達・供給

震災発生後の午後3時5分に沿岸部に避難指示が発令されて以降、災害時の物資供給について災害協定を締結している業者及び協定は締結していないが物資を調達可能な業者と適宜連絡をとり、物資の発注にあたった。

震災発生の3月11日から3月20日までの10日間で調達した主な物資は、

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| ・カップめん等のめん類 約1万2,700個 | ・使い捨てカイロ 約1万7,000個 |
| ・おにぎり・レトルトご飯等の飯米類 約1,200個 | ・粉ミルク・離乳食 約160個 |
| ・缶詰 約1,200個 | ・紙おむつ 約570個 |
| ・パン 約1,600個 | ・乾電池 約1,100個 |
| ・水・茶等 約7,700本 | |

となっており、その後は避難所からの要請に基づき、日用品等の調達を行った。

また、避難所への食料の配付は、避難指示発令後、市内の弁当業者3者と連絡を取り、どの業者とも炊飯用のガスが復旧次第対応可能との回答を得るが、3月11日は電気・ガスとも復旧せず、弁当の配達には3月12日の開始となった。特に3月12日は、炊飯用のガスは復旧したものの停電の影響で調理器具の使用が困難な中での調理となったほか、駅売・イベント用の弁当を避難所に配送するなど、弁当確保のために様々な対応にあたった。

停電が復旧した後も、物流の停滞による食材・容器調達等の困難に直面しながら、製パン業者1者を加えた態勢で、避難所閉鎖までの期間に約51,000食の食事を避難所へ配付した。

また、南郷区では3月12日に島守地区自治会連合会長より炊き出し支援の申し出があり、島守地区の10自治会がそれぞれの集会所で停電中、ガス釜を使用し炊き出しを実施した。さらに、南郷区内の民間事業者及び個人から炊き出し支援の申し出があり、連携をとりながら可能な限り炊き出しを実施し、南郷区内で合計8,638個のおにぎりを炊き出した。おにぎりは南郷区内の介護施設に届けられたほか、災害対策本部に届けられた約7,000個は避難している市民だけでなく、新幹線の乗客が避難していた八戸西高等学校や、沖合に避難していた漁船の乗組員の元へ海上保安部の巡視艇により届けられた。

その他にも、自主防災会等の地域団体による炊き出しや、ボランティアによる食料支援などが行われ、避難者の大きな支えになった。

4-9 福祉・援護活動

1 災害時要援護者の対応

東日本大震災発生直後に大津波警報が発令されたことに伴い、八戸市津波避難計画に基づく避難対象地域内の災害時要援護者(台帳登録者)に対する警報の周知と避難を促すための電話連絡を、福祉部内で役割を分担し行った。その結果、対象者493名のうち123名と連絡がとれ、うち111名が避難した。

また、市から災害時要援護者の情報提供を受けている民生委員が、各自の判断により担当区域内の要援護者の安否確認を行ったほか、避難所への誘導や町内会等との連携による避難所の運営に当たった。

2 福祉避難所に関する協定の締結

福祉避難所とは、高齢者、障がい者、妊産婦及び乳幼児等、通常の避難所生活において特別な配慮(身体的ケアやコミュニケーション支援等)を必要とする方々を対象に開設する避難所であり、当市では見守りにより生活ができる避難対象者のための「市福祉避難所」(八戸市福祉公民館、福祉体育館、身体障害者更生館)と、介護等支援が必要な避難対象者のための「施設福祉避難所」(民間の社会福祉施設)の2通りとしている。

民間の社会福祉施設を福祉避難所として指定するまでの経緯は、次のとおりである。

- H20.2 福祉避難所に関する検討会(施設関係者及び市関係部署)
- 22.3 国のガイドラインに基づき作成した「八戸市避難支援プラン(全体計画)」において福祉避難所を指定する旨を明記
- 23.2 八戸地区社会福祉施設連絡協議会役員会において、福祉避難所に関する説明会を開催
- 23.3 東日本大震災発生

- 23.6 八戸地区社会福祉施設連絡協議会総会において、福祉避難所に関する説明会を開催
- 23.9 市内及び近隣町村の社会福祉施設の事業者に対し、福祉避難所に関する説明会を開催
- 23.12 災害時における福祉避難所の確保に関する協定締結

上記のとおり、民間の社会福祉施設を活用した福祉避難所の指定に向けて関係機関と協議を進めてきたものの、東日本大震災発生までに協定を締結するに至らなかった。

今回の震災を教訓として、一自治体では対応しきれない大規模災害を想定し、市内に限らず近隣町村の事業者にも協定締結を呼び掛けた結果、施設の確保及び要援護者の受入れ等について平成23年12月に57事業者、78施設と協定を締結し、福祉避難所として指定した。

4-10 住宅対策活動

1 被災建築物の応急危険度判定

被災建築物の応急危険度判定

被災建築物の応急危険度判定は大規模な地震により多くの建築物が被災した場合に、余震等による建築物の倒壊、部材の落下等から生ずる二次的災害を防止し、住民の安全の確保を図るため、これら被災建築物の安全性を判定し、結果を表示することにより、所有者等に注意喚起するものである。

判定の体制

判定所管課長である、建築指導課長が被災情報等を収集し災害対策本部に意見具申することにより、災害対策本部長より判定実施要否の判断がなされ、決定されると判定実施の宣言、実施本部の設置が行われ、体制が整えられることになっている。

当市マニュアルでは過去の地震より、原則、小中野住宅密集地区と中心市街地を調査し判断することとなっている。

今回の対応

地震の揺れを前提とした応急危険度判定は、八戸市の震度が5弱(南郷区は5強であったが建物被害の報告がない)であることや、過去の大地震と比較した体感上の揺れより行う必要がないと判断したが、マニュアルに沿って、小中野住宅密集地区及び中心市街地で被害状況調査を行った。

被害は、ガラスの破損やタイルの落下等10か所にも満たない程度確認したが、建物の倒壊や傾斜等は見られなかったことより、横断的な応急危険度判定は行わないこととし、災害対策本部及び県に報告、個別での対応とした。

なお、津波被害建物については、応急危険度判定は適用できない。

対応状況

3月11日(金)

- ・地震発生に伴い、市内パトロールを即実施。
- ・県に一報を入れ、状況により支援要請する可能性ありと報告。
- ・パトロール終了後、被害が小さいことより、横断的な応急危険度判定は行わない決定。

3月12日(土)

- ・防災危機管理課より、吹上で倒壊しそうな物件ありとの通報により現地調査する。建物の傾斜が大きいことと、外壁材の落下の危険性があったので、「要注意」の掲示をする(2棟)。
- ・県に応急危険度判定の支援要請必要なしと報告。

3月14日(月)

- ・市内パトロール。小中野で傾斜の著しい家屋(1棟)を確認し「危険」の掲示。

3月18日(金)

- ・今後の対応を協議。建築士会の協力を得て網羅的なパトロールをすることを決定。

3月20日(日)

- ・市内9か所の避難所で出前相談を行う。

相談数 76件(今後の対応の相談等)

3月22日(火)

- ・建築士会と沿岸区域パトロール

被害地域が集約され(津波被害によるもの)注意が必要な状況は十分周知されているものと判断でき、なおかつ特筆して危険な状態は確認できなかった。

(避難所等で注意喚起するなどに対応した)

3月23日(水)

- ・同上パトロール

3月25日(金)

- ・相談窓口は課内待機での対応となる。

4-11 衛生・防疫対策活動

1 災害ごみ対策

東日本大震災の津波被害により八戸市では約16万9,000 t の災害ごみが発生した。これは八戸市の年間で発生している一般ごみの約2倍の量であり、収集・選別・処分に時間を費やすことが想定されたため、平成23年3月18日～26日にかけて市内4か所(5月に更に1か所新設で計5か所)に災害ごみの仮置場を設置し集約することとなった。併せて被災地区の巡回収集・戸別対応による収集も行った。

津波で堆積した土砂・泥やその他災害ごみの清掃用として土のう袋とボランティア用ごみ袋を3月中は長根体育館で、それ以降は各地区公民館及び支所、環境政策課で配布した。これら災害ごみは巡回収集等により仮置場に搬入した。

5月からは仮置場に集約された災害ごみの分別、処分を開始したが、その種類が多様であり、公共の処理施設(八戸清掃工場・八戸リサイクルプラザ・天狗沢最終処分場)のみでは全ての災害ごみの処分を行うことが困難だったため、民間の処理施設へ委託を行い、処分することとした。

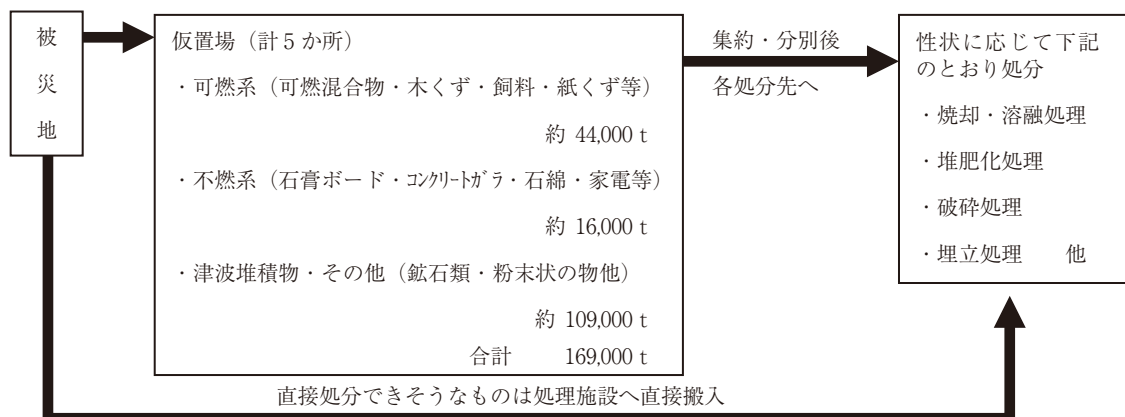
なお、公共の処理施設では、仮置場からの災害ごみの他、一般家庭・事業所から直接搬入された災害ごみの受入れも行っており、八戸清掃工場では平成24年12月31日までに合わせて約8,898 t を受入れ、八戸リサイクルプラザと天狗沢最終処分場では、それぞれ約516 t、3,263 t を受入れ、処理を実施した(数字は八戸市分のみ)。また一般家庭・事業所から直接搬入された災害ごみについては、処分手数料の減免措置を講じた。

平成24年12月31日までに全体量の8割に当たる約13万6,000 t を処分し、平成24年度で処分を完了する予定である。

■ 仮置場の概要

	名 称	受 入 対 象	受 入 期 間
1	旧食肉処理場跡地 (大字河原本字浜名谷地7-237 八太郎六丁目76-240)	土砂のみ	平成23年3月25日～6月30日
2	東部終末処理場 (江陽三丁目1-111)	災害ごみ(土砂含む)	平成23年3月18日～9月30日
3	水産加工団地運動場 (大字市川町字下中平沖8-10)	土砂以外の災害ごみ	平成23年3月22日～9月30日
4	ポートアイランド(県有地) (大字豊洲3-6、3-7)	災害ごみ(土砂含む)	平成23年3月26日～9月30日
5	松館(民有地) (大字松館字水野平17-1、21)	災害ごみ(飼・肥料)	平成23年5月9日～9月30日

作業フロー



災害ごみの収集運搬の状況



人力のみでは対応困難な場所が多かったため、重機・ダンプ等を用いて作業を行った。

仮置場作全景及び作業状況



搬入受付、仮置場内誘導、分別作業を行っている。

処分施設への搬入



焼却施設への搬入



最終処分場への搬入



選別作業（中間処理）

2 被災家屋の消毒

津波被害を受けた市民の方へ、住宅及び建物や敷地等の消毒に使用する消毒薬と消石灰の配布を行った。
被災した地区の公民館(小中野、湊、白銀、鮫)の他、江陽地区は町内会長宅(入舟町、入江町、舟見町)、市川地区は木亀商店、下長地区は八太郎町内会長宅を配布拠点とし、配布総数は、消毒薬が約1か月で約601本、消石灰が約2か月間で県からの受入れ200袋を含む751袋であった。

3 し尿処理対策

八戸環境クリーンセンターは東日本大震災の津波被害を受け、第1処理場及び第2処理場の主要機器が水没し、処理場の運転が不可能となった。そのため、市内及び県南地域の下水処理場4か所(八戸市東部終末処理場・県馬淵川浄化センター・三沢市浄化センター・階上町茨島浄化センター)と、し尿処理施設2か所(六戸衛生センター・三戸衛生センター)へ処理を依頼することとなった。なお、し尿処理施設の2か所とは「災害等における相互協力に関する協定」を締結しており、この協定に基づく依頼を行った。

また、広域の区域外となる三沢市浄化センター及び六戸衛生センターへし尿等を運搬する業者には運搬距離延長分に対しての費用の支払を行った。

平成23年9月から八戸環境クリーンセンターの前処理設備が応急仮設工事により稼働を再開し、し尿の一部(80kL/日)を受け入れて前処理を行い、八戸市東部終末処理場へ運搬した。

平成24年9月に全面復旧するまでの間の6施設への搬入量は合計で15万3,989kLとなっている。

4-12 広報・相談活動

1 広報活動

防災行政無線による広報

地震発生後、午後2時49分に気象庁が津波警報を発表したことから、沿岸部に設置している防災行政無線39基全局で警報の発表と避難を指示する放送を行った。午後3時22分に1回目の放送を実施し、以後3月13日午後6時2分に避難指示を解除するまでの間に46回の放送を実施した。

その他に、3月12日には119番が掛かりにくくなっているため消防車・救急車の要請は近くの消防署に駆け込むか巡回中の消防車に知らせるようにとの放送を1回、水産公社のアンモニアタンクが破裂のおそれありとの放送を4回実施している。

また、4月7日午後11時32分に発生した最大余震の際には、午後11時34分に津波注意報が発表されたため、4月8日午前0時55分に津波注意報が解除されるまでの間、10回の放送を実施している。

ほっとスルメール(八戸市安全・安心情報配信サービス)

気象、火災、防犯、交通安全、消費生活、感染症、ライフライン(電気、ガス、水道)などの、地域の安全・安心情報を電子メールでお知らせするほっとスルメール(平成24年10月末現在の加入件数30,266件)は、3月11日～4月30日までの間に、震災に関連する情報を301件配信した。

配信内容と件数は、震度・津波に関する情報が204件、ライフラインやごみの収集、交通機関に関する情報が35件、小・中学校の休校等に関する情報が62件となっている。

また、震災後の3月、4月、5月には、ほっとスルメールの加入者数が1か月で1,000人～2,000人ずつ増加した。これは通常時の約10倍の増加数であり、災害時における市民の情報収集手段の一つとして、ほっとスルメールの役割はますます重要なものとなっている。

■ ほっとスルメールの震災に関連する情報の配信状況

(平成23年3月11日～4月30日)

震度・津波に関する情報(自動配信)	204件
ライフライン等に関する情報	35件
小・中学校の休校等に関する情報	62件
計	301件

被災状況等の記録(写真撮影)

① 平成23年3月11日(発災直後)

平成23年3月11日、発災直後の午後2時51分より、転倒したキャビネットや書類が散乱する市庁舎(本館・別館)内の各課執務室の様子、市庁前広場に集まる職員・市民の様子などを撮影。

以後、災害対策本部設置状況を始め、市庁舎に避難する市民の様子等を撮影。

なお、当日の沿岸部の取材については、大津波警報が継続して出されていたことから、職員の安全を考慮し、自粛することとした。



② 平成23年3月12日～(被災現場の撮影)

午前8時から正午にかけて、広報統計課職員のほか、他課職員の協力も得て、2班4名体制で沿岸部全域(市川町橋向地区～館鼻岸壁、館鼻岸壁～種差漁港)の被災状況の撮影に向かった。

撮影した写真は、災害対策本部を設置している別館2階会議室にて、プロジェクターと大型スクリーンを用いて直ちに投影し、本部員及び報道機関と情報共有を図った。



③ その他

上記①②のほか、以後断続的に、被災状況及び支援状況を記録するための写真撮影に努めた。(市川地区のビニールハウスの被害、陸上自衛隊による救援活動(炊き出し等)など)

津波被害の危険性が高い町内会長への電話連絡(避難所開設案内)

広報統計課では従来から災害発生時に町内会長への状況連絡を行っており、今回の東日本大震災においても、発災当日の平成23年3月11日、午後6時15分から午後7時にかけて、職員5名により、津波被害の危険性が高い沿岸部の145町内会の町内会長宅へ、避難所の開設状況を知らせるため電話連絡を行った。

停電の影響もあり、結果として、電話が通じた町内会は22件、不通が29件、留守番電話が94件(合計145件)であった。

なお、この電話連絡の中で、「多賀小学校の1階が浸水し、避難所として機能しなくなった」、「浜市川保育園が被災した」、「車両が五戸川に流された」との情報を受け、災害対策本部へ伝達した。

市ホームページ、携帯版市ホームページの更新

① 平成23年3月11日の対応

発災直後から市内では全域にわたる停電が発生した。市庁舎は非常用電源により電気の使用が可能であったことから更新作業を行うことはできたものの、大部分の市民はパソコン等を用いて市ホームページを閲覧できる状況にないと判断されたことから、必要最低限にとどめることとした。(当日の市ホームページ(トップページ)更新実績 :午後4時/午後6時/午後10時/午後11時の4回)

携帯版市ホームページについては、市庁舎別館9階でなければ更新作業ができなくなり、情報元となる災害対策本部(2階)と離れたため、人員を割くことが不能と判断し、更新作業を見送った。

② 平成23年3月12日の対応

午前10時から午後10時まで、プロバイダ(東北インテリジェント通信)の非常用電源が途絶したため、市庁舎と外部とのネットワークが断絶。市ホームページ及び携帯ホームページのサーバは市庁舎に設置しているため、外部(市民)からのホームページ閲覧が不能となった。

停電は、当日の午後10時に解消し、市ホームページの更新が可能となったことから、順次情報の掲載を開始することとした。(停電解消後、最初の市ホームページの更新は午後10時44分)

ツイッターの利用とコミュニティ放送(ビーエフエム)との連携

発災直後の3月11日において、ツイッターでの情報発信数は、5回であったが、その後頻繁に更新(3/11: 5回、3/12: 30回、3/13: 30回)するにつれ、震災前の3月10日時点では約2,400人であったフォロワー(登録読者)数は、3月15日には、約5,600人、4月11日には、1万人を超えるなど大幅な増加を見せた。

ツイッターの投稿は、ツイッター社のサーバで保存・公開されるため、震災の影響を受けず、携帯電話などで八戸市のツイッターアカウントからの情報取得が可能であることから、急きょ、情報発信媒体として利用したものである。

なお、当市がツイッターで情報発信(投稿)した内容を、地元のコミュニティ放送であるビーエフエムのスタッフが閲覧し、この情報をラジオで放送するという取組が図らずも生まれた。

コミュニティ放送との連携による情報発信が新たな広報媒体となり得るのではないかとということとなり、ビーエフエムとの災害協定締結への動きへとつながっていくものである。

テレビ・ラジオへの取材対応、市長からの市民へのメッセージ

(1) テレビ・ラジオへの取材対応

- ① 3月17日 BeFM「ゆうらじ! hachinohe」14:00～収録、16:00～放送
- ② 3月18日 臨時市長記者会見(災害対策本部 11:00～11:30)
各社取材により放映
※3月20日、記者会見の様様(動画・約13分)を市ホームページへ掲載
- ③ 3月18日 青森朝日放送(A B A)「ニジドキ!」
14:30～14:40 電話出演(生放送)
- ④ 3月18日 NHK青森放送局「あっぷるワイド」
18:10～19:00 生出演



(2) 市長メッセージ

- ① 広報はちのへ災害特別号の発行
市民への市長メッセージ、震災により被災した方々が必要とする支援情報、地震発生時に既にほぼ印刷を終えていた広報はちのへ4月号(3月20日発行)の内容変更の情報を盛り込み、配布を止めていた「広報はちのへ4月号」と併せて、「広報はちのへ災害特別号(4ページ)」として発行し、3月24日から配布を開始したもの。
- ② 3月20日 市長から市民へのメッセージを市ホームページへ掲載



避難所に避難している方々への情報提供

避難所に避難している方々に対して、迅速に情報提供するため、避難所班担当の市民課と広報担当の広報統計課が連携して、平成23年3月16日から行った取組。

各課が避難者向けに周知したい情報を、広報統計課で集約・取りまとめた上、これをファイリングし、毎日、避難所へ届けたもの。

- ・提供する情報ファイルに綴って避難所へ設置
- ・情報は避難所へも掲示
- ・配布用資料は各10部(自衛隊体育館のみ30部)用意
- ・避難者へ提供する情報は、八戸市政記者クラブへも情報提供
- ・市ホームページにもできるだけ情報は掲載



2 避難世帯応援チーム

地域担当職員のコミュニケーション能力をいかし、避難所で生活している方々を支援するため、ワンストップで相談を受け付ける地域担当職員による避難世帯応援チームを平成23年3月29日に結成した。避難世帯応援チームは、避難世帯7～8世帯に対し、地域担当職員2名を割り当てることとし、3月29日現在の避難世帯総数約120世帯に対し、地域担当職員28名が従事した。

応援チームの主な職務は、3月30日に避難所8か所、4月21日に避難所3か所を訪問して、担当する避難世帯からの相談に対応したほか、担当世帯からの電話相談にも応じた。

相談件数は合計131件に上り、主な相談内容は、公営住宅、被災者生活再建支援金、災害ごみ・衛生、生活資金の融資に関することなどであった。

※地域担当職員：地域コミュニティの振興を図ることを目的に、地域と行政のつなぎ役として、南郷区を除く市内23地区公民館の区域ごとに配置している職員。各地区の担当職員は、通常業務と兼務しながら、行政経験をいかして地域づくり支援や広聴窓口の機能を担っている。

3 総合相談窓口

被災者の申請・相談をワンストップで受け付ける総合相談窓口を3月17日から「はっち」に開設した。総合相談窓口では、①り災証明の申請、②市営住宅の入居希望受付、③災害ごみの処理相談、④心と体の健康相談、⑤被災家屋の安全性に関する相談、⑥災害ボランティアの依頼の6つの窓口を担当職員を配置し、被災者の様々な相談にワンフロアで対応した。

最初の1週間で659件(約67.9%)の相談があった。その後、利用者数が少なくなり、市庁舎内の各担当部署等の窓口で対応できる状況になったことから、総合窓口は3月31日で閉鎖した。

総合窓口開設期間中、り災証明の申請を中心に合計971件の相談があった。

総合相談窓口受付件数一覧

月 日	相 談 内 容								日 計	累 計
	り災証明	市営住宅 入居希望	災害ごみ 処理	健康相談	家屋安全 相談	ボランティア 依頼	雇用促進 住宅	その他		
3/17 (木)	72	24	21	1	8	1		2	129	129
3/18 (金)	77	27	25	1	5	7		5	147	276
3/19 (土)	56	8	17	1	6	0	13	1	102	378
3/20 (日)	42	5	11	0	3	1	6	4	72	450
3/21 (月)	46	10	7	1	4	1	9	4	82	532
3/22 (火)	64	3	6	1	3	3		5	85	617
3/23 (水)	30	2	1	0	4	2		3	42	659
週 計	387	79	88	5	33	15	28	24	659	659
3/24 (木)	29	0	5	0	0	0		0	34	693
3/25 (金)	25	1	0	1	0	0		4	31	724
3/26 (土)	40		2					0	42	766
3/27 (日)	40		2					0	42	808
3/28 (月)	29							2	31	839
3/29 (火)	52								52	891
3/30 (水)	39							5	44	935
週 計	254	1	9	1	0	0	0	11	276	935
3/31 (木)	32							4	36	971
計	673	80	97	6	33	15	28	39	971	971

4-13 教育対策活動

1 休校等の措置

市教育委員会では、市内の甚大な被害状況を考慮し、まず3月14日(月)については市立幼稚園・小中学校を臨時休校とする措置をとった。

幼児・児童生徒の安否、停電の復旧状況や学校施設・通学路の安全確保、避難所対応の確認(小中学校に開設された避難所は3月16日(水)までに公民館等に集約された)等を行った後、今後の警報、注意報、避難指示等の状況を始め、幼児、児童生徒の安全が確保できない場合には各学校(園)の判断で引き続き臨時休校とする場合もあることを前提に、3月17日(木)から原則として通常どおりの授業を再開することとし、市立幼稚園、各小中学校に通知を行った。

学校給食については燃油・食材の調達が困難であったため3月22日(火)から4月14日(木)まで休止した。各校の卒業式、修了式等の学校行事は当初予定どおり行われた。

【3月12日(土)の措置(各校への通知内容)】

- ・3月14日(月)は臨時休校とし、児童生徒は自宅待機。以降については引き続き指示する。
- ・教職員については、基本的に勤務日とし、必要に応じて学区内の巡視や家庭訪問を行い、授業の再開に備えて校内環境の整備等を行う。24時間体制は、解除の連絡があるまで継続。ローテーションを組むなど、体調に配慮してその維持を図る。
- ・市教育委員会では、休校措置について新聞・ラジオを活用して周知を行う。学校では可能な限り児童生徒への周知を図るとともに、避難所となっている場合には避難者にも周知を行う。
- ・3月15日(火)の県立高校後期試験については、県教委から通知が入り次第連絡する。
(※県立高校後期試験は、17日(木)に延期となっている。)

【3月13日(日)の措置(各校への通知内容)】

- ・3月15日(火)は引き続き臨時休校。3月16日(水)は可能な限り児童生徒を出校させ、幼児児童生徒の安否(被災状況等)を確認するとともに、安全指導や家庭学習等、修了式までの生活について指導を行う。
- ・給食指導を行わず午前中の時間帯での活動とする。

【3月14日(月)の措置(各校への通知内容)】

- ・3月17日(木)から授業再開。
- ・教職員については、避難所対応等で休養不十分な教職員の体調管理への配慮を行う。

【3月15日(火)の措置(各校への通知内容)】

- ・3月17日(木)、18日(金)には給食を実施。燃油等の調達が困難なため、3月22日(火)より学校給食は休止。
- ・3月25日(金)は予定どおり修了式を行う。

2 心のケア

市教育委員会では、震災直後からの停電が復旧し児童生徒が登校し始めた3月15日、総合教育センターの臨床心理士のアドバイスを得ながら、市内各小中学校に「こころの健康チェック票」を送り、児童生徒の心の状況の把握に努めた。その頃、震災直後から被災地に向けて、東京学芸大学の小林正幸教授が発信していた「震災における心のケア」に関するメール情報を受信。震災直後の対応についての情報として小林教授から送られてくる情報を各校や養護教諭に向けて随時送信した。さらに、文部科学省等から出されている「心のケア」に関わる資料やその他機関の情報などを発信し、各校と『寄り添い、安心・安全』についての情報を共有した。また、総合教育センターの教育相談「うみねこ」で、震災対応の相談室として対応し、ラジオ

などで相談受付の情報を発信した。

その後、被害が大きかった地域や「こころの健康」についての状況把握をもとに、県に対してスクールカウンセラーの緊急配置などを依頼した。各校での配慮により児童生徒への大きな影響はなかったものの、児童生徒の中には、「建物に入ることへの恐怖」「怖い夢」「揺れていないのに揺れを感じる」「親から離れられない」「いつもできていることができない」「地震遊び」「津波遊び」などの状況も見られた。各校での状況に対応して、臨床心理士を始め県の緊急配置のスクールカウンセラーの協力を得て、児童生徒に対するカウンセリング、教職員研修会や保護者研修会の実施など、学校や児童生徒の心のケアの支援を行うとともに、教育相談「うみねこ」でも相談対応を行った。

春休みを迎えるに当たり、小林教授や臨床心理士の指導のもと、保護者と子どもが家庭でも安心して過ごせるように「春休みからの心のケア」のリーフレットを作成し、各学校に配付するとともに、市のホームページにも掲載した。

3 学用品の給与

災害により住家が半壊以上又は床上浸水の被害を受け学用品を喪失・毀損し、就学に支障を来している小学校、中学校及び高等学校の児童生徒に対し、災害救助法に基づく学用品の給与を行った。

対象品目

教科書(教材を含む)、文房具、通学用品、その他の学用品のうち、災害により喪失・毀損したもの
費用

・教科書：実費分

・教科書以外：小学生4,100円、中学生4,400円、高校生4,800円(※金額は一人当たりの上限額)

給与方法

現物給与

給与実績

平成24年3月31日現在

	学校数	児童生徒数	給与額
小学校	7校	28人	95,141円
中学校	4校	7人	28,100円
高等学校	2校	3人	10,326円
計	13校	38人	133,567円

4 就学援助制度

東日本大震災で被災した市内の児童生徒及び震災の影響により県外から住民票の異動を伴わずに学籍異動した児童生徒の保護者について、就学費用の支払が困難な場合に就学援助の支給対象とした。国の制度に基づき、平成26年度まで継続予定としている。

認定要件

- ①市内で被災(半壊以上)した。
- ②市外の災害救助法適用地域(東京都等の帰宅困難者を除く)から避難してきた。
- ③主たる生計維持者が被災し又は被災したものと推測され、死亡又は行方不明であると認められる。

要件別認定児童生徒数

平成24年3月31日現在

	認定児童生徒数			
	①市内被災	②県外避難	③死亡・行方不明	計
小学校	55人	41人	3人	99人
中学校	31人	8人	0人	38人
計	86人	48人	3人	137人

対象費用

学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学学用品費、修学旅行費、通学費

■ 支給実績 平成24年3月31日現在

	支給額
小学校	2,481,457円
中学校	2,185,130円
計	4,666,587円

4-14 道路の復旧活動

1 道路のがれき撤去

3/11(金)

16:00 道路パトロール開始

17:04 山道路切付近(市川町字尻引堤沢)の市道陥没。通行止め

17:50 各地区パトロールの最終報告



3/12(土)

6:00 道路パトロール出発
(9台)

7:20 湊～白浜の道路状況

8:30 橋梁点検出発
(14か所)



3/13(日)

12:00 市川～中部～東部～大久喜までをA～Gの7班とし、道路上の障害物確認のため出発

15:30 帰着



3/15(火)

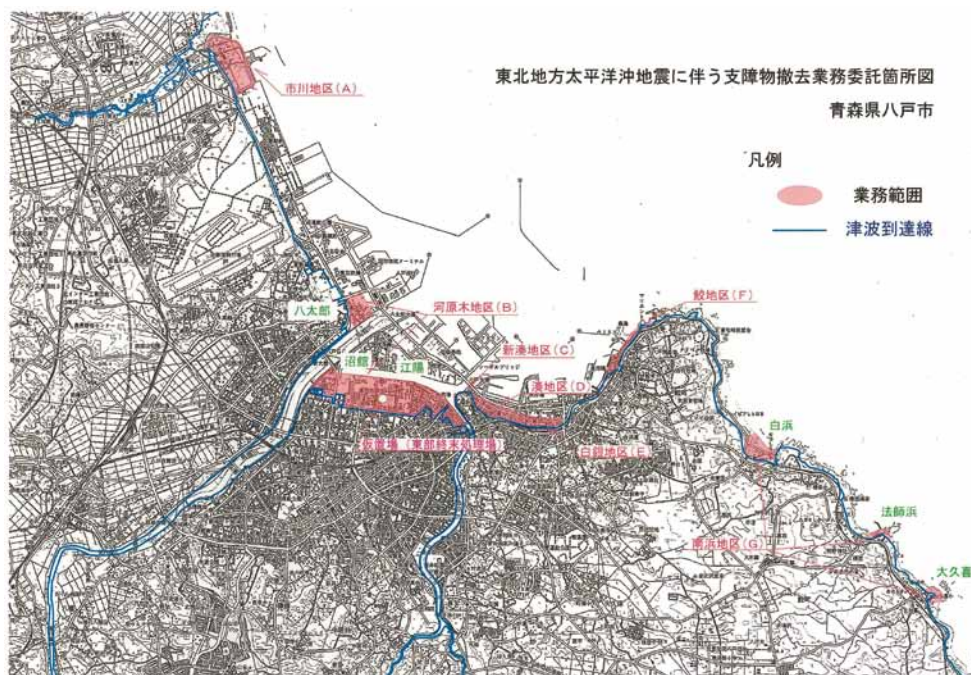
16:30 津波によるごみ堆積物撤去打合せ 災害協定書により
(社)八戸建設業協会、(協)八戸中央建設業協会、青森県解体工事業協会

3/17(木)
8:00

道路上の支障物撤去開始 位置図参照

※委託業者数35社 稼働日数は3/18～3/28の延べ11日

撤去費			撤去運搬量(推計)	
土砂等撤去	28社	16,978,658円	土砂等	4,178.9m ³
家屋解体	9社	13,001,777円	ごみ	390.0m ³
処分費(家屋解体)	2社	15,374,572円	廃棄物(家屋解体)	317.77 t
合計		45,355,007円		



道路側溝の土砂^{しゅんせつ}浚渫

※指名競争入札により、6地区6社で実施。契約期間 平成23年5月27日～8月31日。

事業費 48,972,000円

実施延長 31,400m

4-15 交通の復旧状況

1 市営バス

地震発生当日の利用者への対応

地震発生直後、津波警報が発令されたため、15時より全路線運休とした。乗車中の利用者と営業所待合所でバスを待っていた利用者は、臨時便や公用車で送迎を行った。

定期券の払戻し

運休区間が発生したことに伴い、運休区間が含まれる定期券を所持する利用者に対して、平成23年5月23日から8月31日まで定期券金額の払戻対応を行った。払戻件数は117件、払戻金額は55万8,980円に上った。

停電による影響

被災日当日から続いた停電の影響により、信号機が作動せず、安全な輸送が困難であるため、3月12日、13日の午後5時以降の全路線を運休とした。

また、市営バス運行情報システムが稼働しなかったため、利用者及び営業所が運行状況・位置情報を把握できない事態が発生した。

施設等の被害

津波により、待合所1か所(新産会館前)、停留所3基(上北沼2基、新湊二丁目1基)が使用不能となった。



上北沼停留所の破損状況



上北沼停留所付近の道路状況



新産会館前待合所の被害状況

運休状況

燃料を十分に調達できないため、運行時間を限定した日曜・祝日ダイヤでの運行を実施した。また、道路の破損状況や津波により流された障害物等の影響から、運休区間が発生した。

地震発生当日から運休を続けていたが、燃料が十分に確保でき、かつ安全に輸送が可能となったため、平成23年4月1日より、全区間で平常運行を再開した。

■ 地震当日以降の運行状況

月 日	運行ダイヤ	内 容
3/11(金)	平日	15:00以降 全路線運休
3/12(土)	土曜日	始発～8:00、17:00以降 全路線運休 ・全面運休(終日)
3/13(日)	日曜・祝日	鯨線(白銀経由)、多賀台団地線(八太郎経由)、種差線、 市内循環線、日計線、シーガルビュー線、上柳町循環線 ・一部区間運休(終日) 本八戸駅～ラピア、栄町～ラピア、上左比代～上柳町～労災病院通
3/14(月)～15(火)	日曜・祝日	19:00以降 全路線運休 ※14日11:30～12:40は津波警報発令により全路線運休 ・一部区間運休(終日) 鯨線(湊本町～鯨小学校通) 多賀台団地線(八太郎～多賀台団地) 種差線(法師浜～金浜小学校前) 市内循環線
3/16(水)～23(水)	日曜・祝日	12:00～16:00、19:00以降 全路線運休 運休区間は3/14～15と同じ
3/24(木)～31(木)		12:00～16:00、19:00以降 全路線運休 ※3/24より全路線運行再開
4/1(金)～	平日	平常運行再開

2 南部バス

燃料不足状況

3月14日頃から燃料不足が表面化し、市営バスとの連名で、石油商業協同組合に改善要請を行った。

3月18日頃から市内の石油販売業者の配慮により不定期に燃料を入手できるようになったため運行を継続することができた。

運休状況

燃料を十分に調達できないため、運行時間を限定した土曜日ダイヤ及び日曜・祝日ダイヤでの運行を余儀なくされた。

地震発生当日から運休や特別ダイヤ等による運行を続けていたが、燃料が十分に確保でき、かつ安全に輸送が可能となったため、平成23年4月1日より、全路線平常運行を再開した。

施設等被害状況

施設等の大きな被害なし

■ 地震当日以降の運行状況(南部バス株式会社)

月 日	運行ダイヤ	内 容
3/11(金)	平 日	(16:30～) 岬台線、河原木団地線、ラピア・ピアドゥバス運休 (19:00～) その他の路線バス全路線運休 (15:30～) 高速バス仙台便復路運休 (17:30～) 高速ツアーバス運休
3/12(土)	土曜日	(終日) 岬台線、河原木団地線、ラピア・ピアドゥバス運休 (7:00～17:00) その他の路線バス特別運行(燃料不足) (終日) 高速バス・高速ツアーバス全線運休
3/13(日)	－	(終日) 路線バス、高速バス、高速ツアーバス全便運休
3/14(月)	土曜日	(津波警報発令時～) 岬台線、河原木団地線、ラピア・ピアドゥバス運休
3/15(火)		(終日) 高速バス・高速ツアーバス全線運休 (終日) ラピア・ピアドゥバス、お買物ライナー運休 (～19:00) 路線バス全路線特別ダイヤによる運行(～27日)
3/16(水)～18(金)		路線バス運休区間解消
3/19(土)		高速バス(盛岡線運行再開)(～21日特別)(22日～平常)
3/20(日)		高速バス(仙台線運行再開)
3/21(月)	日曜・祝日	高速ツアーバス(東京線・緊急支援バス)運行開始(～25日)
3/22(火)	土曜日	高速ツアーバス(東京線運行再開)
3/23(水)～26(土)		
3/27(日)	日曜・祝日	
3/28(月)～31(木)	土曜日	
4/1(金)～	平 日	平常運行再開

3 八戸中心街ターミナルモビリティセンター

路線バスの総合案内所としての機能を有する八戸中心街ターミナルモビリティセンター^{*}には、公共交通に関する情報を求めて多数の問合せがあった。

地震直後は、電話が通じにくい状況が続くとともに、停電によりパソコン等による情報収集もできなかったため、スタッフが直接、バス事業者や旅行業者等を訪問して情報収集を行い、収集した情報をセンターの入口や外壁に貼り出すなどして、情報発信を行うとともに、来所者等からの問合せに対応した。

停電からの復旧後も、燃料の不足により臨時ダイヤで運行していた路線バスに関する情報のほか、遠方への移動手段についての問合せに対応するため、飛行機、鉄道、高速バス等についても情報収集し、継続的な情報発信を行った。

※国の緊急雇用創出事業を活用した市の委託業務の活動拠点として、社団法人北海道開発技術センター(当時)が平成22年10月に設置。中心街の空き店舗を有効活用したもので、路線バスの総合案内所としての機能を有する。



八戸中心街ターミナルモビリティセンターでの運行案内掲示状況

4 鉄道

鉄道は、旅客・貨物ともに地震発生直後から全面運休となった。

東北新幹線は、4月29日に全線運転再開したが、被害が広範囲に及んだため、長期間に渡り、一部徐行運転を余儀なくされ、9月23日に通常ダイヤでの運転を再開した。

J R 八戸線は、八戸～鮫間が3月18日、鮫～階上間が3月24日、階上～種市間が8月8日と順次運転を再開した。全線再開までの間、被害の大きかった階上以南では代行バスが運行された。津波での浸水が想定される箇所への避難路の整備を経て、震災から一年余りが経過した平成24年3月17日に全線での運転を再開した。津波で被災したJ R 東日本の在来線では最も早い全線再開となった。

青い森鉄道線は、鉄道施設への大きな被害はなく、点検・復旧作業を進めた結果、3月17日に全線復旧した。

八戸臨海鉄道は、津波で線路設備が多数流出したほか、踏切設備が冠水するなど甚大な被害を受けたが、瓦礫処理や復旧作業の結果、被災した荷主の生産開始前に営業運転の準備を整え、6月2日に運転を再開した。

市では、日常生活や復興に欠かせない交通網復旧への取組として、東北新幹線及び八戸線の早期完全復旧について、国及びJ Rへの要望活動を行った。



閉鎖された八戸駅在来線改札口



八戸臨海鉄道 市川通り1号踏切被災状況

5 高速道路

原稿提供：東日本高速道路株式会社東北支社

NEXCO東日本東北支社管内の計測震度

3月11日に発生した地震やその後の余震の揺れは、各料金所に設置されている地震計で記録される。

本震による最大震度6.2は「大和IC」「泉IC」「仙台東IC」で計測された。

八戸道においては、最大が「九戸IC」の5.4、「南郷IC」が5.2、「八戸IC」が4.7、「八戸北IC」が5.3であった。

また、4月7日23時32分頃に発生した余震では、最大震度6.3が「一関IC」で計測されており、八戸道においては、最大が「軽米IC」の5.1、「南郷IC」が5.0、「八戸IC」が4.1、「八戸北IC」が4.7であった。

高速道路の被災状況・通行止め状況

(1) 被災状況

本震による被災として、東北支社管内の総延長約1,300kmのうち約600kmで被災しており、被災箇所は舗装の損傷を始め、約4,000か所に上り、特に宮城県・福島県に集中した。

幸い、八戸道は被災をまぬがれ、大きな混乱はなかった。

(2) 通行止めの状況

道路管制センターは、各ICに設置されている地震計の値で判断し、通行止めを実施した。

八戸道における通行止めの状況は次のとおりである。

3月11日	14時46分	地震(本震)発生と同時に管内全域(一部除く)で通行止め開始
3月12日	11時00分	八戸道(安代JCT～南郷IC)を含む6区間が緊急交通路に指定
3月12日	12時20分	八戸道(南郷IC～八戸IC・八戸北IC)、百石道(八戸北IC～下田百石IC)で通行止め解除
3月22日	10時00分	八戸道(安代JCT～南郷IC)を含む4区間が緊急交通路の指定解除及び通行止め解除
4月7日	23時32分	地震(余震)発生により23時36分に八戸道(浄法寺IC～八戸IC・八戸北IC)、百石道(八戸北IC～下田百石IC)を含む管内の大部分で通行止め開始
4月8日	3時15分	八戸道(浄法寺IC～八戸IC・八戸北IC)、百石道(八戸北IC～下田百石IC)で通行止め解除

災害対策本部の設置

(1) 地震発生直後の体制構築

東北支社では、3月11日14時46分頃に発生した地震後、速やかに防災体制を構築した。

平成23年3月24日現在

	体制区分	月日	時刻	摘 要
東北支社(地震)	非常体制	3月11日	14時46分～	
	特別警戒体制	3月24日	19時00分～	通行止め解除に伴う交通状況確認後に体制移行
八戸管理事務所	非常体制	3月11日	14時46分～	
	解除	3月22日	10時00分	緊急交通路指定解除

(2) 地震発生直後の災害対策本部・組織

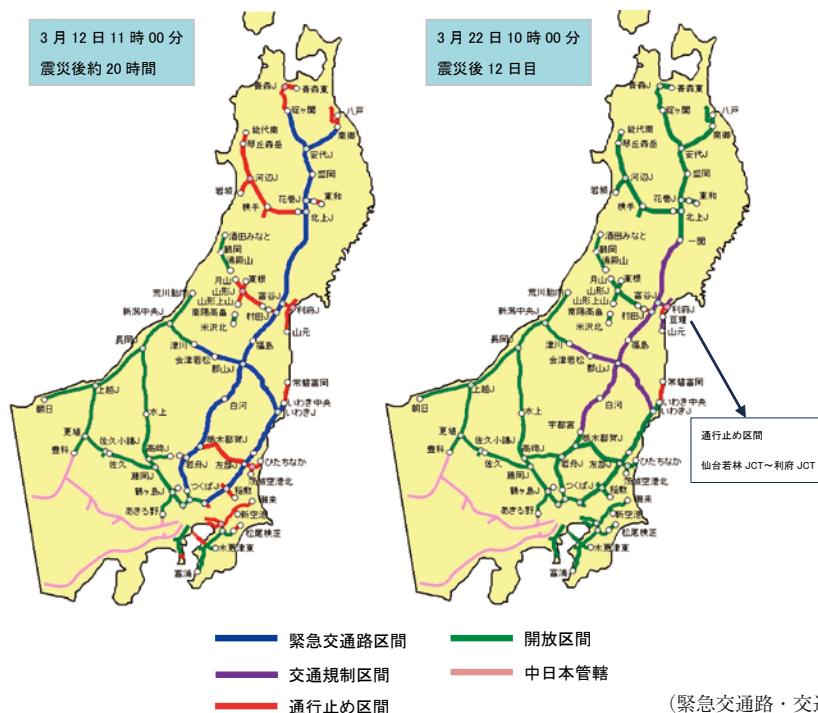
今回の地震では、東北支社長を本部長とする災害対策本部を設置し、情報収集や点検・応急復旧の対応を行った。

また、グループ会社も災害対策本部に参集し、一体となって災害対応に取り組んだ。

交通路の確保

(1) 緊急交通路の指定

今回の地震による被災者の避難及び救出・救助、消火活動等に使用される緊急車両(自衛隊、消防、警察)やこの活動を支援する車両を通行させるため、次の区間を緊急交通路に指定した。



道路の点検及び損傷復旧

震災直後は、現地NEXCO社員が主体となり最優先で特別巡回や状況把握点検を実施した。

その後、グループ会社や協力会社からの支援を受け、応急復旧点検や補足点検を実施し、いち早く被災状況の把握に努めた。



八戸道においては、3月11日に路
福地PA上り線 緊急車両(米軍)通行状況 自衛隊災害派遣車両の折爪SA利用状況
面等の状況把握点検を3班により開始し、その後の2回の大きな余震では、各2班、計4班を追加して点検を実施した。
また、橋梁の下回り等の補足点検を計8班で実施した。

【点検結果】

- ① 停電のため全線(本線、IC、SA・PA)電気設備使用不能
- ② 断水により、SA・PAの手洗・便器洗浄水使用不能
- ③ 構造物の大きな被害はなし

お客様への対応

今回の震災で被災されたお客様や緊急輸送に従事する方に対し、各連絡施設や休憩施設で様々な対応を実施した。

八戸道においても折爪SAで自衛隊や消防などの災害復旧従事車両にカレーライスや豚汁とおにぎりなどの飲食物を無償で提供したほか、福地PA等無人の休憩施設では災害対応自販機による無料提供を実施した。

交通路の無料措置

被災者支援、当面の復旧・復興支援を目的として、平成23年6月から平成23年11月まで東北地方の高速道路において、被災者を対象とした無料措置を実施した。

さらに、平成23年12月から平成24年3月まで、被災地支援、観光復興、避難者支援を目的として、東北地方の太平洋側の高速道路において、全車両を対象とする無料措置などを実施した。

当初、被災証明書等による本人確認が必要であったこともあり、料金所出口でお客さまをお待たせすることも少なくなかったが、料金所係員を増員するなどの対応を行った。

一連の無料措置の実施、見直し、終了の際には、お客さまへ事前にお知らせする十分な期間がなかったが、横断幕や立て看板、ポスター、チラシ、道路情報板等での広報活動を迅速に実施したことにより、お客さまの大きな混乱はなかった。

6 フェリー

川崎近海汽船株式会社が運航する八戸港～苫小牧間のフェリー航路については、ターミナルビルが損壊し復旧に時間を要すること、八太郎北防波堤の損壊により港湾内の静穏度を確保することが困難となったこと等の理由により、八戸港の代替として青森港を暫定利用する状況が4か月ほど続いた。

その後、フェリーターミナルビルが復旧し、また八太郎北防波堤においては6月下旬より中央部の消波ブロック据付工事が始まり、港内の静穏度確保の見通しが立ったことから、平成23年7月11日、1日4便のフェリー運航が再開された。

再開後は、低気圧の影響や、うねりが発生した数日以外は、順調に運航することができた。

また、平成24年4月7日には新造フェリー「シルバープリンセス」が就航。北海道と本州を結ぶ海上交通の大動脈として、八戸港と地域の発展を牽引する追い風になるものと期待されている。



シルバープリンセス入港セレモニーの様子

4-16 被災企業の復旧活動

1 被災企業の復旧活動

当市の震災による被害額は約1,212億円で、その被害の原因は、主に津波によるものである。特に、臨海部に立地する水産業、食品製造業、基礎素材型産業、港湾関連産業の企業群に甚大な損害が発生した。

その中でも特に被害額が大きかったのは、主力工場を当市に有する三菱製紙株式会社である。同社は、防波堤がないことなどから8mを超える高い津波に襲われ、敷地全域が浸水し、7台ある抄紙機が全て稼働不能となった。

迅速に徒歩で避難したことによって、辛うじて人命を失わず、また、周辺道路の渋滞を招かなかったことは、同社の不断の防災対策のたまものであった。

復旧については、翌日から、重機を入れるための汚泥及びがれきの除去から始まり、被害状況の確認、浸水等によって損傷した電気設備、機械設備の交換、洗浄・修繕を、三菱グループや地域のグループ企業の助力を得ながら全速力で行った。

その結果、同年5月には一部操業を再開するまでに至ったが(本格操業は11月)、震災直後の惨状からは想像できない、奇跡的な復旧スピードであったと言える。

今後、同社沖合で計画されている港湾の埋立て及び造成が実施されることで、減災が可能になるものと思われる。

他社においても同様で、地上高1～2mの浸水及び汚泥・がれき侵入に見舞われ、電気設備や機械設備が損傷するなど、多大な被害を被った。一部企業を除き、ほとんどは同年中の復旧を果たしているが、以下に挙げる事業が速やかな復旧に効果を発揮した。また、災害廃棄物受入場所の速やかな設定や官民一体となった廃棄物の撤去も企業の速やかな復旧を後押しした。

なお、操業再開後においても、各企業では、より災害に強い工場づくりに着手している。具体的には、敷地内の避難場所の整備、発電機や通信機器の設置、受電設備の浸水対策及びBCP(業務継続計画)の策定などであり、これらの対策によって、当地域におけるより安全な操業体制が構築されるものと思われる。

青森県経営安定化サポート資金「東北地方太平洋沖地震中小企業災害復旧枠・経営安定枠」の創設

青森県では、震災により事業用資産に直接被害を受け、経営の安定に支障を来している県内の事業者を支援するため、震災直後の平成23年3月15日に「平成23年東北地方太平洋沖地震中小企業災害復旧枠」を創設し、さらに、間接被害を受けた事業者に対して、平成23年3月25日付けで「経営安定枠」を創設し、早期の資金繰り対策を実施した。

平成24年12月末現在、直接被害者向け「災害復旧枠」の八戸管内の利用状況は515件、融資総額159億7,787万5千円であり、県全体でみると、件数で93.5%、金額で94.3%となっている。また、間接被害者向け「経営安定枠」では、市内企業が464件、融資総額73億3,495万円であり、県全体でみると、件数で29%、金額で25.9%となっている。

市では、県の直接被害者向け「災害復旧枠」の利用事業者に対し、被災事業者の主要な資産が全半壊、又は流失したと認められる場合には、青森県と協調し、利子の全額補助を実施し、また、信用保証料についても、同様に県と協調し、全額補助を行っている。

中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業

中小企業のグループに対する施設・設備の復旧について、国・県合わせて4分の3以内の補助を行う「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業」が実施され、当市における第1回目の募集では、水産業グループ、港湾運送・港湾倉庫グループ、造船グループなど6グループが総額37億円の事業採択を受け、さらに、第2回目の募集では、紙パルプ製造業グループ、飼料穀物コンビナートグループ、環境・エネルギー産業グループ、観光産業グループの4グループが総額49億円の事業採択を受け、事業の復旧に取り組んだ。

仮施設設置整備事業

被災地域において事業再開を目指す中小企業に対し、仮設の事務所・工場・倉庫を国が整備し、市町村を通じて貸与する「仮施設設置整備事業」が実施された。

当市では、三菱製紙関連企業を始めとして、市内の漁業協同組合など、平成24年5月末までに、17社に19棟の仮施設が整備され、各社の事業に供されている。



被災事業者の二重ローン対策

青森県では、平成23年12月に「青森県産業復興相談センター」を青森市と八戸市に設置し、被災事業者の二重ローンの相談受付を開始し、早期の事業再生を支援した。

一方、国においても、事業者の債務の負担を軽減しつつ、その再生を図るため、平成24年2月22日に「東日本大震災事業者再生支援機構」を設立し、各県の被災地域の事業再生を支援している。



4-17 農業被害の復旧活動

1 農業被害の復旧活動

災害等廃棄物処理事業

市川地区の農地では、津波の影響により、大量の土砂及び災害瓦礫が流入し甚大な被害を受けた。地元の農地耕作者並びに関係土地改良区から、市へ、農地の土砂及び災害がれき除去支援の強い要望があり、市では、環境省の補助事業である「災害等廃棄物処理事業」を利用し、約24.46haの農地の土砂及び災害がれきの集積及び運搬作業を実施した。

事業主体	八戸市
作業内容	農地に堆積した土砂及び災害がれきを収集し仮置場まで運搬
作業面積	24.46ha
作業期間	平成23年4月下旬～平成23年6月中旬
事業費	19,024千円

東日本大震災に対処するための農用地の除塩に係る特定災害復旧事業

津波被害により塩分が蓄積されたほ場では、作物の生育に悪影響をもたらす恐れがあったため、県では、被災農家を対象に除塩対策についての説明会を開催し、農林水産省の補助事業である「東日本大震災に対処するための農用地の除塩に係る特定災害復旧事業」で、約32.6haの農地の除塩作業を実施した。

事業主体	青森県
作業内容	塩害の除去作業 ①石灰散布 ②耕機・碎土 ③湛水 ^{たんすい} 及び排水(2～3回繰り返す) ※必要に応じて排土及び客土を施す。
作業面積	32.6ha
作業期間	平成23年11月～平成24年5月下旬
事業費	24,075千円

塩害土壌の分析

津波被害により塩分が蓄積されたほ場等(主にいちご)において、各農業者の除塩処理対策の効果及び作物の作付け可否の判断資料とするため、作付け開始までの期間、毎週、農業者からの持込み土壌を青森県三八地域県民局農業普及振興室及び八戸市農業経営振興センターにおいて分析し結果を報告。

指標：EC値(電気伝導度)が0.3mS/cm以下で定植可能

分析点数：278点

分析項目：EC、pH(酸度)

分析期間：平成24年4月28日～9月9日

結 果：4月28日から分析開始(EC値0.3mS/cm以下の土壌：5件/46件中 10.9%)

→9月9日で分析終了(EC値0.3mS/cm以下の土壌：21件/46件中 45.7%)



塩害土壌を用いたいちごの試験栽培

被災農業者のは場より採取した塩害土壌又は除塩処理中の土壌を用いて、生育状況を調査し、いちご定植の可否判断の資料とした。

結 果：EC値(電気伝導度)0.29mS/cm以下の土壌ではいちごの生育が良好であった



塩害に強い作物試験

いちごの代替作物として、塩害土壌においても生育可能な作物の選定試験を実施。いちごが生育不良となるEC値(電気伝導度)0.3mS/cm以上においても生育可能な作物として、次の作物が有効と判断。

塩害に強い作物：あしたば、おかひじき、トマト



水田等塩害防止対策事業(県事業)

海水が流入した水田、畑地の除塩作業に必要となる石灰質資材等の購入費に対し、県が1/2に相当する額以内の額を補助。

事業主体：市川除塩組合

受益戸数：7戸

受益面積：4.25ha

事業費：240,444円(消費税含む)

補助金額：120,000円

4-18 水産被害の復旧活動

1 水産被害の復旧活動

平成23年3月14日、津波注意報の解除を受け、水産関係の被害状況調査を行うとともに、魚市場の応急復旧に着手した。

通年で稼働する第二魚市場は、上水道は問題なく供給されており、受電設備の被害も最小であったことから、卸売業者による場内に堆積した汚泥撤去等の協力を得て、3月16日に市場を臨時的に開場した。津波襲来時に沖合で操業していた小型及び中型底曳網漁船の漁獲物を販売するためであったが、市場前面の岸壁に支障物が潜没しており、漁船の着岸が困難なことから、漁獲物は第一魚市場で荷揚げし、第二魚市場までトラック輸送となった。

第二魚市場の本格稼働は、中型底曳網漁船が操業を再開した翌日の3月22日からとなっている。

第一魚市場及び第三魚市場では、八戸港での盛漁期が始まる7月までの施設稼働を目指し、施設・設備の復旧を進めた。しかし、老朽化が進んでいた第一魚市場の上屋は、安全性の確保が困難と判断し、上屋の撤去を想定した復旧内容としていた。

4月11日、甚大な被害を受けた当市水産業の復旧及び復興を適切かつ迅速に推進するため、水産各分野の代表者による「はちのへ水産復興会議」を設置し、下部組織として、震災で被災した漁船や魚市場、水産加工施設等の復旧に関する事項を検討する「生産・流通基盤復旧部会」、当市の水産業復興に向けた中長期的なビジョンを策定する「水産業復興ビジョン部会」を設けた。

4月21日開催の第1回生産・流通基盤復旧部会において、被災前に第一魚市場及び第三魚市場の既存トラックスケールはピット式で各2基が整備されていたが、この復旧には相当な費用と期間が必要なことから、ピットレス式を各1基整備することとし、また、安全性の確保が困難であった第一魚市場の上屋は、まき網漁業の漁期終了後に解体し、必要最小限の部分に膜構造上屋を設置することとした。

5月21日、第三魚市場で大型いか釣り漁船の漁獲したニュージーランドスルメイカが水揚げされ、第三魚市場が稼働を再開した。

7月、完成検査の目前で被災した荷捌き所A棟及びB棟増築棟において、施設内に堆積した土砂を撤去する応急復旧工事を開始し、併せて、復旧のための調査・設計も実施した。

7月19日、第一魚市場で大中型まき網漁船の漁獲したマイワシが水揚げされ、第一魚市場が稼働を再開した。計量に使用するトラックスケールは、前日に完成し、水揚げに対応することができた。また、業界のさらなるトラックスケール増設の要望に応えるため、その整備を開始した。

11月23日、第一魚市場での大中型まき網漁船による水揚げが終盤となったことから、上屋の解体に着手した。解体は、管理棟西側の膜構造上屋の設置予定場所から開始し、旧上屋の解体と新たな上屋の整備が並行して実施され、膜構造上屋は平成24年3月28日に完成した。

平成24年2月、荷捌き所A棟及びB棟増築棟の災害復旧工事に着手した。B棟増築棟については、6月25日に災害復旧工事が完了し、その後、ベルトコンベアの搬入、計量器の設置等を行い7月23日に供用を開始した。A棟建物本体については、6月30日に災害復旧工事が完了し、内部の魚体搬送設備が整った10月10日より試験稼働を開始した。

5月29日、必要最小限として整備した第一魚市場の膜構造上屋では衛生管理面で不安が残るとして、業界

から上屋増設の要望がなされた。これを受け、現在、増設する上屋の設置工事を行なっているところである。

2 八戸漁業用海岸局の活動

八戸漁業用海岸局(岩崎弘局長)は、主に漁船との通信手段として航海上や操業中の安全周知の情報通信や漁業情報の通信、電報などの公衆通信を24時間体制で行っており、船の安全な航海には欠かすことのできないものである。

地震発生当時、八戸港へ津波が押し寄せ、八戸市水産会館の1階が浸水するなどの多大な被害を受けるなかで、5階の八戸漁業用海岸局には職員が残り、沖に避難した漁船等との連絡手段として活動を続けた。

陸上では停電が発生し、固定電話や携帯電話が通じずに混乱を続けるなか、重油を使った自家発電装置を稼働させ続け、災害の状況や船の状況を逐一伝え、漁業関係者のみならず、海運関係者の重要な情報収集・伝達手段となった。

また、津波により壊滅的な被害を受け、業務の続行が不可能となっていた宮城県漁業無線局と災害協定を結び、平成24年3月31日までその機能を引き継いで業務を行った。

以上の活動が、船の航行の安全に多大な貢献をしたと認められ、平成24年6月1日の「電波の日」に東北総合通信局長表彰を受けている。

4-19 様々な支援

1 支援物資

自治体、企業、団体、個人等からの支援物資の受け入れ等の業務については、福祉班の担当であったが、防災危機管理課に同業務の経験があることなどから、福祉班の態勢が整うまでの間、災害対策連絡本部対策推進班(防災危機管理課)が同業務を担当した。

災害発生直後、物資担当を取り巻く状況は次のとおりであった。

- 災害対策本部は、市庁舎から直線距離で500mほどの長根運動公園内スポーツ研修センターに物資集積所を開設することを決定した。
- 物資担当は、市庁舎別館2階の災害対策本部ではなく、本館4階の防災危機管理課と物資集積所で執務することを決定した。
- まちづくり文化推進室より防災担当経験がある職員1名が応援職員として派遣されたが、当面の間、避難所への配送業務を除き、物資担当への他課からの応援はない(その後、海上自衛隊、給食センターから応援があった)。
- 物資集積所から避難所までの配送は、全庁から車両と人員を調達する(実際は避難所運営業務と重複したため人員の確保が困難であった)。

また、物資担当の人員配置は、業務内容に応じ、自然に次のような人数へと落ち着いた。

- 物資担当本部(市庁舎防災危機管理課内)4名。避難所・避難者情報収集、物資配付計画作成、救援物資受け入れ判断。
- 物資管理担当(物資集積所内)2名。救援物資の搬入、管理、搬出。
- 緊急配送担当(物資集積所内)2名。緊急を要する事案が発生した場合の物資配送。配送が無ければ物資管理に従事。

3月11日

大規模な災害が発生し、多数の避難所が開設され、多くの市民等が避難してきた場合、まず最初に必要となるのが、水・食料と毛布である。

東日本大震災発生当日の避難者は、深夜に約9,300人となり、当市の備蓄食料も毛布も底をついたことから、各避難所から食料、毛布の要請が相次いだ。水については南郷区の一部を除き断水が発生しなかったため、避難所からの要請はなかった。

市では、午後5時50分に県に対し、毛布、食料、水、ストーブ、灯油の支援を要請した。

食料は流通在庫備蓄という考え方のもと、協定を結んでいた市内の小売業者等から提供される予定であっ

たが、電話回線の輻輳などにより連絡をとれなかったケース、大規模停電による店舗の閉鎖を理由に提供を断られるケース、ライフラインの途絶により弁当の作製を断られるケースなどが相次ぎ、八戸駅の観光物産施設からかき集めた弁当やみやげ品と、小売業者が直接避難所へ配送したカップ麺・缶詰等が、市が提供した第1食目となった。当日深夜の避難者数は約9,300人だったが、提供できた食料は約3,000食であり、約3分の1の避難者にしか、当日の夕食を配付できなかった。

この時に配付されたカップ麺について、湯を沸かす手間がかかることから、後に「市は避難所の実態を把握していない」「避難者のことを考えていない」と批判されたが、東日本大震災発生直後の状況下(地震、津波、大規模停電等)では、千食単位で手配できる食料は、カップ麺しかなかったのである。

また、市庁舎と別の施設に物資集積所を開設した場合、物資配送のための開設避難所・避難者数などの情報共有が重要となるが、当市の物資集積所であるスポーツ研修センターは市庁舎の廊下から建物が目視できるほどの距離であったため、可搬型の無線機を使用しての通信が可能であった。災害発生当日は固定電話も携帯電話もつながりにくい状況であったが、無線機が使えたことで、迅速な物資配送の指示が可能であった。その後、電話回線が回復し、物資集積所に専用電話が設置されるまで、可搬型無線機による通信を行った。

3月12日

午前1時40分に県からの支援物資である毛布が到着したのをはじめ、県からのパン、南郷区の自治会・事業所からのおにぎり、陸上自衛隊のおにぎり、五戸町のりんごジュースなどが続々と到着し始めた。特に南郷区からのおにぎり(約7,000個)は、避難している市民だけでなく、八戸西高等学校などに避難していた停止中の新幹線の乗客へも配付することができた。

午前6時から8時頃にかけて、これまで避難者情報が無かった施設から「物資が何も届かない」という連絡が入り、初めて避難所が開設されていることがわかったケースが2件あった。

この日から弁当業者からの納品が可能となり、この日以降、避難者全員に3食を配付することができた。ただし、当初は少ない公用車と人員で配付を行っていたため、朝食が昼近く、昼食が夕方、夕食が深夜の配付終了となった。

夜から市内の一部で電力が回復し始めた。

午後9時には特例市災害時相互応援協定締結市の群馬県伊勢崎市から毛布が届き、すべての避難者に対し毛布が配付された。

また、毛布と食料の手配が一段落したことと、停電が継続していることから、ロウソク、乾電池、暖房用燃料の要望が多く寄せられた。

3月13日

早朝から、新潟県、青森市、弘前市、黒石市より大量の食料が届き、青森県トラック協会三八支部の協力により、市内の避難所へ配送した。

市内の電力がほぼ回復したことから、帰宅する避難者が増えた。

夜間の問い合わせも無くなったことから、物資担当職員は震災発生後に初めて自宅へ戻った(緊急対応時は災害対策本部当直職員が受けて担当者へ連絡する態勢を構築済み)。

3月14日

月曜日となり、企業、団体、個人からの支援物資の申し出が急増した。

過去の被災自治体では、個人からの支援物資、特に被災地のニーズを考慮せずに送られた物資や、様々な種類の物資が一つの箱の中に詰められている物資は、自治体職員やボランティアによる長時間の分別作業が必要となることや、保管にも処分にも多額の経費が発生することから、被災地を襲う「第2の災害」とも呼ばれている。その教訓をいかすために、個人からの支援物資の申し出を断ることとし、災害対策本部の了解を得て実施した。個人からの申し出を受け付けないことについては、市のホームページにも掲載した。

また、自治体、企業、団体等からの申し出は、物資担当と調整することとした。調整内容は、現在必要とされている物資及び今後必要となると考えられる物資か否かの確認と、搬入先を物資集積所とし、市庁舎には搬入しないことの確認が中心であった。

過去の災害において、市庁舎へ大量の物資が搬入されると、市の業務再開の支障となることが課題となっ

ている。津波災害の特徴は、津波の到達ラインを境にして被害の差がとても大きいという点であり、自宅が被災して避難所で生活する住民がいる一方、停電による影響を除けば震災前とほぼ同じ生活を送る市民もいる。震災発生の時期は年度末であり、平日に大勢の市民が各種手続きに来庁することが予想されることから、支援物資が市民サービスの支障となる事態は避けなければならなかった。

当市では、物資集積所を市庁舎とは別の施設に開設したことで個人からの支援物資を受け入れなかったことにより、支援物資が原因で窓口業務に支障をきたすことはなかった。

3月15日以降

15日頃から個人による自宅周辺のカレキ等の撤去のための土のう袋の需要が高まった。

これ以降、自治体、企業、団体等から必要な物資の問い合わせがあった際は、土のう袋を依頼することとした(全国的に品薄状態となっていたようである)。

また、ガソリン・軽油が手に入りにくい状態となり、弁当・物資配送用の公用車の運行に支障が出始めたが、宅配業者から液化ガス燃料車両による配送支援の申し出があり、3月15日から23日までの間、弁当業者から避難所までの弁当の配送を引き受けていただいた。その間の配送時間は正確であり、避難所からも好評であった。

その後、4月1日から5月31日まで物資集積所の管理業務は福祉班に引き継がれたが、6月1日より再び防災危機管理課へ移管され、平成24年3月の物資集積所閉鎖まで続いた。

被災者への支援物資の配付

発災直後から、175の自治体、企業、団体などから様々な支援物資を提供していただいた。

避難所閉鎖の4月末までは、毛布や水をはじめ、食料品、衣類、日用雑貨、医薬品等の避難生活に必要な物資や家電品を避難所へ配付した。

避難所閉鎖後は、八戸市災害見舞金申請者(住家半壊以上等)を対象に配付することとし、物資配付の申請があった被災者433人に米等の食料品を、660人に家電品等を配付した。

食料品・家電品等の配付については、4月末から5月上旬まで申請を受け付け、申請が多かった家電品は5月10日に抽選を実施。5月17日から配送を開始し、5月末には配送を完了した。

【配付した食料品・家電品】

米、インスタントラーメン(袋入り)、カップ麺、レトルトカレー、レトルト米飯、缶詰、リンゴジュース、スポーツドリンク、栄養調整食品、全自動洗濯機、電気炊飯器、CDラジカセ、ポータブルDVDプレーヤー、腕時計、懐中時計、LED電球

2 義援金

市は、義援金の受入口座を平成23年3月15日青森銀行に、平成23年3月28日ゆうちょ銀行に開設し、義援金の受入れを開始した。平成25年1月末現在で約6億1,100万円の義援金が寄せられている。

寄せられた義援金の配分は、東日本大震災義援金配分委員会で決定された。配分委員会は奈良岡副市長を委員長に、田名部副市長、松山教育長、各部・事務局等の部長級17人、並びに市議会議員4人により組織された。配分委員会は4回開催され、義援金の配分を検討し、被災された世帯に対する住家のり災程度に応じた災害見舞金と、地域集会所への災害復旧支援金として支給することを決定した。

※見舞金の配分については238ページに記載

義援金をお寄せいただいた方々

(平成23年3月14日から平成24年4月30日受付分)

※お名前並びにご住所が確認できた方を掲載しています。

「走るぜ!日本」事務局	五戸町
「フレンドリーカップ」参加者一同	八戸市
2011南部黨元フェスタ実行委員会・(株)中合三春屋店	八戸市
21SEIKI 八戸	八戸市
21SEIKI 八戸西	八戸市
21津軽三味線ネットワークジャパン	弘前市
5Rライオンズクラブ	八戸市
ALSOOK 東京総合警備保障株式会社 麻布十番警備隊一同	東京都
B. B-PARAMEDIX株式会社	福岡県
BAR je i	東京都
BAR je i 平野 晋一	東京都
Bar Saude パールサウージ	八戸市
Bar Usquebaugh 代表者 山下克美	広島県
BOOTLEGGERS	東京都
café mousse	青森市
CLASS99. 99 たけだけんじ	兵庫県
Darts Bar Hornet	八戸市
G:Born'S WEAR及び、marble SUDチャリティーTシャツご賛同の皆様	青森市
Gifts	東京都
HiRaMeKi	東京都
KOKO☆KARAプロジェクト	八戸市
Ms. Sara Paretsky	アメリカ
PLAY FOR JAPAN 実行委員会	東京都
PM会	八戸市
POWER TO THE JAPANESE	東京都
R45吹奏楽団	八戸市
RAB サン宝石フェア	青森市
RABまつり実行委員会	青森市
RABラジオ うっちゃんみかちゃんの県南お もしろ事件簿	八戸市
Saloon 語り	八戸市
TAMA協会	東京都
Tokyo Ritz Café	東京都
very berry juice	八戸市
WE ARE THE HACHINOHE	八戸市
Yoga Be Happy	八戸市
yoga Be Happy 日影 美紀	八戸市
ZASH 望月・田中	東京都
相坂 シゲ	弘前市
相坂 めぐみ	青森市
相澤 友之助	北海道
相原 悠紀子	兵庫県
アウトドアライフ グリーンハウス	八戸市
青い森信用金庫	八戸市
青い森信用金庫 河原本支店 ゴルフ親睦会	八戸市
青い森信用金庫 沼館支店 親友会	八戸市
青い森信用金庫 湊支店 信友会	八戸市
青い森信用金庫中居林支店 親友会	八戸市
青木 文	愛媛県
青木 紀子	東京都
青砥 悟	広島県
青森環境マネジメント・フォーラム	弘前市
青森熊さん株式会社	青森市
青森経済同友会	青森市
青森県印刷工業組合 八戸支部	八戸市
青森県営浅虫水族館	青森市
青森県エルピーガス協会	青森市

青森県家庭婦人バスケットボール連盟 西北五地区 ママさんバスケットボールチーム「Switch」	つがる市
青森県行政書士会	八戸市
青森県国保連	青森市
青森県歯科技工士会 八戸支部	八戸市
青森県市議会議長会	八戸市
青森県市議会議長会	弘前市
青森県市長会	青森市
青森県市町村職員共済組合	青森市
青森県自動車車体整備協同組合 八戸支部長	八戸市
青森県素人アイスホッケー協会	八戸市
青森県信用組合八戸支店 けんしんよう麦の会	八戸市
青森県声楽研究会	八戸市
青森県ゼロックス会	八戸市
青森県たばこ組合 八戸東たばこ振興会	八戸市
青森県土地家屋調査士会	青森市
青森県美容業生活衛生同業組合 八戸支部	八戸市
青森県平和労組会議 三八地方本部	八戸市
青森県弁護士会	青森市
あおり県民カレッジ 三八学友会	八戸市
青森県遊技業協同組合	青森市
青森県立三本木高等学校美術部	十和田市
青森県立八戸工業高校生徒会	八戸市
青森県立八戸商業高等学校	八戸市
青森県立八戸南高等学校 (鮫・蕪嶋ボランティア アガイド)	八戸市
青森県立八戸南高等学校 (文化祭)	八戸市
青森県立弘前南高等学校	弘前市
青森県立北斗高等学校 八戸中央高等学校分室	八戸市
青森県りんご協会青年部県南支部	三戸町
青森市少年野球連盟	青森市
青森市日本舞踊会 涼踊会実行委員長 花柳 真藏	青森市
青森市働く女性の会利用者会	青森市
青森自治労連	青森市
青森人 合同観桜会	東京都
青森総合警備保障株式会社	青森市
青森つばめプロパン販売株式会社	八戸市
青森トヨタ自動車株式会社	青森市
青森トヨペット株式会社	青森市
青森モーニングロータリークラブ	青森市
青森ライオネスクラブ	青森市
青森労災病院	八戸市
赤坂 貴博	八戸市
赤坂 チセ	八戸市
赤坂 友康	八戸市
赤羽 敬治	東京都
赤間印刷工業株式会社	八戸市
秋元 悦子	八戸市
秋本 和志	埼玉県
秋元 恵	神奈川県
秋山 慶子	埼玉県
秋山 すみ枝	東京都
秋山 行雄	東京都
明田 久美子	東京都
浅井 恵美子	大阪府
浅井 誠一	東京都
朝井 誠	神奈川県
浅瀬石川土地改良区 役職員一同	黒石市

浅田 美子	神奈川県
浅野 詩織	埼玉県
浅野 順司	東京都
浅野 好恵	東京都
旭ヶ丘町内連合会	八戸市
浅水食品RC	八戸市
浅水七崎土地改良区役職員一同	八戸市
アジアグループ東日本大震災支援の会	埼玉県
芦屋市	兵庫県
麻生しおり後援会	弘前市
安達 陽子	京都府
渥美 智紀・渥美 美保	八戸市
後村 恵子	八戸市
後村 光男	八戸市
アトリエちいさな花	八戸市
穴井 茂臣	福岡県
油井 イヨ	東京都
阿部 敦子	八戸市
阿部 親弘 他3名	八戸市
阿部 和江	八戸市
阿部 和宏	福島県
阿部 勝雄	八戸市
阿部 邦廣	八戸市
阿部 聡子	東京都
阿部 四郎吉	埼玉県
阿部 真砂子	宮城県
阿部 保彦	八戸市
安部 泰博	東京都
安倍 良治	大分県
天海 繁子	埼玉県
天森 伸一	福井県
天谷 利男	東京都
新井 佳寿子	東京都
荒井 静子	東京都
新井 美和子	東京都
新居 恵	山口県
荒川 純哉・荒川 節子	愛知県
荒川 慎太郎	東京都
荒川 博司	静岡県
荒木 久実	千葉県
荒木 憲一	千葉県
荒野 妃美子	愛知県
荒谷 悦子	八戸市
有野 匡睦	東京都
有本 督	神奈川県
アルバック理工株式会社	神奈川県
淡路 憲一	八戸市
安里 誠	沖縄県
アンディ接骨院 安藤康永	神奈川県
安道 武彦	静岡県
安東 正生	秋田県
安藤睦夫先生を偲ぶ会	八戸市
飯田 愛	神奈川県
飯田 順一	千葉県
飯田 紀子	愛知県
飯田市	長野県
飯塚 かず枝	東京都
井岡 恵子	京都府
伊賀 揚江	東京都
五十嵐 栄子	東京都
五十嵐 繁	東京都
五十嵐 孝	野辺地町
五十嵐 卓子	外ヶ浜町
五十嵐 和香	千葉県

イクスピアリ有志一同	東京都
池内 章	神奈川県
池内 敦子	高知県
池田 明美	東京都
池田 勝紀	東京都
池田 研子	東京都
池田 達也	八戸市
池田 光宏	埼玉県
池田 喜人	埼玉県
いけだ歯科	兵庫県
井崎 和子	千葉県
伊佐田 智巳	鳥取県
伊沢 信輝	十和田市
石井 さち子	京都府
石井 繁礼	神奈川県
石井 文子	神奈川県
石岡 繁樹	千葉県
石岡 知華	八戸市
石川 和矢	千葉県
石川 邦子	神奈川県
石川 鎮生	静岡県
石川 遼	神奈川県
石川県アイスホッケー連盟	石川県
石黒 朋美	神奈川県
石郷岡 洋子	青森市
石坂 桃子	東京都
石島 大嗣	東京都
石田 和久	神奈川県
石田 京子	八戸市
石田 晴夫	青森市
石田 理恵子	埼玉県
石塚 真由美	東京都
石戸谷 弘	弘前市
石橋 一男	東京都
石橋 茂幸	福岡県
石橋 祥子	東京都
石原 綾乃	愛知県
石原 典子	宮城県
石藤 英子	八戸市
石丸 義廣	埼玉県
石村 由明子	八戸市
石山 亮子	八戸市
伊集 麻友美	沖縄県
石渡 孝次	東京都
和泉 政八	八戸市
泉 佳子	東京都
泉北園	大阪府
泉北園百寿荘 在宅部	大阪府
泉北園百寿荘 施設部	大阪府
泉北園百寿荘職員一同	大阪府
石動 満美子	八戸市
磯崎 輝男	石川県
磯嶋 光男	東京都
磯谷 和夫	八戸市
井田 武	東京都
井田 千枝	三重県
板垣 幸子	弘前市
伊丹 直子	北海道
板谷 是義・板谷 萬知子	兵庫県
板柳町りんご支会連絡協議会即売部	板柳町
市川 笑也	東京都
市古 美弥子	愛知県
一戸 香月絵	千葉県
一戸親和会	八戸市

市橋 和夫 ほか2名様	埼玉県
市村 博昭	東京都
一葉会	八戸市
五日市 賀奈子	八戸市
一般社団法人 青森県建設コンサルタント協会 八戸地区会員一同	八戸市
一般社団法人 協創育機構	東京都
出河 昭彦	八戸市
出河 きぬ	八戸市
出河 信彦	八戸市
出原 厚子	大阪府
出原 安隆	大阪府
伊藤 章史	静岡県
井東 里美	東京都
伊藤 俊助	青森市
伊藤 セツ	千葉県
伊藤 毅志	八戸市
伊藤 マス	神奈川県
伊藤 美香子	群馬県
伊藤 幹雄	神奈川県
伊藤 勇治	八戸市
伊藤 由香里	東京都
伊藤 洋茂	東京都
伊藤 佳江	東京都
伊藤 義弘	愛知県
伊藤 嘉彦	愛知県
糸岡 幸子	神奈川県
イトーヨーカドー八戸沼館店	八戸市
稲葉 郷志・ミツエ	東京都
稲葉 ミツエ	東京都
稲見 ヒロ子	弘前市
井上 高光・恵介・ゆり・春花・由紀子	秋田県
井上 智子	大阪府
井上 昇	埼玉県
いのちの水チャリティーコンサート実行委員会	八戸市
伊吹 千浪	八戸市
今井 孟	東京都
今井 美由輝	平川市
今泉 稔子	埼玉県
今津 葛	東京都
今宮神社	栃木県
伊良子 智恵子	千葉県
医療法人 愛全会	北海道
医療法人 南六会 職員一同	八戸市
医療法人 弘仁会	八戸市
医療法人 松平病院 福祉事業所 カフェレストラン茶居花	八戸市
イロアール	東京都
色川木材株式会社	八戸市
岩木 昌代	東京都
岩崎 かおる	神奈川県
岩崎 縫子	八戸市
岩崎 一	弘前市
岩崎 久雄	東京都
岩崎 美枝子	八戸市
岩崎 泰伸	八戸市
岩田 美津子	千葉県
岩谷 まさ子	神奈川県
岩渕 亜矢子	愛媛県
岩渕町内会	八戸市
いわぶち響堂	八戸市
岩松 将一	愛知県
岩本 孝弘	岐阜県
植田 浩子	愛知県

上野 郁子	八戸市
上野 和之	茨城県
上野 すぎ	福岡県
上野 高雄	八戸市
上野 富雄	八戸市
上野 信武	八戸市
上ノ山 昌子	千葉県
上畠 ミヤ子	千葉県
上村 恵美子	神奈川県
上村 ツヤ	八戸市
上村 百代	八戸市
上村 優彦	八戸市
魚住 昭彦	埼玉県
鵜飼 恵太	神奈川県
鵜川 奈生子	香川県
右近 佐和子	東京都
牛島 邦彰	愛知県
碓井 隆次	神奈川県
内澤 昭子	八戸市
内城 久勝	埼玉県
内田 直茂	群馬県
内丸えんぶり組	八戸市
内山 直哉	京都府
宇津木 幹夫	東京都
美しき歌謡友の会 一同	八戸市
宇部 晃	八戸市
梅井 祝子	京都府
梅澤 俊行	埼玉県
梅内 義三	八戸市
梅村 恵子	愛知県
梅村 正明	愛知県
浦中 正文	東京都
浦浪 臣晃	兵庫県
浦和西高PTA・OG有志・友人達 代表 廣上 エリ子	埼玉県
え！つくねすか？	東京都
映画「アンダンテ～稲の旋律～」を観る八戸の会	八戸市
絵王 アキ	福岡県
エステサロン P I E R R O T	埼玉県
榎本 みつ枝	東京都
荏原環境プラント株式会社	東京都
海老名 初江	青森市
海老原 章江	東京都
エリカ	八戸市
江連 章江	栃木県
江六前 敦	八戸市
遠嶋 政則	八戸市
遠藤 文彦	八戸市
遠藤 松子	山形県
遠藤 芳直	東京都
えんぶり 山根広子	新潟県
及川 圭行	八戸市
王 艮勝	大阪府
大石 忠雄	八戸市
大分県竹田市長	大分県
大江 佳奈子	東京都
大江 敬子	八戸市
大江 ひとみ	兵庫県
大形 きぬ	三重県
大川 岩男	神奈川県
大川 博	埼玉県
大串 昇一	茨城県
大久保 和子	八戸市
大久保 好夫	東京都

大久保地区連合町内会	八戸市
大蔵工業株式会社	五戸町
大蔵工業株式会社 従業員一同	五戸町
大高 道義	長野県
大越 哲夫	神奈川県
大迫 督治	大阪府
大澤 國宏	神奈川県
大沢 佐奈恵	八戸市
大嶋 清重	栃木県
大嶋 高士	東京都
大島 祐美子	東京都
太田 省三	八戸市
太田 徳次	黒石市
太田黒 貴志	神奈川県
大館公民館	八戸市
大館中学校平成22年度3学年委員会	八戸市
大館連合婦人会	八戸市
大谷 賢二	埼玉県
大西 伊津子	京都府
大西 徹也	大阪府
大沼 祐一	東京都
大野 克子	埼玉県
大野 秀史	埼玉県
大橋 豪	八戸市
大橋 太朗	兵庫県
大橋 久生	千葉県
大橋 洋子	神奈川県
大村 榮作	北海道
大森 浩子	千葉県
大森 裕子	千葉県
大谷 佳寿子	大阪府
公受 秀敏・公受 雅	兵庫県
大山 悦子・大山 沙織	埼玉県
オーロラ社（震旦集団）・コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社	台湾・宮城県
大渡 美穂子	八戸市
岡崎 恵子	大阪府
小笠原 あけみ	十和田市
小笠原 一男	八戸市
小笠原 京子	八戸市
小笠原 航	十和田市
小笠原 幸子	秋田県
小笠原 隆則	八戸市
小笠原 剛	千葉県
小笠原 治仁	むつ市
小笠原 真記子	八戸市
小笠原 正彦	十和田市
小笠原 美幸	八戸市
小笠原 結子	東京都
岡田 啓子	大阪府
緒方 圭介	大阪府
岡田 政雄	東京都
岡田 美来	千葉県
岡田 光雄	つがる市
岡田 由二	青森市
小形 レイ子	弘前市
岡部 アイ子	千葉県
岡部 香織	茨城県
岡本 孝二	石川県
岡安 秋子	神奈川県
小川 恵美子	東京都
小川 茂子	千葉県
小川 浄治	三重県
小川 千枝	茨城県

小川 友彬	東京都
小川 眞利子	東京都
小川 正志	東京都
小川 幸宏	福岡県
小川 洋一郎	八戸市
尾崎 恵美子	神奈川県
沖 秀子	神奈川県
沖口 元明	北海道
荻野 節子	東京都
沖村 經子	大阪府
奥崎 純一	千葉県
奥田 恭子	愛知県
奥地 光男	八戸市
奥津 精次	東京都
奥富 公男	東京都
奥村 早苗	京都府
奥村 友紀	岐阜県
奥村 洋	千葉県
奥村 博幸	北海道
奥村 雅也	岐阜県
奥山 英一	茨城県
奥山 久美子	神奈川県
小倉 秀男	千葉県
小倉 博	大阪府
小椋 博	大阪府
小栗 尚子	神奈川県
桶田 政時	東京都
尾高 美禰子	埼玉県
尾崎 章夫	神奈川県
尾崎 敦子	山形県
尾崎 克治	八戸市
尾崎 昌子	八戸市
尾崎 武夫	大阪府
尾崎 正幸	八戸市
長田広告株式会社 八戸営業所	八戸市
小山内 友美	八戸市
小山内 史晴	五所川原市
長利 清信	埼玉県
小澤 あつみ	神奈川県
尾関 美弥子	東京都
織田 一馬	新潟県
織田 裕康	東京都
小田桐 茂晴	八戸市
織田澤 由香	栃木県
小田八幡宮 氏子・崇敬者一同	八戸市
小田友人会	八戸市
音喜多 きくよ	八戸市
小名木 勇	埼玉県
小野 英司	八戸市
小野 一信	東京都
小野 浩美	大分県
小野 麗子	東京都
小原 久敏	八戸市
オフィスRグループ社員・従業員一同	八戸市
小山田 直留	五戸町
小山田 博典	愛知県
小山田 容子	十和田市
折内 康一郎	岡山県
折川 博紀	神奈川県
海安寺 梅花講一同	八戸市
海上自衛隊 八戸OB会	八戸市
海鮮・郷土料理 安心市場	東京都
快眠ハウス にしむら	八戸市

貝森 一夫	青森市
海洋研究開発機構	神奈川県
加賀 美代子	愛知県
柿内 林	千葉県
柿本 艶乃	千葉県
角海の鳴き砂をよみがえらそう会	新潟県
角田 京子	東京都
加古川市	兵庫県
鹿児島県 枕崎市	鹿児島県
鹿児島大学学生寮	鹿児島県
葛西 清一	千葉県
葛西 征二	愛知県
笠嶋 須美礼	東京都
笠原 秀幸	神奈川県
榎谷 隆夫	東京都
梶谷 綾泉	千葉県
鍛冶畑町内会	八戸市
鹿島 健児	鹿児島県
鹿島町町内会	八戸市
梶本 長子	広島県
梶谷 秀明	八戸市
柏崎 悦子	八戸市
柏崎 裕博	八戸市
柏崎地区小中学校合同 歓送迎会出席者一同	八戸市
柏谷 勉	南部町
春日 晴郎	神奈川県
上総 陽代	大阪府
霞 重雄	東京都
片岡 徹也	東京都
加多木 美緒	大阪府
片桐 洋子	東京都
片田 裕己	静岡県
片山 金子	千葉県
学校法人 林学園	八戸市
学校法人大阪初芝学園 初芝富田林高等学校	大阪府
勝田 正子	北海道
桂 小文治	東京都
加藤 郁夫	神奈川県
加藤 勝行	大阪府
加藤 聡	東京都
加藤 忍	弘前市
加藤 淳子	東京都
加藤 大志	新潟県
加藤 俊文	三重県
加藤 晴子	北海道
加藤 洋人	兵庫県
加藤 安代	青森市
加藤 祐芳	愛知県
加藤咲子とリズム体操クラブ一同	八戸市
角貢園 角浜 守	五戸町
神奈川県横須賀女性ソフトボール連盟	神奈川県
神奈川大学校友会 青森支部	八戸市
蟹沢 格	八戸市
金岡 恵	愛知県
金子 元	北海道
兼子 直	弘前市
金子 伸夫	群馬県
金子 昌隆	神奈川県
金子 美代子	東京都
金子 美光	埼玉県
金田 邦子	長野県
金田 博美	東京都
金濱 剛	八戸市
兼平 一子	つがる市

兼平 敏昭	鯉ヶ沢町
狩野尾 典子	青森市
蒲公英	神奈川県
梶澤 新一	八戸市
蒲谷 英子	東京都
蕪木 勇	神奈川県
蕪木 智也	神奈川県
株式会社 K A M S A	八戸市
株式会社 K A M S A ネバーランド	八戸市
株式会社 UnSourire	東京都
株式会社 アイラボ	東京都
株式会社 アルバック	神奈川県
株式会社 相和技術研究所	東京都
株式会社 青森共同計算センター	青森市
株式会社 青森銀行	青森市
株式会社 アロワーズ	東京都
株式会社 石上建設	八戸市
株式会社 石橋造船鉄工所	鳥取県
株式会社 井手口	東京都
株式会社 伊藤建設工業	八戸市
株式会社 井ノ崎屋 ガスキン井の頭	東京都
株式会社 ウィズウェストジャパン	埼玉県
株式会社 内山溶接工業	新潟県
株式会社 エイトラス	東京都
株式会社 エックス都市研究所	東京都
株式会社 エヌ・イー	長野県
株式会社 オカムラ食品工業グループ	青森市
株式会社 大坂屋	東京都
株式会社 大下内	東京都
株式会社 大紀二プロジェクト	東京都
株式会社 大日堂	東京都
株式会社 岡設計 岡 秀隆 藤井 純子	東京都
株式会社 沖建住宅	沖縄県
株式会社 金入	八戸市
株式会社 ケアラライフ青森	青森市
株式会社 岐阜中発	岐阜県
株式会社 クリタス	東京都
株式会社 グルーヴィン	八戸市
株式会社 コアテクノス	東京都
株式会社 コサカ・ライフサポート	八戸市
株式会社 コサカ技研	八戸市
株式会社 サイキ	弘前市
株式会社 サイキ 社員一同	弘前市
株式会社 サイトスコープ	愛知県
株式会社 サイネックス	大阪府
株式会社 コサキハウジングカンパニー	八戸市
株式会社 薩摩恵比寿堂	鹿児島県
株式会社 サトー防災 職員一同	八戸市
株式会社 サン・コーポレーション 防災組	五所川原市
株式会社 三栄広告社	東京都
株式会社 シティーハウス	八戸市
株式会社 島田書店	東京都
株式会社 ジャピコ ゆりの木ボウル	八戸市
株式会社 商工組合中央金庫	東京都
株式会社 照林社	東京都
株式会社 鈴木屋	東京都
株式会社 セイシンハイテック	八戸市
株式会社 ソーゴ・従業員一同	新潟県
株式会社 大東会館	八戸市
株式会社 ダイバーシティ	東京都
株式会社 武田電子	五所川原市
株式会社 竹村製作所	長野県
株式会社 館建設コンサルタント	八戸市
株式会社 田名部酒販	八戸市

株式会社 丹青社	東京都
株式会社 テクノル	八戸市
株式会社 帝国データバンク	八戸市
株式会社 トライステージ	東京都
株式会社 ドリーム ほんだらけ城下店	八戸市
株式会社 ドリーム ほんだらけ湊高台店	八戸市
株式会社 ドントフードサービス	八戸市
株式会社 ナイス	大阪府
株式会社 中合 三春屋店	八戸市
株式会社 長崎中発	長崎県
株式会社 中野グループ	八戸市
株式会社 七尾家具百貨店	八戸市
株式会社 なんぶ中央タクシー	南部町
株式会社 ノザワ	八戸市
株式会社 野田建工	大分県
株式会社 初田製作所	大阪府
株式会社 パシフィックソーワ	東京都
株式会社 パンダグループ	埼玉県
株式会社 ビーエフエム	八戸市
株式会社 フォーティス	東京都
株式会社 福田百貨店 インターパーク店	栃木県
株式会社 眞照堂	八戸市
株式会社 誠徳物産	十和田市
株式会社 丸大サクラ幸薬局	青森市
株式会社 山匠電気工業	八戸市
株式会社 ヤマハミュージック東北 八戸店	八戸市
株式会社 山村陽一葬儀店	八戸市
株式会社 ゆとり	八戸市
株式会社 ゆとり 社員一同	八戸市
株式会社 ユニバーサルエネルギー研究所	東京都
株式会社 ユニバース	八戸市
株式会社 ユニバース本部 役職者一同	八戸市
株式会社 ヨコハマタイヤジャパン青森カンパニー	青森市
株式会社 ラフスマイル	東京都
株式会社 リターントゥヒューマン	大阪府
株式会社 渡辺海産	八戸市
燕嶋神社	八戸市
釜石 睦民	八戸市
鎌田 満里子	黒石市
勝亦 陽一	埼玉県
釜谷 正代	長崎県
上十三電気工事協同組合	十和田市
上條 正昭	神奈川県
上諏訪温泉 双泉の宿 朱白	長野県
上斗米 正子	神奈川県
神成 シズエ	五所川原市
神の恵みキリスト教会	静岡県
神村 さた	八戸市
神山 絵美子	東京都
鴨川 薫	福岡県
カラオケ舞童愛好会	八戸市
唐川 和敏	福岡県
川井 美枝子	東京都
川合 八重子	埼玉県
川勝 隆之	東京都
川上 亮子	埼玉県
川京 川端 京子	田子町
川口 正夫	東京都
河口 弥生	東京都
川口 夕貴	埼玉県
川口 ヨシ	八戸市
川越 俊次	青森市
川崎 千鶴子	八戸市
河嶋 未麗	東京都

川島 亮	東京都
川杉 安利	東京都
河瀬 佳代子	神奈川県
川添簡易郵便局	鹿児島県
川名 のり子	東京都
川畑 竹子	神奈川県
川畑 豊勝	八戸市
川畑 実	八戸市
川林 久美子	兵庫県
川邊 勝巳	東京都
川村 邦子	五戸町
川村 武史	東京都
河村 長嗣	神奈川県
川村 治美	神奈川県
川本 邦子	東京都
川本 隆	八戸市
川本 陽子	東京都
河原木 敦也	千葉県
河原木 聖子	八戸市
河原木団地連合町内会	八戸市
環境対応型 八戸屋台村 みろく横丁	八戸市
関西バツタ会	大阪府
神田 淳	東京都
がんばれ日本救援隊 とんでん兵	八戸市
企業組合 かぶあがり	八戸市
菊島 芳男	八戸市
菊池 伸一郎	東京都
菊池 みゆき	愛知県
菊池原 一恵	弘前市
岸野 愛実	東京都
木嶋 欣彦	東京都
木嶋 諭	大阪府
岸本 勝美	八戸市
岸本 圭司	千葉県
岸和田市議会事務局	大阪府
北浦 和志	東京都
北奥羽歌謡協会	八戸市
北奥羽広域水道総合サービス	八戸市
北川 純治	三重県
北日本青果株式会社	八戸市
北の台所 おんじき 有限会社 ビュアハウス	東京都
北白山台町内会	八戸市
北原 香織	神奈川県
北原 敏幸	東京都
北分 健一	奈良県
北向 ユキ子	八戸市
北村 正任	東京都
北村 靖信	八戸市
北村 吉男	愛知県
北山 えり子	黒石市
北山 輝夫	八戸市
北山 陽一	東京都
吉川 真弘	高知県
木津 正義	神奈川県
木戸 隆之	東京都
木戸 真希子	徳島県
木村 明子	八戸市
木村 晃	神奈川県
木村 永子	東京都
木村 有花	八戸市
木村 喜美雄	八戸市
木村 金一	青森市
木村 寿人	八戸市
木村 隆子	愛知県

木村 ちよ	八戸市
木村 鉄英	五戸町
木村 ムチ	八戸市
木村 彌三郎	八戸市
木村 優子	八戸市
木村 玲子	京都府
協同組合 八戸中央建設業協会	八戸市
橋本 昭子	神奈川県
旭光通信システム株式会社	神奈川県
清野 レイ子	広島県
清川 真紀	八戸市
きらら花店	千葉県
きれいといやしの部屋委員会	八戸市
金光教 本部	岡山県
伏守 記孝	京都府
櫛引 カツ	栃木県
櫛引 正代	神奈川県
釧路市職員一同	北海道
楠田 恒夫	大阪府
クスリのむらやま	八戸市
久世 奈緒	栃木県
工藤 明善	八戸市
工藤 しえり	三沢市
工藤 好司	三沢市
工藤 善四郎	千葉県
工藤 多賀	東京都
工藤 孝則	山口県
工藤 保	青森市
工藤 美千代	青森市
工藤 光悦	埼玉県
工藤 美代	青森市
久保 順一	神奈川県
久保 勝	埼玉県
久保杉 栄	八戸市
久保田 イト	八戸市
久保田 政子	東京都
久保田 善夫	千葉県
クボタ環境サービス株式会社	宮城県
熊谷 明子	神奈川県
熊谷 俊一	八戸市
熊木 敬治	埼玉県
熊倉 昌子	東京都
熊さん株式会社	八戸市
熊野 瞳	八戸市
グラウンドゴルフ 鳥取羽衣会	鳥取県
クラブ 銀子	東京都
倉持 美枝子	茨城県
倉本 澄枝	東京都
倉本クリニック	八戸市
グリーンプラザなんごう株式会社	八戸市
栗田 亜希子	神奈川県
栗野 ヤエ子	八戸市
栗原 忠義	埼玉県
黒子 佳之	東京都
黒坂 由美	弘前市
黒澤 美静	八戸市
黒澤 誠	群馬県
桑田 章司	埼玉県
桑原 弥生	愛知県
桑山 美和	愛知県
慶長 寿彰	アメリカ
競馬モール株式会社	東京都
兼 賢一	東京都
県坤塑膠機械有限公司	中国

建災防青森県支部三八分会 東八戸地区協議会	八戸市
原水爆禁止日本協議会	東京都
源田 葉子	埼玉県
県南唄と踊りの会	八戸市
小泉 厚夫	東京都
小泉 友二	八戸市
小出 一彰	滋賀県
小出 匡	東京都
小出 理加	静岡県
高石 肇子	大阪府
合木 朋子	岡山県
高木 良子	神奈川県
高橋 美智子	埼玉県
高嶋 一機	東京都
高島 健次	東京都
高周波鑄造株式会社	八戸市
光星学院硬式野球部OB会関東支部	東京都
光星学院野辺地西高等学校	野辺地町
高田 有紀江	八戸市
合同会社 訳工房	東京都
弘南観光開発株式会社	弘前市
高橋 香衣	八戸市
高橋 和裕	茨城県
高橋 三雄	神奈川県
高橋 靖	東京都
高橋 由紀恵	神奈川県
高橋 与一	八戸市
高橋 礼子	東京都
高橋 禮子	八戸市
高林 正子	東京都
神戸 佐智子	東京都
神戸 康弘	神奈川県
高柳 香里	愛知県
高柳 周広・佐江子・舞・周太郎	愛知県
江陽中学校	八戸市
江陽町内連合会	八戸市
コープケミカル株式会社	東京都
古賀 敦子	東京都
古賀 富治	神奈川県
小金沢 暁夫	千葉県
古川 富男	東京都
小河原 俊子	埼玉県
国際ソロプチミスト八戸	八戸市
国土 理恵	大阪府
国分 英道	福岡県
小暮 純也	埼玉県
心の和 代表 小西 礼子	八戸市
小坂 愛	八戸市
小坂 明	八戸市
小坂 忍	八戸市
小坂 弘子	八戸市
小笹 由美子	東京都
越野 美奈子	愛知県
小柴 友紀	東京都
小島 かずよ	埼玉県
小島 國男	愛知県
興水 進	東京都
小杉 直子	東京都
小樽 敏枝	東京都
小館 誠一	七戸町
小谷 宣行	埼玉県
小堤 仁・幸子	東京都
古谷田 ユミ	東京都
児玉 晴子	神奈川県

琴 けい子	神奈川県
後藤 小苗	埼玉県
後藤 正子	むつ市
琴城流大正琴 琴華会 一同	八戸市
小中野保育園	八戸市
小西 秋彦	大阪府
小西 里佳	神奈川県
小沼 則康	埼玉県
五戸 信一	八戸市
五戸 健大	茨城県
五戸 由岐子	八戸市
五戸町立切谷内小学校	五戸町
小橋 徹	鳥取県
小濱 千鶴	福岡県
小林 栄治	兵庫県
小林 香織	神奈川県
小林 高之	東京都
小林 ヒサ	八戸市
小林 元樹	東京都
小林 豊治	東京都
小林智栄舞踊研究所 小林 智栄	八戸市
小林システムサービス	茨城県
小張 春江	東京都
小比類巻 国臣	八戸市
小堀 留美	東京都
駒ヶ根ビューホテル四季	長野県
小宮 豪巳	愛知県
小宮 秀夫	山梨県
小宮山 知明	愛知県
小向 岩蔵	八戸市
小森 国幹	八戸市
小山 君江	神奈川県
小山 隆	神奈川県
小山 麻希子	神奈川県
小山 美雪	八戸市
古山 直樹	岡山県
小山 都	東京都
是川グランドゴルフ	八戸市
是川団地町内連合会	八戸市
今田 健一	静岡県
近藤 敦子	東京都
近藤 正	神奈川県
近藤 環	愛媛県
近藤 真樹	八戸市
紺野 コヨ	八戸市
齊木 隆三	東京都
在京八高同窓会	東京都
在京八高同窓会 河村 喜則	東京都
在京八高同窓会 工藤 昭夫	千葉県
在京八高同窓会 小渡 康朗	東京都
在京八高同窓会 佐々木 隆	栃木県
在京八高同窓会 佐藤 英明	東京都
在京八高同窓会 清水 宜明	千葉県
在京八高同窓会 高野 知佐	東京都
在京八高同窓会 橋本 翔二	東京都
在京八高同窓会 長谷川 穰一	静岡県
在京八高同窓会 福井 元	千葉県
在京八高同窓会 福井 正康	東京都
在京八高同窓会 福井 睦代	東京都
在京八高同窓会 堀田 治	千葉県
在京八高同窓会 又重 英一	埼玉県
在京八高同窓会 三浦 秀夫	千葉県
在京八高同窓会 山内 一道	東京都
在京八高同窓会 山内 勉	東京都

在京八高同窓会 米内 幸男・米内 美智子	東京都
在京八高同窓会 渡辺 庄	神奈川県
最首 公司	東京都
財団法人 青森県市町村振興協会	青森市
財団法人 小原流八戸支部	八戸市
財団法人 全国市町村振興協会	東京都
財団法人 日本漢字能力検定協会	京都府
財団法人 日本交通公社	東京都
財団法人 日本民謡協会 八戸中央支部	八戸市
財団法人 八戸市総合健診センター 職員一同	八戸市
財団法人 八戸地区交通安全協会 田面木支部	八戸市
斉藤 綾子	神奈川県
斎藤 一樹	千葉県
斎藤 一成	愛知県
斎藤 久美子	東京都
斎藤 恵子	東京都
斎藤 茂	八戸市
斎藤 すみ	青森市
斎藤 悠子	八戸市
斎藤 由紀子	八戸市
斎藤 わか子	八戸市
在八宮城県人会	八戸市
在盛青森県人会 会長 工藤 浩	岩手県
佐伯 亜騏男	東京都
酒井 範子	千葉県
坂井 美紀	東京都
榊 俊宏	八戸市
榊 弘子	東京都
坂口 純子	大阪府
坂口 哲也	福岡県
さかなクン	千葉県
坂之下 真二	埼玉県
酒巻 裕一	新潟県
坂本 彰雄	埼玉県
坂本 和子	八戸市
坂本 憲治	熊本県
酒本 直子	東京都
坂本 初恵	東京都
坂本 寛人	東京都
坂本 好男	栃木県
サカモトダンススタジオ	八戸市
先田 英子	埼玉県
崎本 孝	広島県
崎山 道代	富山県
櫻井 安佐子	神奈川県
櫻井 薫	埼玉県
桜木 良枝	東京都
桜田 稔・はすゑ	七戸町
酒プロスト	八戸市
笹生 哲也	北海道
佐々木 カヅコ	八戸市
佐々木 京子	青森市
佐々木 建	東京都
佐々木 公明	神奈川県
佐々木 重雄	八戸市
佐々木 静子	東京都
佐々木 未吉	八戸市
佐々木 千穂	福岡県
佐々木 信義	神奈川県
佐々木 典子	弘前市
佐々木 ハナエ	東通村
佐々木 正明	八戸市
佐々木 雅紀	東京都
佐々木 優花・井上 智	アメリカ

佐々木 義則	埼玉県
佐々木塗料株式会社	八戸市
笹原 重義	千葉県
佐瀬 忠臣	東京都
佐世保市	長崎県
佐竹 三枝子	神奈川県
佐藤 昭男	東京都
佐藤 和子	八戸市
佐藤 儀己子	八戸市
佐藤 匡子	八戸市
佐藤 恵子	神奈川県
佐藤 健二	八戸市
佐藤 賢宏	八戸市
佐藤 佐智子	八戸市
佐藤 周治郎	八戸市
佐藤 祥子	東京都
佐藤 翠華	八戸市
佐藤 世津子	八戸市
佐藤 孝	弘前市
佐藤 武志	新潟県
佐藤 千穂	滋賀県
佐藤 照美	宮城県
佐藤 敏明	北海道
佐藤 都留雄	八戸市
佐藤 信夫	埼玉県
佐藤 英樹	東京都
佐藤 宏	神奈川県
佐藤 正興	山形県
佐藤 政史	岐阜県
佐藤 正年	千葉県
佐藤 まゆみ	東京都
佐藤 光江	七戸町
佐藤 美幸	八戸市
佐藤 豊	弘前市
佐藤 るみ子	山梨県
里中 武己	三重県
早苗 裕子	福岡県
真田 好白	東京都
佐野 千澄	静岡県
佐野 善昭	富山県
佐野 礼子	静岡県
佐比代虎舞	八戸市
鯨公民館 さわやか書道クラブ一同	八戸市
鯨青年会	八戸市
鯨ダンスクラブ	八戸市
鯨バプテスト教会	八戸市
鯨ハマナス友の会	八戸市
鯨町町内連合会	八戸市
佐山 貴美子	青森市
澤 吉男	八戸市
沢井 徳博	八戸市
沢口 敬子	田子町
澤田 英明	東京都
澤谷 まつ子	静岡県
澤野 博幸	埼玉県
澤山 健	神奈川県
澤山 律子	神奈川県
三枝 拓朗	千葉県
三機工業株式会社	東京都
三条中学校生徒会	八戸市
サントリープレミアムモルツカップ実行委員会	八戸市
三八城地区社会福祉協議会	八戸市
三八城ライオンズクラブ	八戸市
三八城連合町内会	八戸市

三広ゴルフ株式会社	八戸市
三瓶 頼男	東京都
塩路 卓也	和歌山県
塩田 義法	熊本県
塩ノ谷 敏子	埼玉県
鹿内 聖子	青森市
重田 紀子	千葉県
獅子内 絹代	八戸市
雫石 芳春	八戸市
志田 昌子	東京都
シダックス株式会社	東京都
シティーハウス友の会 二十五社一同	八戸市
篠崎 美代子	田舎館村
篠田 博子	三沢市
篠原 郁子	東京都
四戸 孝允	千葉県
榛葉 信夫	静岡県
柴垣 亜希子	愛知県
柴田 綾子	青森市
柴田 幸子	神奈川県
柴田 美也	神奈川県
澁口 恵	宮城県
渋谷 章博	宮城県
渋谷 忠寿	山形県
澁谷 徹嗣	埼玉県
島田 和子	大阪府
島田 洋子	愛知県
島原市	長崎県
島原市議会	長崎県
嶋村 彩	静岡県
嶋守 芳雄	南部町
島守地区自治会連合会	八戸市
島守田園空間博物館運営協議会	八戸市
島守春まつり運営委員会	八戸市
清水 絵美	千葉県
清水 賢治	群馬県
清水 悟	茨城県
清水 征子	愛知県
清水 惣一	八戸市
清水 達也	香川県
清水 通陽	神奈川県
清水 俊彦	八戸市
清水 瞳	長野県
清水 義則	東京都
志村 八淑	埼玉県
下大沢 和子	八戸市
下学坪 隆平	八戸市
下田 緑	八戸市
下田面木町内会	八戸市
下斗米 ミヨ子	八戸市
下長根 千賀子	神奈川県
下村 和廣	八戸市
下村 司郎	東京都
下村 輝論	東京都
下村 真実子	東京都
下屋敷 文昭	七戸町
下山 清	群馬県
下山 征二	千葉県
社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団	大阪府
社会福祉法人 浄心会 うぐいす保育園	八戸市
社会福祉法人 浄心会 うぐいす保育園 職員一同	八戸市
社会福祉法人 道友会	八戸市
社会福祉法人 のぞみ会	八戸市

釈通海師	アメリカ
社団 J B日本接骨師会	東京都
社団法人 青森県エルピーガス協会 八戸支部	八戸市
社団法人 青森県測量設計業協会 八戸地区会員一同	八戸市
社団法人 青森県宅地建物取引業協会八戸支部	八戸市
社団法人 ガールスカウト日本連盟 青森県第四団	八戸市
社団法人 全国市有物件災害共済会	東京都
社団法人 全日本司厨士協会北部地方八戸支部	八戸市
社団法人 日本補償コンサルタント協会東北支 部青森県部会 八戸地区会員一同	八戸市
社団法人 八戸観光コンベンション協会	八戸市
社団法人 八戸観光コンベンション協会 八戸史跡 根城の広場	八戸市
社団法人 八戸市アールアール厚生会	八戸市
社団法人 倫理研究所 八戸倫理法人会	八戸市
社民党 八戸総支部	八戸市
上海歴史散歩の会	中国
週刊八戸 瀬川征吉	八戸市
宗教法人 念法眞教 総本山 小倉山 金剛寺	大阪府
自由民主党神奈川県第10選挙区支部 3.11地震募金委員会	神奈川県
十文字 護	八戸市
十役 サト	八戸市
秀和設計コンサルタント株式会社	弘前市
趣味の教室 プチハウス夢工房 講師 関川幸子	六戸町
庄丑会	滋賀県
庄籠 寛	東京都
女声コーラス・プリマヴェーラ	八戸市
白石 リエ	神奈川県
白川 悦子	八戸市
白川 恵津子	東京都
白戸 純子	長野県
白鳥 一	青森市
白鳥 洋	八戸市
白橋 久美子	神奈川県
白銀小昭和26年度・白銀中 昭和29年度卒業生同期会	八戸市
白銀台町内連合会	八戸市
白銀中学校PTA おやじの会	八戸市
白銀南地区老人クラブ連合会	八戸市
城下二丁目町内会	八戸市
城田 由紀子	神奈川県
神 静子	青森市
神 信一	東京都
神 康之	神奈川県
真言宗御室派青年教師会	岡山県
真宗大谷派（東本願寺）	青森県・秋田県
新宿三光商店街振興組合	東京都
新生企業株式会社	東京都
新日本海フェリー	大阪府
新日本海フェリー株式会社	大阪府
新日本婦人の会 青森県本部	青森市
真如苑 救援ボランティア	東京都
神野 直也	兵庫県
神野 由香	栃木県
新橋三丁目中部町会	東京都
新八温泉の朝市会	八戸市
シンフォニープラザ沼館	八戸市
新むつ旅館 川村 久雄	八戸市
新明和工業株式会社	宮城県
新谷 規将	青森市
水 i n g株式会社	東京都

スーパースポーツゼビオ ピアドゥ八戸店	八戸市
杉浦 敬二	東京都
杉浦 秀美	愛知県
杉岡 誠	大阪府
杉田 諭	愛知県
杉田 修一	八戸市
杉田慶一税理士事務所	千葉県
杉山 俊夫	神奈川県
助川 正道	愛知県
洲崎耳鼻咽喉科医院	八戸市
鈴木 亜紀子	東京都
鈴木 和徳	神奈川県
鈴木 喜十郎	東京都
鈴木 純子	埼玉県
鈴木 俊平	東京都
鈴木 澄代	埼玉県
鈴木 孝子	青森市
鈴木 高太郎	東北町
鈴木 卓男	茨城県
鈴木 達雄	千葉県
鈴木 俊雄	八戸市
鈴木 菜穂子	神奈川県
鈴木 奈美江	神奈川県
鈴木 のり子	神奈川県
鈴木 廣	八戸市
鈴木 マツ子	八戸市
鈴木 松弘	八戸市
鈴木 三男	山形県
鈴木 美登利	京都府
鈴木 基之	東京都
鈴木 康江	東京都
鈴木 康子	八戸市
鈴木 洋平	愛知県
鈴木 鮎子	神奈川県
須田 智子	栃木県
スタンドアップ プロジェクト	八戸市
砂渡 義雄	東京都
スフィアスリー株式会社	東京都
住本 雅子	大阪府
李沢 みえ	七戸町
諏訪 明子	神奈川県
諏訪間 フサ と 家族	神奈川県
生駒 久和	愛知県
正調八戸盆踊保存会	八戸市
西北五観光物産協議会	五所川原市
セーリング	大阪府
瀬川 千賀子	東京都
関 頑亭	八戸市
関 重之	神奈川県
関 千枝子	東京都
関 裕子	埼玉県
関口 周平	埼玉県
関口 ナツ	五戸町
関口 英行	千葉県
関野 彩香	八戸市
関野 憲雄	群馬県
関場 渉	茨城県
世田谷区	東京都
芹澤 博美	神奈川県
千井 あゆみ	福岡県
禅源寺	八戸市
全国あかりサミット連絡協議会	北海道
全国市議会議長会	東京都
全国市議会議長会 基地協議会	東京都

全国市長会 水産都市協議会	東京都
全国都市職員災害共済会	東京都
相馬 和子	埼玉県
相馬 省子	弘前市
外崎 誠一	五所川原市
外谷 久子	東京都
園田 寿美子	神奈川県
染谷商事	神奈川県
空水 ミナワチハル	東京都
第30回八戸うみねこマラソン全国大会 参加予定者有志	八戸市
第82回メーデー三八地区集会実行委員会	八戸市
第一清掃株式会社	八戸市
第一三島上町内会	八戸市
大慈寺	八戸市
大成建設株式会社 八政会	八戸市
平 松蔵	八戸市
大和電業株式会社	八戸市
田多 善明	神奈川県
高井 絵美	神奈川県
高岡 フサエ	大阪府
田頭 百百子	八戸市
多賀台長寿クラブ	八戸市
高月 美香	愛媛県
高橋 浅	千葉県
高橋 秀二	神奈川県
高橋 省一	八戸市
高橋 隆雄	八戸市
高橋 武己	埼玉県
高橋 とき子	千葉県
高橋 俊夫	八戸市
高橋 淑子	八戸市
高橋 伸幸	秋田県
高橋 英紀	宮城県
高橋 秀典	秋田県
高橋 良之	八戸市
高橋 秀樹	東京都
高見 欣也	八戸市
高本 達矢	東京都
高山 幸子	八戸市
宝勝寺	神奈川県
宝田 由佳	兵庫県
滝川 ツマ	八戸市
滝川 倫明	東京都
滝口 光子	三重県
瀧澤 泰明	群馬県
滝田 修子	八戸市
瀧田 祥子	神奈川県
田口 敬章	愛知県
竹内 勝彦	東京都
武内 信樹	東京都
竹内 秀和	広島県
竹内 雅彦	兵庫県
武内 まり子	岐阜県
竹内 優芳	東京都
竹内 礼子	東京都
竹澤 峰	東京都
武田 雅典	青森市
武並 博司	東京都
竹野 久子	東京都
竹林 岩美	東京都
竹原 浩一	東京都
竹原 惇子	京都府
武部 尚人	東京都

武部道場 武部 秀則	八戸市
竹本 幸雄	宮城県
竹本 玲子	埼玉県
田坂 淑子	東京都
田澤 仁	新郷村
田代 徳男	五戸町
田代小学校	八戸市
多田 耕二	東京都
橋 美津江	八戸市
橋 義和	八戸市
田子町職員互助会	田子町
伊達 浩司	千葉県
立石 雅昭	東京都
館地区連合町内会	八戸市
館花 ゆき	八戸市
館山 愛子	五所川原市
田中 温子	千葉県
田中 敦子	福岡県
田中 庚司	埼玉県
田中 さくら	南部町
田中 静子	八戸市
田中 聖子	東京都
田中 知則	群馬県
田中 春美	東京都
田中 博子	東京都
田中 真記子	京都府
田中 誠	東京都
田中 美奈子	福岡県
田辺 和代	東京都
田邊 義隆	兵庫県
谷口 榮文	鹿児島県
谷口 峰子	北海道
田端 恵子	八戸市
田原金物店 田原 宏朗	北海道
田部 麻紀	東京都
田片 慶子	静岡県
田保 蓉子	大阪府
玉井 定美	八戸市
玉川 清美	東京都
多摩川精機株式会社	八戸市
玉置 弘司	和歌山県
玉田 美千栄	八戸市
田村 敦司	埼玉県
田村 寛司	南部町
田村 朋子	北海道
田村 稔	北海道
田村 泰弘	八戸市
田村 芳子	静岡県
田面木公民館 編物クラブ一同	八戸市
田面木ビンポンクラブ	八戸市
田山堰土地改良区役職員一同	黒石市
ダンススタジオワンムーブ	八戸市
丹野 光男	神奈川県
チーム とんでん兵	八戸市
チェズニック 知子	千葉県
知野 裕子	八戸市
千葉 和男	八戸市
千葉学園高等学校	八戸市
岐北テレビ	山口県
茶谷 実・茶谷 令子	愛知県
中央発條(株)	名古屋市
中央ライオンズクラブ ネスの会	八戸市
中国四国ブロック 農林水産省担当者協議会	東京都
中発協和会	愛知県

長者相撲愛好会	八戸市
ちょめ	八戸市
陳氏太極拳協会	八戸市
塚原 聡	神奈川県
塚本 啓介	愛知県
つがる海峡ちやか親童 北天舞悠	今別町
つがる市立車力中学校 生徒会	つがる市
月崎 亨	神奈川県
月舘 訓子	東京都
對馬 佳津子	弘前市
ツシマ ケイコ	東京都
津嶋 千穂	東京都
對馬 智子	八戸市
辻丸 篤	滋賀県
辻本 竜一	福岡県
土川 良人	岡山県
土田 堅	神奈川県
椎原 岩雄	東京都
堤 敦子	十和田市
堤 久男	神奈川県
綱木 加奈子	京都府
常澤 美知子	八戸市
坪井 満男	静岡県
坪倉 淳子	京都府
鶴飼 直治	八戸市
鶴川 奈生子	香川県
デーリー東北新聞社	八戸市
勅使河原 彩乃	埼玉県
出原 厚子	大阪府
出原 人志	大阪府
出原 弥生	大阪府
寺井 啓治	八戸市
寺井 のり子	埼玉県
寺本 孝	京都府
寺本 孝	兵庫県
寺山 里恵	埼玉県
デリステーション ふなばし	むつ市
テルウェル東日本株式会社 八戸116センタ	八戸市
出羽海部品友愛会	千葉県
出羽三山友和会	八戸市
天間 喜久子	十和田市
天空村友の会	黒石市
天坂 格郎	東京都
天徳院	八戸市
天内 健介	青森市
天摩 元太郎	八戸市
天理教 三八支部	八戸市
土井上 裕美	東京都
樋原 明憲	大阪府
東亜放送芸術大学 教授 姜 淳卓	韓国
東奥日報販売	青森県
東海舞踊愛好会	八戸市
東京鉄鋼株式会社	東京都
道州制ドットコム	東京都
ドウトレイ 昌子	千葉県
東北アイスホッケークラブ株式会社	八戸市
東北銀行 湊支店 東銀会	八戸市
東北商運株式会社	八戸市
東北電力 八戸電友会	八戸市
東北電力 プラスの会	八戸市
東北東京鉄鋼株式会社	八戸市
東北ビル社内組合	八戸市
トオカワフーズ株式会社 従業員一同	神奈川県
時本 美奈子	埼玉県

特定第三種漁港市長協議会	東京都
特定非営利活動法人 グリーンシティ	八戸市
特定非営利活動法人 ほほえみ	東京都
特定非営利活動法人たねまき	埼玉県
特別養護老人ホーム ほっとハウス 職員互助会	八戸市
独立行政法人 海洋研究開発機構	神奈川県
独立行政法人国立病院機構 八戸病院 親交会	八戸市
利光 哲也	山口県
戸塚 信子	千葉県
戸張 岳史	神奈川県
苦米地 幸子	東京都
富沢特許事務所	八戸市
富士松 武子	東京都
富田 慎一	東京都
友安 花乃	東京都
豊岡商店街協同組合	神奈川県
豊崎地区連合町内会	八戸市
豊嶋 典子	北海道
豊嶋 範子	大阪府
トヨタカローラ八戸株式会社	八戸市
鳥居歯科医院	静岡県
どりいむ 10	八戸市
鳥谷部 清	東京都
十和田市	十和田市
十和田市職員互助会	十和田市
とんでん兵 3. 11を忘れちゃ鳴らねえライブ	八戸市
内藤 キワ子	東京都
内藤 伸治	静岡県
内藤 伸広	東京都
内藤 祐美子	東京都
直井 恵子	東京都
永井 正子	青森市
中居 瑞夫・啓子	神奈川県
中池 礼子	大阪府
長岡市	新潟県
中川原 正治	神奈川県
中川原 安	八戸市
長坂 政幸	東京都
長澤 明美	八戸市
長澤 泰光	大分県
中島 俊浩	長野県
長嶋 雅弘	東京都
中島 美保子	東京都
長瀬 儀三郎	五戸町
長瀬 多鶴子	東京都
中祖 和一	東京都
中田 宇宣	八戸市
中田 吉子	八戸市
中田 りつ子	八戸市
長田広告株式会社 八戸営業所	八戸市
中田面木町内会	八戸市
中塚 一広	山口県
中塚 智恵子	山口県
長根 昭男	七戸町
長根 綾子	東京都
長根町内会	八戸市
中野 勝子	久慈市
中野 茂	三重県
中野 晴夫	八戸市
中野 秀子	東京都
中野 文子	福島県
中野 正男	八戸市
中野 るみ子	八戸市
ナカノフドー建設北東北支店	八戸市

中野渡 進	八戸市
中浜 和代	鳥取県
中原 久	福岡県
中原 嘉則	茨城県
中道 風迅洞	東京都
長峯 亜佐子	東京都
長嶺 りつ子	八戸市
中村 香緒里	神奈川県
中村 和弘	千葉県
中村 清	埼玉県
中村 賢	八戸市
中村 憲一	東京都
中村 幸子	八戸市
中村 早苗	神奈川県
中村 修三	埼玉県
中村 常藏	東京都
中村 禎助	宮城県
中村 徹	三沢市
中村 直美	埼玉県
中村 晴夫	広島県
中村 誠	長崎県
中村 雅俊	東京都
中村 美津子	八戸市
中村 優子	八戸市
中村 洋一	東京都
中村 陽祐	八戸市
中村 礼香	八戸市
中村歯科クリニック	八戸市
中目 忠明	八戸市
中屋 明	富山県
中矢 唯次	八戸市
中谷 美保	兵庫県
中屋敷 十二	八戸市
永山 沙織	千葉県
中山 道隆	福岡県
中山 美代	八戸市
中山 洋子	五戸町
名川チェリーセンター101人会	南部町
名久井 ひとみ	六戸町
名久井 功	静岡県
名阪商事株式会社	京都府
梨本塾事務局	東京都
那須高原友愛の森 ふれあいの郷直売所	栃木県
鳴瀧 尚子	京都府
夏堀 育久子	神奈川県
夏堀 礼二	八戸市
七崎 信吉	八戸市
七田 由利	栃木県
滑川 優子	千葉県
奈良 功	秋田県
奈良 えりか	神奈川県
奈良 清松	弘前市
奈良 卓	八戸市
成田 章	八戸市
成田 勇	平川市
成田 瑛子	弘前市
鳴滝 尚子	京都府
鳴海 晃	弘前市
鳴海 涼子	神奈川県
南郷西自治会長会	八戸市
南郷ボウリングクラブ	八戸市
南部うちょうらんの集い	八戸市
南部芸能協会	南部町
新潟中央会計税理士法人	新潟県

新里 淳子	東京都
新井田虎舞組	八戸市
新見 憲一郎	京都府
新見 竜由	岡山県
新山 東男	東京都
西 納弘	石川県
西 富士男	長崎県
西浦 崇司	石川県
西岡 香織	静岡県
西川 美加	宮城県
西川 美智子	北海道
西沢 信男	青森市
西澤 隆平	青森市
西館 司	愛知県
西谷 正徳	弘前市
西原 明美	東京都
西原 克己	東京都
西原 耕平	大阪府
西原 サヤ子	東京都
西原 朋美	東京都
西部 悠子	東京都
西間木 久子	埼玉県
西村 雅子	八戸市
西村 豊	南部町
西森 尚子	熊本県
西谷 未央	青森市
西山 達二	大阪府
日東石膏ボード株式会社	八戸市
ニッポン・アクティブライフ・クラブ 東葛拠点	千葉県
二藤部 健一	埼玉県
二宮 亮介	京都府
日本医療福祉生活協同組合連合会	東京都
日本棋院 八戸支部	八戸市
日本共産党中央委員会	東京都
日本高周波鋼業株式会社	東京都
日本将棋連盟 八戸支部	八戸市
日本大学 八戸櫻門会	八戸市
日本電子計算機株式会社	東京都
日本舞踊を勉強する会	八戸市
株式会社アート&コミュニティ	八戸市
日本ボーイスカウト東大阪第2団	大阪府
日本マントル・クレスト(株)	東京都
日本郵政募金会	東京都
庭 達哉	千葉県
庭 正樹	埼玉県
沼田 博敏	茨城県
沼館・城下振興会	八戸市
根木 秀典	北海道
根岸 幸一	兵庫県
根岸 幸久	静岡県
根岸コーラスクラブ&ありがとう20周年 ハートフルコンサート募金箱 長浜 晶子	八戸市
根岸地区社会福祉協議会	八戸市
根岸地区連合町内会	八戸市
根城 節子	八戸市
根城レックダンス あっぶるクラブ一同	八戸市
根城地区民生委員児童委員協議会	八戸市
ネットヨタ青森株式会社	青森市
ネバーランド	八戸市
根室市	北海道
根本 千恵子	八戸市
農協 浪岡青年部	青森市
野口 侑子	千葉県
野口 絵未	埼玉県

野坂 里絵	北海道
野崎 栄子	八戸市
野崎 文位	東京都
野沢 節	東京都
野澤 要一	埼玉県
乗照寺	八戸市
野田 貞幸	愛知県
野月 和	八戸市
野月 孝悦	十和田市
能登 哉子	三重県
能登 玉江	三重県
能登 由佳	三重県
延原 和子	大阪府
ノバルティスファーマ株式会社	東京都
延原 和子	大阪府
昇 徳子	埼玉県
野村 哲	千葉県
野村 千草	愛媛県
野村 典子	神奈川県
野村 美子	むつ市
野呂 迢	つがる市
野呂 信文	青森市
バー・ピローズ 北岡	神奈川県
ハーダウン商事株式会社	千葉県
萩原 春夫	神奈川県
萩原 庸嘉	東京都
白山台華の会レクリエーションダンス	八戸市
白山台連合町内会	八戸市
箱石 裕	八戸市
榛葉 信夫	静岡県
ばしふいっくびいなす 乗船客及び乗務員有志一同	大阪府
橋目 敏行	岡山県
橋本 長	八戸市
橋本 浩子	八戸市
橋本 満紗子	京都府
橋本 操	東京都
橋本 祐司	東京都
芭蕉流煎茶道 八戸支部 上山キエ	八戸市
長谷川 昭夫	八戸市
長谷川 治夫	八戸市
長谷川 譲	鯉ヶ沢町
長谷川 葉	神奈川県
長谷川 好美	青森市
長谷部 澄子	八戸市
長谷部 大地	八戸市
畑井 香央里	青森市
畠山 しづか	青森市
畑中 史明	東京都
はちえきキャンパスin八日町	八戸市
はちえきペトロサービス株式会社	八戸市
八高山の会 山田 武弘	奈良県
八商3B会	八戸市
八商高6回生 喜寿を祝う同期会	八戸市
八商同窓会東京支部	東京都
八虎水産加工株式会社	神奈川県
八戸・三沢ユニークパレエ	八戸市
はちのへYOSAKOIまつり	八戸市
八戸ウインドアンサンブル	八戸市
八戸植木園芸協会	八戸市
八戸えびね愛好会	八戸市
はちのへ音楽愛好会	八戸市
八戸ガス株式会社	八戸市
八戸観光コンベンション協会 史跡根城の広場	八戸市
八戸看護専門学校	八戸市

八戸缶詰株式会社 役職員一同	八戸市
八戸カントリークラブ チャリティーコンペ	階上町
八戸北ロータリークラブ	八戸市
八戸郷土料理 いちい	東京都
八戸クリニック	八戸市
八戸工業高校	八戸市
八戸工業高校生徒会	八戸市
八戸工業大学第二高等学校 生徒会、父母と教師の会	八戸市
八戸工大一高生徒会	八戸市
八戸高等学校同窓会 京阪神支部	大阪府
八戸ゴルフアカデミー	八戸市
八戸是川地区振興会	八戸市
はちのへ災害復興支援実行委員会	八戸市
八戸市鷗盟大学 学友会	八戸市
八戸市大館児童館 母親クラブ	八戸市
八戸市カクテルコンペティション 実行委員会	八戸市
八戸市合唱連盟	八戸市
八戸市鷗盟大学 詩吟クラブ員一同	八戸市
八戸市鷗盟大学ダンスクラブ連合会	八戸市
八戸市グラウンドゴルフ協会	八戸市
八戸市建築組合	八戸市
八戸市市友会	八戸市
八戸市森林組合	八戸市
八戸市赤十字奉仕団	八戸市
八戸市赤十字奉仕団 下長分団	八戸市
八戸市第4内丸町内会	八戸市
八戸市庁野球部	八戸市
八戸市パークゴルフ協会	八戸市
八戸市バドミントン協会	八戸市
八戸市ボランティア連絡協議会	八戸市
八戸市民VＢリーグ	八戸市
八戸市民フィルハーモニー交響楽団	八戸市
八戸商工会議所青年部	八戸市
八戸職親会	八戸市
八戸女流絵画展 吉田 幸子	八戸市
八戸市ラージボール卓球協会	八戸市
八戸市陸上競技協会 審判員一同	八戸市
八戸市立江南小学校 父母と教師の会	八戸市
八戸市立下長中学校	八戸市
八戸市立白銀南中学校	八戸市
八戸市立第二中学校 生徒会	八戸市
八戸市立第二中学校昭和41年度卒業生有志一同	八戸市
八戸市立豊崎小学校 平成22年度卒業生一同	八戸市
八戸市立白鷗小学校	八戸市
八戸市立白山台公民館	八戸市
八戸市立白山台中学校生徒会	八戸市
八戸市立北稜中学校	八戸市
八戸市連合婦人会	八戸市
八戸市老人福祉センター 馬淵荘利用者 有志一同	八戸市
八戸セールスプレーヤー協会	八戸市
八戸セメント株式会社	八戸市
八戸短期大学 光華祭実行委員会	八戸市
八戸地区土地区画整理士協議会	八戸市
八戸中央青果株式会社	八戸市
八戸中央法律事務所	八戸市
八戸中央ライオンズクラブ	八戸市
八戸陶芸愛好会 後藤 孝一	八戸市
八戸友の会	八戸市
八戸南部裂織工芸 白銀公民館裂織クラブ	八戸市
八戸南部裂織工房「澄」	八戸市
八戸ニュータウン分譲促進協議会	八戸市
八戸農業協同組合	八戸市
八戸ビーチサッカー実行委員会	八戸市

八戸東高校 生徒会	八戸市
八戸東高等学校 松友会 東京支部	茨城県
八戸東友会	八戸市
八戸ビックバレー運営事務局	八戸市
八戸福音キリスト教会	八戸市
八戸婦人ボランティア いちいの会	八戸市
八戸佛教会	八戸市
八戸プラザホテル	八戸市
八戸平原土地改良区	八戸市
八戸メンネル・コール 瀬川 叡	南部町
八戸モータースクール	八戸市
はちのへ山車振興会	八戸市
八戸横丁連合協議会	八戸市
八戸リハーサルジャズオーケストラ	八戸市
八戸臨泉会	八戸市
八戸臨海開発株式会社	八戸市
八戸ローターアクトクラブ	八戸市
八甲田地区パークボランティア連絡会	青森市
八田グループ	八戸市
八田神佛具店 八田グループ 有志一同	八戸市
服部 和子・服部 綾佳	東京都
服部 良美	三重県
羽藤 嘉子	埼玉県
花井 里子	東京都
花田 昭則	東京都
花とおどり愛好会	八戸市
花と踊り愛好会	八戸市
花野 紀子	新潟県
馬場 和広	千葉県
馬場 天信	京都府
濱田 隆史	神奈川県
早川 義郎	東京都
早坂 一枝	八戸市
林 常男	八戸市
林 雅代	東京都
林 真行	八戸市
林 美香	八戸市
林 みさを	八戸市
林 葉子	東京都
林 芳枝	神奈川県
林崎 淳比古	神奈川県
早瀬 公夫	静岡県
原 秀平	栃木県
原 哲弥	大阪府
原 廣	大阪府
原子 ひさ	青森市
原島 多江子	東京都
原田 和美	兵庫県
原田 聡彦	神奈川県
原田 武彦	愛知県
原田 珠実	北海道
原田 真由香	平川市
パワーズ連絡協議会	八戸市
はんこの店タジマ ご利用のお客様	八戸市
はんこの店タジマ御利用のお客様・ 街のカメラ屋さん 八戸店	八戸市
日朝 秀宣	東京都
日馬 信夫	千葉県
比嘉 貞治 服飾研究所	沖縄県
日景 清辰	神奈川県
日景 典子	秋田県
日影 美紀	八戸市
東中居林町内会	八戸市
東日本高速道路株式会社 東北支社 八戸管理事務所	八戸市

東糠塚百働会	八戸市
東野 清	八戸市
東フォークダンスクラブ	八戸市
光硬化工法協会	東京都
光谷 進	むつ市
ビクター歌謡音楽研究会 認定講師 小林忠男	八戸市
樋口 順一	東京都
樋口 知久	栃木県
久坂 京子	北海道
菱川 奈津子	岡山県
菱谷 守	弘前市
日立造船株式会社	東京都
秀純会 会長 吉岡 浩	五所川原市
一橋大学 如水会	東京都
日向 鐵雄	八戸市
日向ぼっこ村	埼玉県
日野 真里	神奈川県
日計町内会	八戸市
ひまわり保育園 職員一同	八戸市
冷水 二三子	埼玉県
美容室 L a b	栃木県
美容室 ピース	東京都
屏風山蔬菜生産組合	つがる市
平内 智子	八戸市
平野 真由美	東京都
平間 論	埼玉県
弘前市建設部	弘前市
弘前市卓球協会	弘前市
弘前市陸上競技協会	弘前市
弘前市立大成小学校 6学年 P T A	弘前市
廣瀬 美穂子	佐賀県
広瀬 経之	千葉県
広瀬 浩之	岐阜県
廣畑 篤	大阪府
ファースト商事株式会社	東京都
フィッシングエリア ウキウキランド タックルショップ ブレイク UKイブニングマイスター vol1参加者	八戸市
深井 瞳	神奈川県
深浦 康市	東京都
深浦町	深浦町
深沢 資子	神奈川県
深瀬 美恵子	埼玉県
深瀬 良平	千葉県
深堀 ヨガスクール	東京都
府川 敬子	東京都
福井 富治夫	八戸市
福井 康夫	東京都
福岡 淳治	東京都
福岡青葉道院	福岡県
福島 由美子	埼玉県
福島小学校昭和29年卒業生有志	弘前市
福寿会	青森市
福田 和生	八戸市
福田 孝二	三重県
福田 達史	大阪府
福岡 由美	東京都
藤井 絵美子	東京都
藤井 和幸	群馬県
藤井 敬郎	広島県
藤井 賢一	千葉県
藤井 猛史	千葉県
藤井 徹	広島県
藤井 哲也	山梨県
藤井 峰雄	東京都

藤井 裕貴	三重県
藤井 良一	秋田県
藤岡 正隆	北海道
藤木 善弘	兵庫県
フジグローバルスカイ株式会社（藤村 優馨）	埼玉県
藤崎 均	東京都
藤代 國忠	東京都
藤田 隆	弘前市
藤田 美智子	八戸市
藤米 邦子	静岡県
藤森 由理	八戸市
藤原 大樹	弘前市
藤原 隆義	神奈川県
藤原 孝光	大阪府
藤原 文雄	八戸市
婦人之友社 自由学園 全国友の会	東京都
二塚 佳永子	富山県
復興フォーラム i n 八戸 実行委員会	八戸市
フットサルプラザ八戸	八戸市
船越 正行	八戸市
船戸 恵子	東京都
船場 五郎	八戸市
船場 泰文	八戸市
フラワーコーラス	八戸市
フラワーショップ フジガーデン	八戸市
フランソワ王国 國友芳樹	大阪府
プリンスアイスワールド チームリーダー 八木沼純子	東京都
古川 喜久枝	八戸市
古川 幸四郎	平川市
古川 玉緒	千葉県
古川 勉	八戸市
古川 伸子	東京都
古川 延弘	八戸市
古川 陽子	田舎館村
古里 聡子	青森市
ふるさと南郷会	東京都
古畑 義和	愛知県
フレッシュヤーズ	八戸市
ヘアースペース K	東京都
ヘアースペース K スタッフとお客様一同	東京都
ヘアスペース K お客様一同	東京都
平成22年度 中居林小学校卒業委員会	八戸市
紅屋商事株式会社	青森市
戸来 節子	神奈川県
ベル・エポックを支援する会	八戸市
法田 勇 虫	東京都
ほうてん駅前整骨院	千葉県
ボートビアンなんぶ 株式会社グッドワン	南部町
ボートビアンなんぶ マリン開発株式会社	南部町
北電工業株式会社	八戸市
ボクブロック株式会社	東京都
星 広蔵	神奈川県
星 依見	東京都
星川 秀雄	大阪府
細越 隆志	静岡県
細野 元弘	岡山県
ほっこりする京の町屋 上野屋	京都府
穂積 信夫	広島県
穂積 弘樹	八戸市
堀 伸二	八戸市
堀 秀敏	八戸市
堀 弘美	群馬県
堀内 加代子	埼玉県

ポリエチレンライニング工法協会	兵庫県
堀川 和之	広島県
堀北 昭雄	東京都
堀口 純代	東京都
堀田 矢須	埼玉県
ほんだらけ 湊高台店	八戸市
まいくらぶ	八戸市
前川 さき・前川 なな	兵庫県
前田 恵美	北海道
前田 智之	弘前市
前村 孝志	山梨県
牧野 三郎	青森市
牧野 肇	東京都
枕崎市議会	鹿児島県
眞信山 蓮向寺	神奈川県
眞照堂グループ社員一同	八戸市
真崎 晴子	八戸市
まさご整骨院	千葉県
政田 浩江	大阪府
まさひろ林檎園	弘前市
間島 愛子	千葉県
間島 紀世子	千葉県
間島 多津子	千葉県
増沢 美幸	八戸市
増田 栄治	埼玉県
増田 美由紀	東京都
増田 美代子	宮城県
町田ゴルフ練習場	東京都
街づくり包パオ株式会社	八戸市
街の朝市会	八戸市
松井 明子	神奈川県
松井 翔吾	東京都
松井 せつ子	愛知県
松井 陽子	愛知県
松井 庸介	八戸市
松井精肉店 小川正信	東京都
松尾 令子	八戸市
松岡 和子	東京都
松岡 茂生	兵庫県
松隈 乃太郎	福岡県
松崎 怜子	東京都
松沢 宣子	十和田市
松澤 義美	八戸市
松下 薫	鹿児島県
松下 順子	北海道
松下 祐子	愛知県
松添 上代	東京都
松園町町内会	八戸市
松永 ひと美	東京都
松野 春枝	千葉県
松原 典子（英国ハーロー町民代表）	イギリス
松原 宏子	千葉県
松丸 慶子	東京都
松村 正	八戸市
松村 浩	八戸市
松本 けい子	八戸市
松本 大	東京都
松本 光永	東京都
松本 容子	北海道
松本市長	長野県
松山 幸	神奈川県
松山 暢子	東京都
松山 朋子	東京都
まつりんぐ 芸能愛好会 代表 上久保 豊子	八戸市

的場 順子	大阪府
蒔苗 勝雄	青森市
真野 わか	東京都
マルイ鍍金工業株式会社	兵庫県
マルエス自工株式会社	八戸市
丸岡 テラ	東京都
丸島 信之	千葉県
丸清運輸株式会社	静岡県
丸の内朝大学写真クラス 受講生有志	東京都
丸本 豊	大阪府
満重 信子	八戸市
萬瀬食堂	東京都
まんぶるず 渡邊 奈穂子	青森市
三浦 和子	岩手県
三浦 きよ美	八戸市
三浦 節子	青森市
三浦 智恵子	弘前市
三浦 哲郎	北海道
三浦 豊子	東京都
三浦 紀文	愛知県
三浦 久子	八戸市
三浦 紘一	八戸市
三浦 真紀	八戸市
三浦 正也	埼玉県
三神 修司・千敦	北海道
三上 卓矢	東京都
三上 哲郎	八戸市
三木 甫	八戸市
岬台地区連合町内会	八戸市
三沢市立第一中学校	三沢市
三沢総合チャームスクール MC S ナホクフラダンス	三沢市
水尾 理	三沢市
水落 祐樹	神奈川県
水落 悟史	埼玉県
水上 なつみ	神奈川県
水越 靖二	埼玉県
水谷 和幸	岐阜県
三田 幸代	東京都
三田 光子	東京都
三鷹の森通り東栄会	東京都
三谷 康子	埼玉県
みちのく吟詠会	八戸市
みちのく銀行グループ (株式会社 みちのく銀行) (みちのく信用保証株式会社) (株式会社 みちのくオフィスサービス) (みちのくカード株式会社)	青森市
みちのくりサイクル運動市民の会	八戸市
三井 正宏	栃木県
三井金属鉱業株式会社	東京都
三菱マテリアル不動産株式会社	東京都
三菱レイヨン株式会社	東京都
三広ゴルフ株式会社	八戸市
水戸市立 双葉台小学校 JRC委員会	茨城県
湊商栄会	八戸市
湊高台二・四丁目町内会	八戸市
湊復興ジャズライブ	八戸市
湊ヨガクラブ	八戸市
南 徳安	八戸市
南田面木町内会	八戸市
実野 法秀	神奈川県
三橋 千恵	東京都
三橋 喜文	東京都

三村 季文	神奈川県
三村 裕一	兵庫県
宮川 ゆり子	東京都
宮城 英明	北海道
宮城社 八戸 内田陽子社中	八戸市
三宅 正一	埼玉県
宮崎 トモ子	福岡県
宮沢 太次郎	八戸市
宮嶋 智徳	愛知県
宮田 洋子	福岡県
宮代簡易郵便局	和歌山県
宮原 明	東京都
箕山 美佐	千葉県
宮本 清彦	京都府
宮本 盛司	八戸市
宮本 直俊	愛媛県
宮本 寛	宮城県
宮本 佳昭	奈良県
みらい建設工業東北地方太平洋沖地震義援金	東京都
ミライフ東北株式会社 八戸店	八戸市
向井 麻理子	階上町
向田 典子	埼玉県
陸奥常盤郵便局	藤崎町
棟方 健治	八戸市
村井 浅子	八戸市
村尾 英二	大阪府
村上 一成	東京都
村上 隆	青森市
村上 知子	大阪府
村上 康徳	奈良県
村田 政博	神奈川県
村松 罔夫	八戸市
村元 加奈枝	八戸市
村山 尚子	八戸市
村山 弘	弘前市
室蘭地区トラック協会静内支部	北海道
明治大学校友会 八戸地域支部	八戸市
明治安田生命保険相互会社	東京都
目澤 亘司	八戸市
目々沢 富子	東京都
麺屋 やだら	八戸市
毛利 奈都子	青森市
最上 歌子	東京都
望月 忠晴	京都府
本明 豊	東京都
本島 純子	東京都
本橋 謙治	東京都
本山 和子	神奈川県
盛 千晴	八戸市
森 宏之	神奈川県
森内 一博	埼玉県
森口 明美	兵庫県
森口 直	京都府
森下 嘉治	東京都
盛田 愉美子	神奈川県
森谷 昭	神奈川県
森脇 令子	東京都
八重坂町内会	八戸市
矢儀 和子	石川県
八木 直子	埼玉県
八木橋 充信	弘前市
矢口 桂子	茨城県
矢口 麻里子	茨城県
矢嶋 英子	京都府

矢矧 喜史	神奈川県
保足 あすか	東京都
安井 麻由香	埼玉県
安井 るり子	八戸市
安形 和明	愛知県
安ヶ平 育子	八戸市
安ヶ平 弘治	八戸市
安ヶ平 ノブ	八戸市
安田 悦子	東京都
安永 豊	東京都
安間 俊介	東京都
ヤッサイなんごう友の会	八戸市
柳沢 秀雄	東京都
柳田 隆	八戸市
柳田 敏行	兵庫県
柳町 テツ子	八戸市
やの鍼灸接骨院	大阪府
矢端 真観	群馬県
山内 繁勝	東京都
山内 直子	八戸市
山岸 ツギエ	熊本県
山岸 久子	東京都
山岸 博	八戸市
山岸 素子	新潟県
山口 清継	東京都
山口 恵子	北海道
山口 早苗	東京都
山口 祥子	東京都
山口 千寿	宮城県
山口 森平	神奈川県
山口胃腸クリニック	八戸市
山腰 育也	大阪府
山越 ミエ子	北海道
山崎 和雄	東京都
山崎 直也	神奈川県
山下 忠	東京都
山下 忠一郎	秋田県
山下 淑子	東京都
山下 晴史	福岡県
山下 英夫	八戸市
山下 三津子	東京都
山下 由郁	東京都
山添 明延	千葉県
山田 悦子	福井県
山田 佳代	東京都
山田 恵蔵	東京都
山田 耕司	八戸市
山田 幸代	千葉県
山田 繁	埼玉県
山田 静馬	神奈川県
山田 清一	神奈川県
山田 隆	八戸市
山田 剛	千葉県
山田 得子	八戸市
山田 俊行	神奈川県
山田 秀樹	東京都
山田 道義	八戸市
山田 ムツ	青森市
山田 靖子	神奈川県
山田 やよい	福井県
ヤマダイ興業運輸株式会社	八戸市
山館 恵美子	青森市
山地 節子	八戸市
山地 實	八戸市

山中 ジロ	東京都
山野 由実	新潟県
山野内 えり子・佐々木比左子	八戸市
山道町内会	八戸市
山村 佳央	東京都
山本 明紀	奈良県
山本 かお子	八戸市
山本 佐智子	山口県
山本 祥治	八戸市
山本 節子	八戸市
山本 千鶴子	むつ市
山本 治子	福岡県
山本 文子	千葉県
山本 眞三	東京都
山本 正生	神奈川県
山本 雅子	宮城県
山元 佳子	山口県
山谷 幸司	愛知県
山谷 敏満	東京都
有限会社 L a b	栃木県
有限会社 アートラス	八戸市
有限会社 赤坂鉄工所	八戸市
有限会社 後村商店	八戸市
有限会社 大崎電工 大崎勝則	東京都
有限会社 上北燃料	八戸市
有限会社 北日本紙器	八戸市
有限会社 銀商事	東京都
有限会社 熊谷造船	野辺地町
有限会社 クレエケイズインク	奈良県
有限会社 慶長	八戸市
有限会社 ゴルフショップグルッペ	八戸市
有限会社 サンケイエンジニアリング	東京都
有限会社 ジェイエコーズ	長野県
有限会社 シェルプール製菓	大分県
有限会社 新関商店	埼玉県
有限会社 ステラ	埼玉県
有限会社 泰雲堂	八戸市
有限会社 太陽地所	弘前市
有限会社 田名部会館	八戸市
有限会社 種市通信システム	八戸市
有限会社 田村電気工業	八戸市
有限会社 東和ステンレス機材	八戸市
有限会社 はせがわ仕出し店	十和田市
有限会社 ビエロ	八戸市
有限会社 ふじ経営財務事務所	八戸市
有限会社 ブックス齊藤	八戸市
有限会社 報恩	八戸市
有限会社 丸石商事	八戸市
有限会社 丸萬 君塚 泰規	千葉県
有限会社 三浦鉄工所	十和田市
有限会社 大和屋 竹田 勝夫	山形県
ユートリー大震災復興チャリティー実行委員会	八戸市
有料老人ホーム マイライフ	八戸市
裕コレクションズ有限会社	八戸市
油谷 充規	神奈川県
夢コーポレーション株式会社	愛知県
夢の会	三重県
ユラックス株式会社	東京都
百合樹合唱団	八戸市
陽明日本株式会社 熊澤 修	東京都
横井 毬子	富山県
横井 裕美子	富山県
横内 仁亮	東京都
横田 節子	東京都

横田 秀夫	静岡県
横田 真	東京都
横山 昭子	埼玉県
横山 正展	福岡県
横山 雄一	東京都
吉岡 健一郎	神奈川県
吉岡リサと東京応援団	東京都
吉澤 喜久子	埼玉県
吉田 暁宣	大阪府
吉田 紀美男	八戸市
吉田 幸一郎	東京都
吉田 省吾	埼玉県
吉田 卓史	埼玉県
吉田 剛	八戸市
吉田 強	沖縄県
吉田 智昭	福岡県
吉田 平八郎	千葉県
吉田 政雄	八戸市
吉田 正博	八戸市
吉田 真理子	兵庫県
吉田 雄二	東京都
吉田 佳也	東京都
吉田 理恵子	東京都
吉田 良子	八戸市
吉永 博美	東京都
吉野 俊隆	神奈川県
吉野 伸彦	埼玉県
吉原 利枝	東京都
吉水 知恵美	長野県
米内山 栄悦	八戸市
米谷 幸子	大阪府
米山 清美	兵庫県
米山 三彩江	神奈川県
善峰 布美子	大阪府
ライオンズクラブ 国際協会332-A地区 キャビネット	十和田市
ライオンズクラブ国際協会332-A地区3R3Z	中泊町
ライオンズ国際協会 332-A地区 5Rライオンズクラブ	八戸市
蘭州市基督教徒有志	中国
蘭州徳久益人日本語学校	中国
立正佼成会 一食平和基金	八戸市
立正佼成会 八戸教会	八戸市
龍生派八戸支部	八戸市
類家 武恒	外ヶ浜町
連合青森三八地域協議会	八戸市
六戸町	六戸町
六ヶ所村	六ヶ所村
若王子 栄	千葉県
若狭 みゆき	千葉県
わかさぎ保育園 父母の会・職員一同	東北町
若松 みさを	八戸市
若松 義信	八戸市
若柳流 柳永会 若柳 竹永	八戸市
鷲谷 和彦	京都府
和田 國雄	三戸町
和田 チヨ	東北町
和田 正雄	神奈川県
和田 雅文	六戸町
綿貫 正樹	東京都
渡辺 明子	京都府
渡辺 久美子	新潟県
渡邊 恒	八戸市
渡辺 久子	東京都

渡邊 浩崇	埼玉県
渡辺 美智子	愛知県
渡辺 稔	神奈川県
綿貫 正樹	東京都
和藤 由紀	神奈川県
我喜屋 千枝子	八戸市

3 市庁舎内に置き去られた4,000万円

発見時の状況

平成23年10月27日(木)午後1時15分頃、市庁舎別館1階多目的トイレ内に置かれた手提げ袋を清掃作業員が発見した。八戸警察署に連絡し一緒に中身を確認したところ、八戸市長あての手紙と共に現金4,000万円が入っていた。

手紙には、『同じ東北人として、東北の方々が大変な思いをしておられるのをテレビ等で見ると、胸が痛くなり涙する者です。青森県民の被災者の分を除いて岩手県、宮城県、福島県の方々へ各1,000万円ずつお手配、お手続を八戸市長にお願いしたい。』という旨が記載されていた。

手紙の内容により震災被災者のためという目的が明確であること、宛名が八戸市長であることから、八戸警察署と協議の上、遺失物としてではなく寄附行為であると判断した。

現金の送金

贈られた方の御趣旨に沿って義援金として手続を進めることとし、岩手県、宮城県、福島県の3県については、各県に出向いて贈られた方の意向を直接伝えた上で、平成23年11月30日に各県の指定口座に1,000万円ずつ振込みを行った。

また、青森県分については、直接被災した八戸市、三沢市、おいらせ町、階上町の4市町で協議の上、人口割合に応じて分配することとし、八戸市751万円、三沢市128万円、おいらせ町75万円、階上町46万円を平成23年11月25日に送金した。

八戸市分の751万円は、災害見舞金として被災者に配分された。

4 災害ボランティアセンター

平成22年6月に締結した八戸市と八戸市社会福祉協議会の「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」に基づき、市では発災直後から災害ボランティアセンター開設に向けた準備を進め、平成23年3月14日に八戸市総合福祉会館にセンターを開設した。

センターは平成23年5月31日までの79日間開設され、期間中はボランティアの募集・受付、ボランティアニーズの募集・受付、ボランティア希望者とボランティアニーズのマッチングやボランティアの送り出しなどが行われた。

ボランティアの活動内容としては、市川地区を始めとする被災地区での家屋からの泥出し、ごみ出し作業、家具の運び出しなどであった。



八戸市災害ボランティアセンターの運営状況

○運営スタッフ：八戸市社会福祉協議会、県内社会福祉協議会応援職員、災害ボランティアネットワーク八戸を構成する八戸市、災害ボランティアコーディネーター連絡協議会、八戸青年会議所、市民ボランティアサークル「いのちの輪」など

○ボランティア登録者数：1,262人

【内訳】

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
516人	318人	175人	105人	76人	52人	5人	15人

○実働数：延べ2,392人

○対応件数：412件

5 ボランティア活動団体による支援

災害ボランティアセンターを通じた支援活動のほか、市民レベルで多様な被災者支援が行われた。

主なものとして、市内で被害が最も大きかった市川地区では、多賀地区応援隊(市川地域連合町内会)が地域の災害対策本部を立ち上げ、被災家屋での掃除やごみ出しのほか、義援金や救援物資の分配、生活用品の提供を行った。

そのほかにも、市内の市民活動団体である「ハチドリプロジェクト」や「女性まちづくり塾生の会」などによる生活用品マッチング事業では、被災世帯から生活用品の希望を受け付けるとともに、一般市民から無料で提供可能な生活用品を募集し、被災者への橋渡しを行った。

また、「八戸友の会」による避難所での食事の準備や「動物愛護支援の会八戸」による被災者のペットの保護など、地域コミュニティ活動団体や市民活動団体による多種多様なボランティア活動により、多くの被災者が支えられた。



6 避難者への入浴サービス

避難所に避難している被災者に対し、市内外の入浴施設が入浴サービスを実施した。入浴サービスを行ったのは、グランドサンピア八戸、五戸町のまきば温泉、六ヶ所村のろっかぽっかで、それぞれが自社のバスで各避難所を巡回し、被災者を送迎した。

また、海上自衛隊八戸航空基地では、体育館に避難している被災者に基地内の入浴場を開放し、入浴支援を実施した。

津波で被災した自宅の後片付けを行いながら避難所で避難生活を送る被災者は、入浴サービスで心身の疲れを癒やしていた。

7 三沢基地アメリカ赤十字ボランティア・フランス災害救助隊

平成23年3月16日、津波により被災した八戸市水産会館から、職員らが什器類を搬出していた。海水に浸った畳等は非常に重く、泥まみれで足場の悪い室内からの搬出に手間取っていたところ、迷彩服姿の外国人数名が作業に加わった。水産会館内を見たところ、十数名の外国人が、什器類の搬出や建物内からの汚泥撤去に協力していた。迷彩服には「U.S.AIR FORCE」の胸章があった。

同日午後、米空軍兵並びにその家族約80名と日本人コーディネーターが訪れ、三沢空軍基地のアメリカ赤十字によるボランティア活動であることが判明した。コーディネーターによると、自主的に活動に来て午前中は民間企業の支援に入ったが、意志疎通が困難だったため、単純作業による協力が可能な場所を探していたとのことであった。この日は、水産会館の什器類搬出と泥出しを夕方まで行った。

三沢空軍基地アメリカ赤十字ボランティアによる漁業関連施設への支援作業は、3月17日、18日、21日、22日も継続して行われ、このうち21日及び22日には、フランスの災害救助隊約80名も加わった。フランス災害救助隊は、岩手県及び宮城県で行方不明者の搜索活動をしていたが、東京電力福島第一原子力発電所の事故で三沢基地へ避難することになったため、当市での活動を行うこととしたとのことであった。

この支援作業により、水産会館、魚市場施設及び各漁港では、土砂やがれき等の撤去が迅速に進み、復旧作業への大きな足掛かりとなった。また、漁業関連施設の復旧の目処がついたところで、支援は農業分野へ切り替えられた。

3月28日から、津波被害を受けた市川町橋向地区や下揚地区等で、全半壊したいちご農家のビニールハウスの解体・撤去作業や解体資材の集積のほか、保安林及び水田等へ散乱した漂着物やがれきの集積、清掃活動等が4月15日まで続けられた。

軍人や家族、基地の従業員等が休日に自主参加することもあり、被災した農業者や地区の住民は「非常に

ありがたい。感謝している。」と語っていた。

4月16日、完成検査の直前で被災した荷さばき所A棟周辺は、臨港道路、用地舗装及び護岸の破損が著しく、これまで土砂撤去が困難な状況であったが、ボランティアの車両を持ち込んで撤去することとなった。この日は、東日本大震災の被害状況を視察した米太平洋空軍司令官のゲイリー・ノース大將も支援作業に加わっている。

三沢空軍基地アメリカ赤十字ボランティアは、さらに被害の大きい岩手県野田村で支援を行うこととなり、この日をもって当市での支援は終了した。



■ 水産業分野への支援

月 日 等		支援箇所	作業人員	支 援 内 容
3月16日	午前	水産会館	80人	什器類の搬出、建物内の泥出し
	午後			
3月17日	午前	卸売場	80人	サポート・パレット類の搬出
		水産会館	20人	建物内の泥出し、土砂の運搬
	午後	第三魚市場	140人	側溝の土砂除去、サポート類の片付け
		水産会館	20人	側溝の土砂除去
3月18日	午前	第三魚市場	40人	側溝の土砂除去
		水産会館	20人	建物内の床面清掃・洗浄
		館鼻漁港	40人	側溝の土砂除去、がれき集積
	午後	第三魚市場	40人	建物内の土砂除去
3月21日	午前	館鼻漁港	80人	側溝の土砂除去、がれき集積
		大久喜漁港	80人	漁港内のがれき集積
	午後	館鼻漁港	80人	漁業用作業保管施設のがれき集積
3月22日	午前	館鼻漁港	80人	漁業用作業保管施設のがれき集積
		鮫浦漁港	80人	漁港内のがれき集積
	午後	館鼻漁港	80人	漁業用作業保管施設のがれき集積
		第二魚市場	80人	駐車場の土砂除去
4月16日	午前	第三魚市場 A棟	80人	トラックヤードの土砂除去
	午後			

■ 農業分野への支援

月 日 等		支援箇所	作業人員	支 援 内 容
3月28日	午前	市川町字堂ノ下	100人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
	午後		80人	
3月29日	午前	市川町字下揚	80人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積・トラック積込み
	午後		80人	
3月30日	午前	市川町字市川	100人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
	午後		100人	
3月31日	午前	市川町字橋向	80人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
	午後		80人	
4月1日	午前	市川町字橋向	80人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
	午後		80人	
4月2日	午前	市川町字古館	80人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
		市川町字浜	40人	
	午後	市川町字浜	80人	保安林内の漂着物集積
			40人	イチゴビニールハウス解体、資材集積
4月3日	午後	市川町字橋向	80人	水田の漂着物集積
4月4日	午前	市川町字浜	50人	イチゴビニールハウス解体、瓦礫集積
	午後		50人	
4月5日	午前	市川町字浜	30人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
	午後		30人	
4月6日	午前	市川町字浜	80人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
	午後		80人	
4月7日	午前	市川町字橋向	40人	がれき、漂着物のトラック積込
		市川町字浜	40人	保安林内の漂着物集積
	午後	市川町字橋向	40人	がれき、漂着物のトラック積込
		市川町字浜	40人	保安林内の漂流着集積
4月11日	午前	市川町字堂ノ下	30人	イチゴビニールハウス解体、解体資材の集積
	午後		30人	
4月12日	午前	市川町字下揚	80人	水田の漂着物・がれきの集積、水路の土砂除去
	午後		80人	
4月13日	午前	市川町字下揚	60人	水田の漂着物・がれきの集積、水路の土砂除去
	午後		60人	
4月14日	午前	市川町字下大川端	50人	水田の漂着物・がれきの集積、水路の土砂除去
	午後		50人	
4月15日	午前	市川町字下大川端	80人	水田の漂着物・がれきの集積、水路の土砂除去
	午後		80人	

8 災害協定に基づく支援

八戸市では、東日本大震災までに、災害時の物資提供や自治体間の相互応援に関する31の協定を締結していた。

震災発生直後は電話がつながりにくい状況となり、協定を締結している民間企業や自治体と連絡を取ることも難しい状況であったが、震災直後から復旧に至るまでに19の協定を運用し、被災者支援や復旧活動に当たった。

■ 協定運用状況一覧

	協 定 等 名 称	締 結 相 手 方	支 援 内 容	支援期間
1	青森県消防相互応援協定	県内全市町村及び消防事務を処理する一部事務組合	応援隊員及び消防車両の派遣	3/11～3/12
2	大規模災害時の「南部藩ゆかりの地」相互応援に関する協定	南部町(山梨県)、身延町、盛岡市、遠野市、二戸市、七戸町、三戸町、南部町	南部町(山梨県)より、お茶(500ml×4,800本)、マジックライス(600食)の提供	3/21
3	大規模災害時における建築物等の解体撤去に関する協定	青森県解体工事業協会県南支部	道路支障物(建築物)の解体撤去	3/18～3/28
			被災建築物等の解体及び解体廃棄物の運搬	5/11～24.3.31
4	特例市災害時相互応援に関する協定	全特例市	群馬県伊勢崎市より毛布(2,000枚)、缶詰パン(300食)の提供	3/13
5	大規模災害時の青森県市町村相互応援に関する協定	県内全市町村	青森市、弘前市、黒石市、平内町、新郷村よりおにぎり、飲料水等の提供	3/13、3/17、3/18
6	災害時における支援協力に関する協定	(株)サンデー	物資(ロープ等)の供給	3/12～3/22
			災害ボランティアセンターの運営に係る物資(FAX、軍手、ゴム手袋、スコップ、マスク等)の供給	3/13～3/15
7	大規模災害時における八戸・久慈・二戸の三圏域に係る市町村相互応援に関する協定	三圏域構成市町村	八戸市からおいらせ町にレトルト食品(240食)提供	3/22
8	災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定	青森県生活協同組合連合会	カップ麺、菓子パンの供給	3/11～3/12
9	災害時における支援協力に関する協定	(株)ユニバース	物資(カップ麺、缶詰等)の供給	3/11～3/14
10	災害時における支援協力に関する協定	(株)三光	お菓子、お茶、ふりかけの供給	3/12～3/22
11	災害時における支援協力に関する協定	(株)よこまち	物資(パン、乾電池等)の供給	3/11～3/21
12	災害時におけるレンタル機材の提供に関する協定	青森県建設機械リース業協会八戸支部	市川地区への仮設トイレの設置(3～4基)	3/15～5/31
13	災害時における支援協力に関する協定	(社)八戸建設業協会	道路支障物(土砂等)の解体撤去	3/18～3/26
			農業用排水路及び農地に堆積した土砂や災害ごみの集積運搬作業	4/21～6/30
			被災建築物等の解体及び解体廃棄物の運搬	5/11～24.3.31
14	災害時における支援協力に関する協定	協同組合八戸中央建設業協会	道路支障物(土砂等)の解体撤去	3/18～3/26
			農業用排水路及び農地に堆積した土砂や災害ごみの集積運搬作業	4/21～6/30
			被災建築物等の解体及び解体廃棄物の運搬	5/11～24.3.31
15	災害時における復旧活動の協力に関する協定	東北電力(株)八戸営業所	停電復旧工事用車両置場として長根運動公園を提供	3/11～3/17
16	災害時における支援協力に関する協定	(株)イトーヨーカ堂 八戸臨海開発(株)	イトーヨーカ堂より米の供給	3/12
17	災害時の情報交換に関する協定	国土交通省東北地方整備局	情報連絡員(リエゾン)を受け入れ、被害状況等の情報交換を行う	3/14
18	災害時におけるボランティア活動等に関する協定	社会福祉法人八戸市社会福祉協議会	災害ボランティアセンターの運営	3/14～5/31
19	災害時における飲料の供給に関する協定	アサヒカルピスビバレッジ株式会社	県経由で飲料水(500ml×23,040本)の提供	3/12

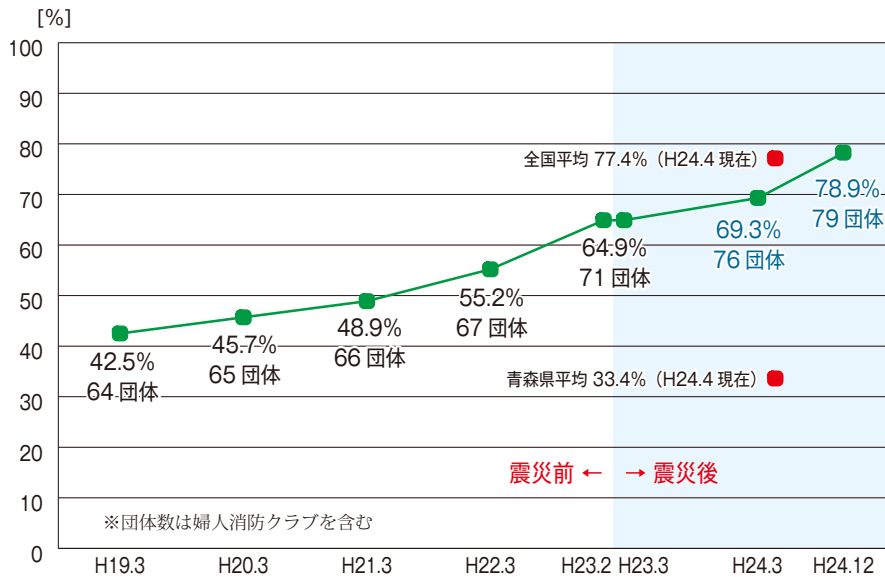
4-20 自主防災組織の活動

1 自主防災組織の活動、組織率の推移

震災発生時、市内には71の自主防災組織があり、沿岸部の自主防災組織を中心に、避難誘導や避難所運営などに大きな役割を果たした組織があった。また、震災を契機として自主防災組織を組織していない地域でも設立の機運が高まるなど、その重要性が改めて認識されている。

<組織率の推移>

震災前後における市内の自主防災組織の組織率の推移は次のとおりである。

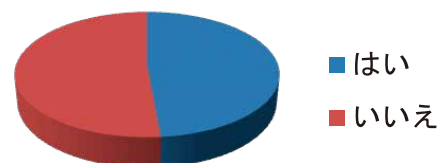


<自主防災組織の活動>

東日本大震災前の平成23年2月時点で設立されていた自主防災組織は71団体(婦人消防クラブ17団体含)であった。その中の35団体に対してアンケート調査を実施し、東日本大震災時の活動等について検証した。

1 自主防災組織は活動しましたか。

- はい 17
○ いいえ 18

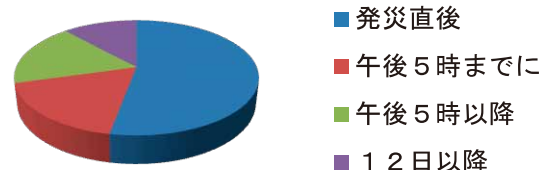


活動できなかった主な理由

- ・ 目立った被害がなく、特に活動の必要性がなかった
- ・ 町内の人に防災パンフレットを渡していたので、それぞれで行動してくれた
- ・ 自分のことで精一杯で、自主防災会の活動をする余裕がなかった
- ・ 単町単位の組織なので、動ける役員が少なく活動できなかった
- ・ 自主防災会を設立したばかりだったので、指示系統が機能しなかった

2 活動を始めたのは、地震発生後何時頃からでしたか。

- 発災直後 9
○ 午後5時までに 3
○ 午後5時以降 3
○ 12日以降 2



3 活動を行った会員は何人ですか。

- 10人以上 8
○ 4人～9人 7
○ 3人以下 2



- 10人以上
■ 4人～9人
■ 3人以下

4 どのような活動をされましたか。

- 避難誘導 5
○ 安否確認 14
○ 被害状況把握 5
○ 避難所開設 9
○ 避難所運営 8
○ 炊き出し 5
○ がれき撤去・清掃 2
○ その他 4
・ 広報活動
・ 交通整理
・ 石灰、消毒剤の配布
・ 避難者の見守り



- 避難誘導
■ 安否確認
■ 被害状況把握
■ 避難所開設
■ 避難所運営
■ 炊き出し
■ がれき撤去・清掃
■ その他

5 上記の回答の中で、自主防災組織として最も効果があった活動はどれですか。

- | 活動 | 人数 | 理由 |
|------------|----|---|
| ○ 安否確認 | 1 | ・ 地域住民の安心につながった |
| ○ 避難所開設 | 2 | ・ 公民館長が自主防災会の副会長をしているので、迅速に開設できた |
| ○ 避難所運営 | 3 | ・ 以前に経験していたのでスムーズに活動できた |
| ○ 炊き出し | 1 | ・ 活動する前にしっかりと段取りをした |
| ○ がれき撤去・清掃 | 2 | ・ 多くの人手が必要な活動だった
・ 活動する前にしっかりと段取りをした |
| ○ 広報活動 | 1 | ・ 自営業者が中心の自主防災会が、サラリーマン中心の消防団より早く活動することができた |



- 安否確認
■ 避難所開設
■ 避難所運営
■ 炊き出し
■ がれき撤去・清掃
■ 広報活動

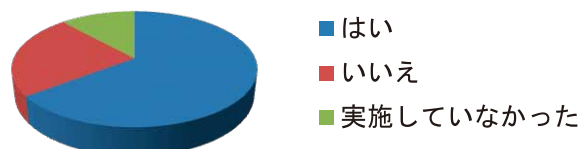
6 自主防災組織だけではできなかった活動はありますか。

		理 由
○ 避難誘導	2	
○ 安否確認	4	・ 災害時要援護者のリストがないので、民生委員との連携が必要 ・ 誰がどこに避難しているのか分からない
○ 被害状況把握	1	
○ 避難所開設	2	・ 自主防災会の活動として想定していなかった
○ 避難所運営	1	
○ 炊き出し	2	・ 停電のため、電気が使用できなかった
○ その他		
・ 全ての活動	3	・ 自主防災会の役員が少ない ・ 自分も被災しているので、自助が優先となり、共助の活動まではできなかった ・ 自主防災会の役員間で連絡を取り合う手段がなかった ・ 活動には危険が伴う ・ 居合わせた人で活動するしかなかった
・ な し	2	・ 被害がほとんどなかったので、自分達だけで活動できた ・ 公民館や民生委員、他の機関も組織の中に入っているため、自主防災会として活動できた



7 東日本大震災では、今まで実施してきた防災訓練は役立ちましたか。

○ はい	11
○ いいえ	4
○ 実施していなかった	2

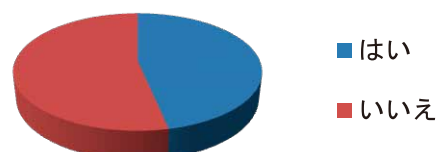


8 今後、必要だと感じた訓練はありますか

- ・ 避難所運営訓練
- ・ 身近な物を使用しての救出・救護訓練
- ・ 津波避難に関する訓練
- ・ 夜間訓練
- ・ 災害時要援護者の避難誘導訓練
- ・ 震災時、レトルト・保存食を使った炊き出しでは、ボリュームを含め、満足感が得られないようだった。食べ慣れた食材を使った炊き出し(訓練)が必要

9 自主防災組織は、活動する上で機能しましたか。

○ はい	7
・ 地域を2つのエリアに分け、2班体制で活動したので機能した	
・ 被害がほとんどなかったこともあるが、十分に機能した	



- ・自主防災会、火防組合、婦人消防クラブの3団体で組織を編成しているので、機能した
- ・本部がうまく機能した

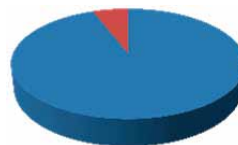
○ いいえ 8

- ・自主防災会の母体である連合町内会のことよりも、自分の町内のことを優先せざるを得なかった
- ・単町単位では組織が小さい
- ・自主防災会としての活動の経験不足
- ・他の役員に声を掛けるべきか悩んだが、一人で活動した
- ・公民館への協力体としての活動になった
- ・どちらかといえば、町内会としての活動になった
- ・自主防災会の活動に、地震・津波の想定をしていなかった
- ・津波に対する訓練をしていなかったなので、活動するためのノウハウがなかった

10 自主防災組織を設立していてよかったですか。

○ はい 16

- ・防災意識を共有できる
- ・避難誘導や、情報収集・伝達がうまくできるようになった
- ・少しずつ防災に対する意識が高まってきており、訓練の実施がその動機付けになっている。そのことが、被害がほとんどなかったという状態につながったと思う
- ・地域住民の安心につながる
- ・高齢者は地震が起きただけで不安になるため、頼る場所が必要。その場所を提供できたし、地域の頼れる存在になってきている



■ はい
■ いいえ

○ いいえ 1

- ・被害がなかったなので、自主防災会の活動がない

11 東日本大震災を振り返って、課題や後世に伝えたいことはありますか。

- ・普段から、地域の人とのつながりを深めることが大切
- ・大災害のときこそ、自助・共助が大切である
- ・避難所では、停電が何より困った
- ・リーダーの育成
- ・非常持出品を身近な場所に準備しておくこと
- ・災害はどこにでも起こりうるということを認識する
- ・「自分の地域は災害がこないから」という考えを持つことなく、自主防災組織は設立した方がよい
- ・一時避難場所として、地域集会所の認識が徹底されていなかった
- ・自主防災会の役員が、全員集会所に集まることの申合せができていなかった
- ・自分の町内の災害時要援護者を把握しておくこと
- ・災害時要援護者の避難誘導訓練の実施
- ・防災資機材の使用方法的習熟
- ・自主防災会発足当初はメンバーが変わらないので対応できるが、5～6年たつとメンバーも変わるので、それまでどおりの対応を継続できるか、難しくなる
- ・過去の災害を忘れてはいけない

【検 証】

東日本大震災時に、防災活動をした自主防災組織は49%である(婦人消防クラブを除く)。活動のなかった組織の大半の理由は、「被害がなく、特に活動の必要性がなかった」というものであったが、「自分のことで精一杯」という理由がみられ、活動した組織の中にも、「自分も被災しているので、自主防災会だけでは十分な活動はできない」という回答があり、「自助」あってこそその「共助」であるということと、地域の他団体との連携の大切さが再認識された。

組織の規模という点では、「単町単位(約600世帯)の組織なので、動ける役員が少ない」「単町単位(約500世帯)では組織が小さい」という回答がある一方で、「自主防災会の母体である連合町内会(約5,400世帯)よりも、自分の町内のことを優先せざるを得なかった」という回答もみられた。このような回答がみられる中でも、地域を2つのエリアに分け、2班体制で活動して効果を上げた組織(840世帯)もあり、効果的に防災活動を行うための、組織の規模・体制を考える上で、参考になるものと思われる。

自主防災組織の活動は、安否確認や炊き出しを含めた避難所での活動が大半を占めた。それらの活動は自主防災組織だけでは難しいため、民生委員や公民館等との連携の重要性が訴えられる結果となった。

震災時の活動の困難さの一方で、活動した自主防災組織の94%が「設立していてよかった」と回答している。震災後は、休止状態であった組織も活動再開の準備をしている団体もあり、沿岸部の組織では、津波避難に関する会議の開催や訓練の実施など、震災の教訓を生かした活動が既に始まっており、地域防災は確実に前に進んでいる。

今回のアンケート調査から、大規模な災害時に「自分たちの地域は自分たちで守る」ためには、自主防災組織、民生委員、公民館等の連携が必要不可欠であり、自主防災組織の効果的な活動のためには、それぞれの「自助」が重要である、ということが再認識される結果となった。

4-21 統一地方選挙への対応

1 青森県議会議員選挙・八戸市議会議員選挙の実施

東日本大震災の被災地の統一地方選挙を延期する特例法により、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の選挙が延期された。

しかし、青森県は国が指定する「東日本大震災の影響により選挙の期日を延期する地域」の対象とならなかったため、第17回統一地方選挙(青森県議会議員選挙(選挙期日：平成23年4月10日)及び八戸市議会議員選挙(選挙期日：平成23年4月24日))について、予定どおり執行された。

選挙の執行に当たっては、被災者の投票の利便性を図るため、市内沿岸部の被災者や避難所への避難により各投票所へ出向くことが困難となった有権者を対象に、各投票所への無料送迎バスを運行した。

青森県議会議員選挙の際には、選挙の前日(4月9日)に、被災地3地区(浜市川地区、湊地区、南浜地区)及び8か所の避難所から期日前投票所である八戸市庁への送迎のための運行を行った。選挙当日(4月10日)は、浜市川と湊地区の2地区で運行し、浜市川地区では投票所である多賀小学校への送迎のため同地区を循環運行した。湊地区では、これまで投票所としてきた新湊はますか保育園が津波で被災したことにより使用できなくなったため、同施設で投票予定であった有権者の投票場所を、暫定的に近隣の投票所である湊小学校へ変更した。これにより、距離的、地形的に投票所へ出向くことが困難となった有権者の投票支援のため、新湊はますか保育園周辺から湊小学校へ送迎のためのバスを運行した。

八戸市議会議員選挙では、選挙の当日(4月24日)、青森県議会議員選挙と同様、新湊はますか保育園と湊小学校間を運行した。